

始







除却  
京橋

江戸  
や  
や  
や

あ  
り  
ま  
す  
の  
う  
ち  
の  
う  
ち



76W10836



天正屋本店

三三四四(56)橋京話電

九ノ三町舟入区橋京市京東



# 婦人洋装身具

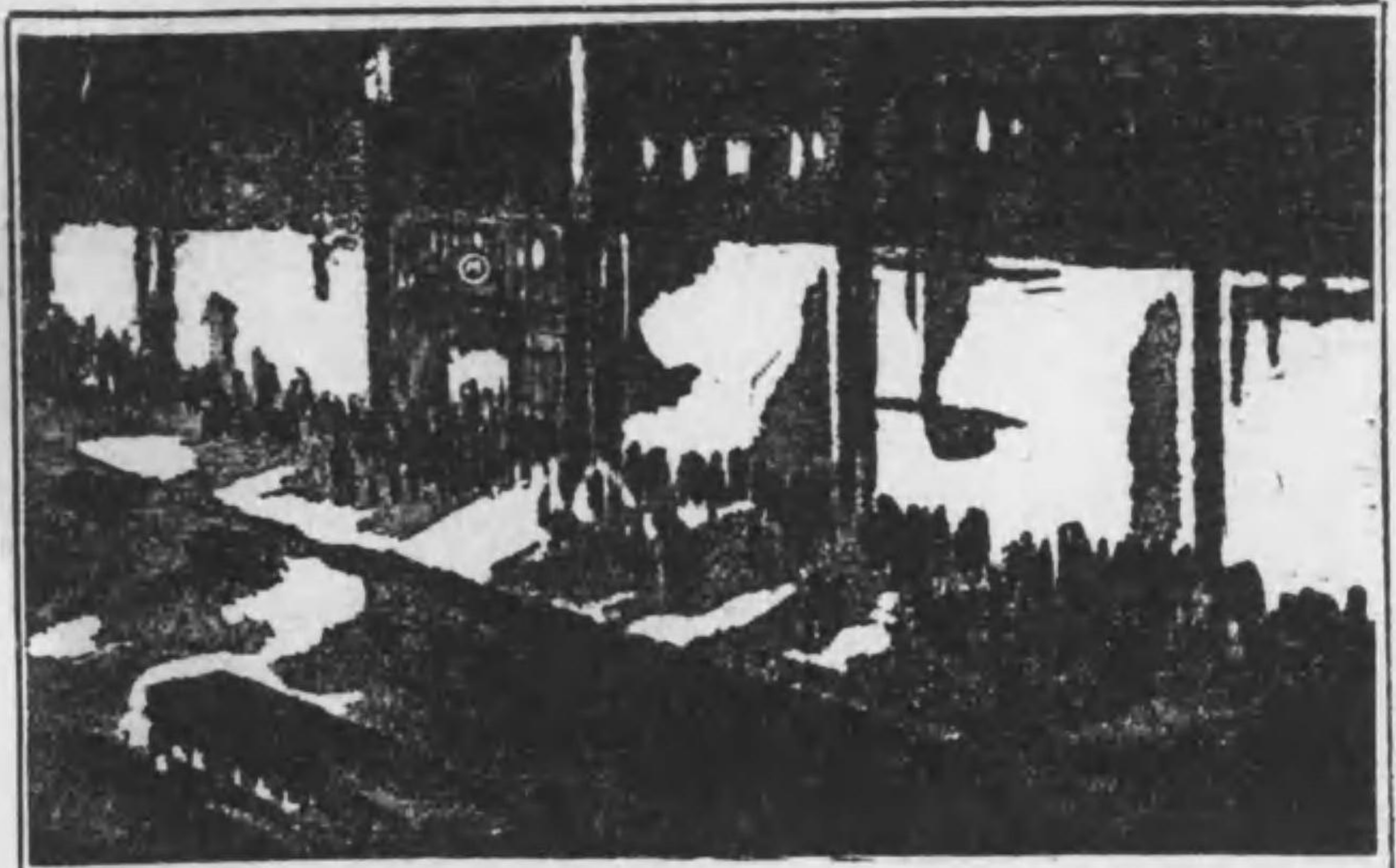
## 特選雜貨部 新設

ア・ラ・モードは  
當店より!



店商七庄本宮

東京市本区本町三丁目  
 電話 三〇六・三〇六  
 支店 東京市本区本町三丁目  
 電話 三〇六・三〇六  
 支店 東京市本区本町三丁目  
 電話 三〇六・三〇六



外に満足なサービス  
内には計數を基礎に

伸びる百貨店の經營に  
なくてはならぬ

### ナショナル金銭登録器

創業五十餘年の歴史  
種類五百餘種  
最も精練された鋼造製  
販賣臺數三百三十餘萬  
値段二百五十五圓より  
月賦拂の便應御相談  
資料第一〇〇號送呈



ナショナル金銭登録器株式会社

東京市京橋區銀座三丁目二番地  
 大阪 札幌 仙台 横濱 新潟 名古屋  
 京都 神戸 岡山 福岡 大連 京城







古來有名な  
本場の純粹椿油に就いて

御承知の如く本場大島の椿油は最良の毛髪油として知られ、養毛美髪の効果は實に驚くべきものがございます。髪を愛さるゝ方々に取りましては如何に羨望の的であるか計り知れません。然し乍ら餘りにも偽物が多く殆んど今日では此の本物は一般御客様方々の手に入らない有様でございます。椿油は製造者より直接責任付のものを御取引願はないと申す。物は御手に入らないばかりでなく御安く御仕入れも出来ないかと存じます。

既に御承知の如く弊社は本場の元祖として最も確實な信用を賜り最も完備した設備で全産額の約八割を一手に製造して貯りまして、品質は絶対保証付の純粹もので、優良さに於きましては諸官公試所所で本邦中最良のものとして折紙を付けられて居ります。

斯 界 の 威 權

▲試見本品無呈

本場伊豆大島純粹椿油製造元祖

大島椿  
純粹香油  
椿ボマード  
椿チツク  
椿髪洗粉  
製造元

大島椿製油所

伊豆大島元村  
電話 元村一八八番  
振替東京一八八番  
東京市小石川區香取五丁目  
電話 牛込三三三〇番  
振替東京七三三一九番

東京に  
唯一軒の専門店

五 大 業 營 目 種

- 羅 紗 日本毛織株式會社の優良羅紗
- 絹 服 地 帝國製糸會社權屬工場の製品
- 線 製 品 直營サンエイ工場の商品
- 麻 服 地 直營工場の自慢製品
- 殊 殊 輸 入 羅 紗 高級品の精製

ニツケの羅紗は國産の最高級品として他の追隨を許さず品質優秀しかも大量生産に依り價格の至廉を誇る。近代科學の進歩せる工場設備と優秀なる技術とを以て絹レインコート及び絹服地の新製品を續々製造し、就中保價生糸を原料とする點に最大特徴を發揮しその全國一手販賣權を有す。合理的工場經營の結果實に於ても價に於ても斷然一頭地を抜き在來のものとは段の相違ある逸品を製造す。工場施設の完備は必然的に優秀品の生産を促し帝國製糸製品と重ひ稱せられ業界の二大双輪たり。三十年來輸入の經驗を重ね高級逸品の供給常に業界唯一の定評あり。

日本毛織株式會社  
帝國製糸株式會社  
殊 殊 羅 紗 入 販 販 販



株式會社

竹馬商店

（劍菱屋）  
神戸・東京・大阪・京都・大連・奉天

獨 創 的 製 品

本國基レインコート (衆人過望の的なるもの) 濃質生糸處分のため非常時日本の産業問題解決を自し愛國心の命するに從ひ國産生糸を原料とする本絹コッキー・レインコートを作製。國産の土と共に我國産業水運の確保を期せんとするものとして在來の絹レインコートに於ける缺點を完全に除去し練染に依る染色の堅牢通風性、重防水加工耐久性强く優美なる雅品なり。

サンエイ・レインコート (ババリーレインコート界に冠たるもの) 防水の完全塗織の絕對保証堅牢優美なる點に於て好評沸くが如し。

サンエイ・チャツクパンツ (新案特許の晴雨服用パンツ) 體裁スマートにして甚だ便利なる實用品なり。



商標



登録

# 靴下はロイヤル

発売元

大阪ハリキン商店

大阪市東区備後町二丁目志巻地

電話本町(24)圈(志七四五)番(志七四六)番



優美な形と  
意匠の新しい  
名陶の食品



## 株式會社名古屋製陶所

本社	名古屋市東區東芳野町二丁目
弦月工場	名古屋市東區千種町字弦月
山田工場	名古屋市東區山田町
紐育支店	米國紐育市第五街二〇〇
東京支店	東京市芝區新橋四丁目六番地
大阪出張所	大阪市西區北堀江御池通



TRADE CROWN MARK  
懐中電燈及乾電池 電燈器具各種電球

取引銀行

三和銀行東京支店  
安田銀行馬喰町支店



旅行、登山、日用常備品。  
製造商

**加納栄次郎商店**

東京市神田区江川町番地  
電話 園花五九五七、板橋東京二〇六八番

支店 大阪市東區北久太郎町二丁目南角

電話 船場九八二番

工場 { 第一 本所區石原三丁目  
          第二 同                  二丁目  
          第三 足立區千住大川町  
          第四 城東區龜戸四丁目

電氣装品の御仕入は是非  
定評ある弊店へ  
(全国各デパートニアリ)



ユニード印ネクタイ發賣元

**堀 欣 三 商 店**

東京市下谷區西町六七番地  
電話 下谷 四三六七四番







町本 版大・町喰馬京東 業 印トソヨ一洋東  
**店商や俊口濱** **フーチカンハ**

**目次**

世界百貨店要覽の刊行を祝す  
 商工大臣 松本 蒸治  
 世界百貨店要覽發行に當つて  
 百貨店新聞社長 徳永 静峯  
 目次  
 廣告目次  
 日本百貨店商業組合  
 組合の現勢一斑  
 概要及び發端事情  
 變遷及び業績沿革  
 加盟店概要一覽表  
 組合營業統制規定  
 商業組合定款

二九  
 一九  
 一三  
 二九  
 二九  
 三〇  
 三二  
 三三  
 三四

**關東地方**

三越  
 三越の概要  
 大三越の現勢  
 本支店人員表  
 大三越の沿革  
 三越本店  
 三越銀座支店  
 三越新宿支店  
 松坂屋  
 松坂屋の大勢  
 松坂屋上野店  
 松坂屋銀座店  
 松屋吳服店

四三  
 四五  
 四七  
 五一  
 五六  
 七五  
 八三  
 八五  
 九七  
 九八  
 一〇二  
 一〇九  
 一一七



会商布水防福丸 **福** トルークス 録登案新用実  
 22の3町喰馬橋本日京東 用ルセドソラ



大丸京都店	二七三	十合呉服店	三六九
丹神百貨店	二七八	十合呉服店大觀	三七〇
丹神マート	二八〇	十合大阪本店	三七二
地方百貨店名簿(其二關西)	二八一	三越大阪支店	三七七
大丸	二九九	松坂屋大阪店	三八三
大丸の足跡	三〇〇	京阪デパート	三八九
大丸大觀	三〇一	京阪天満店	三九一
稱號とマークの由来	三〇四	京阪天六店	三九二
大丸の特徴	三〇五	井筒屋呉服店	三九三
大丸の沿革	三〇九	三笠屋	三九四
大丸の業態	三一〇	大鐵百貨店(計畫)	三九五
大丸大阪店	三一四	大軌百貨店(計畫)	三九六
阪急百貨店	三一六	丸正百貨店	三九六
阪急現勢大觀	三二五	三越神戸支店	三九七
業態及び特徴	三三六	大丸神戸店	三九九
阪急百貨店沿革	三四二	神戸そごう	四〇四
高島屋	三四五	宮市大丸	四一三
高島屋現勢大觀	三四七	宮市大丸金澤店	四一四
業態及び特徴	三四八	宮市大丸富山店	四一五
沿革と高島屋精神	三五〇	三越金澤支店	四一六
高島屋南海店	三五八	だるま屋	四一八
高島屋長堀店	三六四	地方百貨店名簿(其三關西)	四二二
高島屋ストア	三六六		

規模と本部統制	一一八	京濱デパート	二二一
松屋銀座本店	一一二	今井商店	二二三
今川橋家庭部	一一三	萬崎	二二五
松屋浅草支店	一二六	伊東屋	二二八
白木屋	一三七	東京地下鐵ストア	二二九
白木屋の現勢	一三八	三福	二三〇
業態及び従業員	一四四	東横デパート	二三二
白木屋の沿革	一四九	野澤屋	二三三
分店の部	一五六	小宮呉服店	二三七
高島屋東京店	一六七	松屋呉服店横濱支店	二二九
ストアの現勢	一八一	雜賀屋	二二〇
ほてい屋	一八七	松坂屋静岡店	二二一
伊勢丹	一九七	地方百貨店名簿(其一關東)	二二三
美松	二〇五		
松坂屋本店	二四四	丸物岐阜支店	二五九
稱號の由来	二四六	マルビシデパート	二六〇
松坂屋の沿革	二四八	丸物	二六五
享榮百貨店	二五三	京都丸物の大觀	二六六
十一屋	二五五	高島屋京都店	二六九
浪越百貨店(計畫)	二五七	高島屋ストア	二七一

關西地方



今井商店函館支店	四八六	藤丸呉服店	四八八
今井商店室蘭支店	四八六	地方百貨店名簿(其六東北・北海道)	四八九
丸三鶴屋	四八七		
<b>朝鮮及び滿蒙地方</b>			
三井呉服店	四九一	イビシヤ	五〇〇
丁子屋	四九二	地方百貨店名簿(其七朝鮮)	五〇一
三越京城支店	四九五	三越大連支店	五〇三
平田百貨店	四九六	幾久屋百貨店	五〇四
和信商會	四九七	滿蒙毛織百貨店	五〇五
平安百貨店	四九九		
<b>外國百貨店の壯觀</b>			
亞米利加		ブランヂース	五二九
ウールウオース	五二五	アダム	五三〇
スネルンベルヒ	五二六	ワナメーカー	五三〇
デイトン	五二六	マインシャルフキールド	五三一
アイレス	五二七	ヘンゲラー	五三一
テローア	五二八	ミラー	五三二
フレデリックローザ	五二八	ハローツ	五三二
		ローベツク	五三三
		ハン	五三四

会商布水防福丸 **福** トソヨ一洋東 録登案新用実  
 22の3町喰馬橋本日京東 用ルセドンラ

天満屋	四二九	平井屋	四五五
福屋	四三三	玉屋(佐賀)	四五六
山陽百貨店	四三四	玉屋(佐世保)	四五七
八木百貨店	四三六	岡政	四五九
三越高松支店	四三七	佐々木百貨店	四六〇
地方百貨店名簿(其四西部)	四三八	大手百貨店	四六〇
玉屋呉服店	四四七	丸三デパート	四六〇
松屋百貨店	四五〇	千徳百貨店	四六一
九帆デパート	四五二	川内商業百貨店	四六一
マルキユー百貨店	四九三	明治屋	四六二
たから屋(計畫)	四五四	山形屋呉服店	四六三
		地方百貨店名簿(其五西部)	四六七
<b>東北及び北海道地方</b>			
藤崎	四六七	今井商店札幌支店	四七八
越後屋(計畫)	四七一	三越札幌支店	四八〇
三越仙臺支店	四七二	五番館	四八二
松木屋	四七四	今井商店小樽支店	四八四
青森デパート	四七五	今井商店旭川支店	四八四
宮川呉服店	四七六	金森々屋	四八五

会商布水防福丸 **福** 貨雜ムコ 一バカめしお  
 22の3町喰馬橋本日京東 持前ムゴ  
 一水一本ヤエ



ムーリクスイア **グツマス**  
 巻九〇ハ一坂赤話電  
 会商クツマス京東一池溜・坂赤・京東

ファイリオン	五三四	ヘルマンチーズ(伯林)	五四三
ハドソン	五三五	同(伯林、ライプチヒ街)	五四三
英 利 西		カールスタット	五四四
ハローツ	五三六	ヘルマンチーズ(伯林)	五四四
レヴィス	五三六	同(フランクフルト)	五四五
リバーチー(ロンドン)	五三七	同(伯林、アレキサンダー街)	五四五
リバーチー(ロンドン・リゼント街)	五三七	同(伯林ブルネル街)	五四六
セルフリッチ	五三八	瑞 典	
佛 蘭 西		ノルヂスカ・コンパニイ	五四七
ラファエツト	五三八	ベルグストレーム	五四七
ボン・マルシェ	五三九	ベルグストレーム	五四八
デュール・ループル	五三九	伊 太 利	
ブランタン	五四一	エルモリー	五四八
埃 太 利		リナツセン(マイランド)	五四九
スタフアー	五四〇	リナツセン(パリ)	五五〇
白 耳 義		ソヴェートロシア	
ビジンコウフ	五四一	ムム	五五一
ボン・マルシェ	五四〇	ユーゴスラビア	
土 耳 其		ジョージス・ヤノケウキツチ	五五一
オロスチバツグ	五四二	編輯後記	五五三
獨 逸			

ムーリクスイア **グツマス**  
 巻九〇ハ一坂赤話電  
 会商クツマス京東一池溜・坂赤・京東

「世界百貨店要覽」發行に就いて

百貨店新聞社・社長 徳 永 靜 翠

世界に於ける百貨店の發達は、晩近洵に眼覺ましいものがあります。殊に我國に於けるそれは極めて短時日の間に、驚くばかりの店舗數となり内容を整へて、をさく諸外國に勝ることも劣らぬ進展振りを現はしてゐるのであります。然るに、百貨店なるものの内容に就いては、一般大衆は勿論、百貨店そのものの従業員でさへも明確な智識を有しないのが現在普通の實情であります。



め不體裁を免れない點も多々ある事と存じますが、之は漸を遂ふて改訂を加へる豫定であります。唯、本書の最も特長とする處は百貨店内容の調査に興味本位の讀物を選り抜いて、絶對正確な材料を網羅したといふ確信を有する事であります。此の點各位に於かれましては御安心あつて充分本書を御活用下さるやう希ふ次第であります。

我國に於ては斯の如き目的の下に編纂された刊行物を未だ一つも見ないのであります。此の「世界百貨店要覽」を以て實に嚆矢とする譯であります。従つて編纂に就ても勿々の間に之を纏めました爲



店貨百本日

合組業商



(地在所店本)

(順ハロイ)

名 東 鹿 横 大 佐 福 福 京 大 東 大 札  
 古 京 兒 濱 阪 世 岡 井 都 阪 京 阪 櫻  
 屋 松 島 野 十 玉 玉 だ 高 大 ほ 阪 今  
 坂 屋 山 野 合 玉 屋 る 島 大 急 井  
 服 吳 形 澤 吳 吳 島 丸 百 商  
 店 店 屋 店 屋 店 屋 屋 丸 屋 店 店  
 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店

熊 名 東 金 東 下 岡 仙 廣 銅 京 福  
 本 古 京 澤 京 關 山 臺 島 路 都 岡  
 千 十 白 宮 三 山 天 藤 福 丸 丸 松  
 德 一 木 市 陽 滿 三 鶴 屋 百  
 百 一 木 市 陽 滿 三 鶴 屋 百  
 貨 一 木 市 陽 滿 三 鶴 屋 百  
 活 屋 屋 丸 越 店 屋 崎 屋 屋 物 店





株式  
東京佐々木營業部

日本橋區大傳馬町三ノ一

メリヤス部  
子供用品部  
毛布タオル部  
手袋靴下部

GOOD BYE FRECKLE S  
STILLMAN'S FRECLE CREAM

青樹醫學博士實驗推獎

ソマルチス  
ルワッレフ 用藥  
ムーリク

にスカバソ  
にビキニ  
にけ焼日

使用法

藥然フレツクル石鹼でよく洗顔の上  
フレツクルクリームを塗布して下さい  
必ず思ひの儘の美人になります



●ラツキールリング無代進呈!

同封愛用者カード六枚を發賣元へお送りの方へ

スチルマンラツキールリングを無代進呈致します

全國各デパート藥部部

及化粧品部におあり

鋪本ルワッレフソマルチス

Miss

FUMIKO KAWABATA

定價 75 1.50 2.50  
ダブル .80 3.00  
石鹼 .35

店商田河手一本日  
元賣發給配

谷比日・内ノ丸・京東  
番六七七一座銀話電



機眞寫動活庭家及ラメカ

種各料材眞寫新最



1934年の  
流行をリードする

ライカカメラ

カメラ工作界未曾有の  
新機軸を出して斯界に  
革命的風雲を捲起した  
ライカ、そのスマート  
な型態美と精妙な機構  
とは完全に新時代のカ  
メラファンを捕へて仕  
舞ひました。  
詳細は御照會次第御報  
知致します。

店本會商沼淺

目丁三町室區橋本市京東

所張出及店支

通町寺市都京 町慶順市阪大

條一南市幌札 町西下市岡福

呈贈録型

断然・容姿美時代に

美装の素



在來のキルク又はフェルトの如く一、二圓で破損するものとは違ひ  
本品は三ヶ年以上保證出來る特許種五種を有す



合脚ノ靴

靴用

甲高五  
五五分  
乙三三  
寸

足袋ノ場台 足袋用定價  
甲一 高サ一寸  
乙二 高サ一寸五分  
丙三 高サ二寸五分  
A 三三 新製品  
B 二六 新製品  
C 一六 新製品  
特高豆合高サ一寸五分



東京市神田區須田町一丁目十九  
小柳ゴム製作所  
電話(神田)二六三三八



薬用

# モッコ洗粉

〇〇〇  
五八五  
〇〇五

一度モッコ洗粉を使へば  
誰方でも永久的な愛用者に……  
それはニキビ・ソバカスも治し  
色も白く小皺を取ることに  
はつきりした薬用的  
効果があるからであります



## 謹告

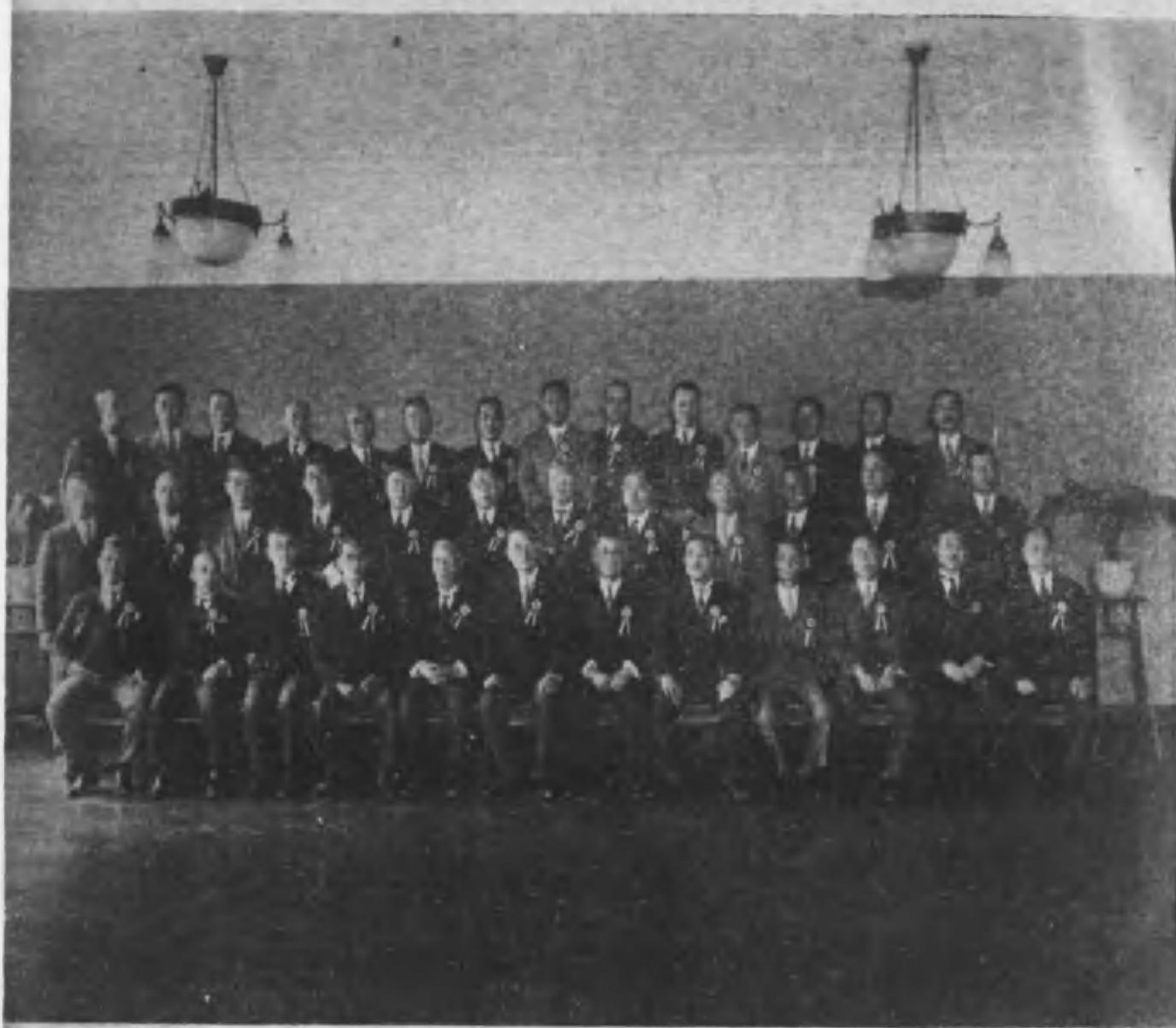
近來本品の優秀にして且つ  
賣行良好なるに依りまして  
粗悪なる不正類似品が見受  
けられますから御買上げの  
節は必ず左の有権商標に御  
注意下さいます様、謹告申  
上げます。

有権商標



東京  
京都  
伊達志め本舗





部業供業工本日於 日九十月四年八和昭

念記會總立創合組業商店貨百本日

- |             |                    |                     |                |               |              |               |              |               |               |                |               |              |              |              |                    |                    |             |             |  |
|-------------|--------------------|---------------------|----------------|---------------|--------------|---------------|--------------|---------------|---------------|----------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------|-------------|-------------|--|
| 同<br>木庭 俊一氏 | 同<br>山本 幸吉氏        | 日本百貨店商業組合<br>伊藤重次郎氏 | 松坂屋<br>桑原益太郎氏  | 白木屋<br>梅田健次郎氏 | 北澤屋<br>北澤平藏氏 | 松坂屋<br>北田内蔵司氏 | 三越<br>岩倉具光氏  | 阪急百貨店<br>野澤屋  | 野澤屋<br>高岡 鐵彦氏 | 小川竹次郎氏         | 高島屋<br>堀 日 文氏 | 布袋屋<br>西國常吉氏 | 十一屋<br>井村德二氏 | 宮市大丸<br>天滿屋  | 門内周太氏              | 日本百貨店商業組合<br>千徳百貨店 | 中列<br>松田慎三氏 | 前列<br>千徳百貨店 |  |
| 同<br>森山冠英氏  | 日本百貨店商業組合<br>山本幸吉氏 | 丸三鶴屋<br>伊藤重次郎氏      | 今井商店<br>桑原益太郎氏 | 古屋惣八氏         | 松屋<br>中林仁一郎氏 | 丸物<br>村松善次郎氏  | 高島屋<br>里見純吉氏 | 大丸<br>野澤屋     | 大丸<br>麻生誠之氏   | 三越<br>伊原木澤平氏   | 天滿屋<br>伊原木澤平氏 | 福屋<br>熊谷直一氏  | 福屋<br>村尾武郎氏  | 山形屋<br>村尾武郎氏 | 日本百貨店商業組合<br>千徳百貨店 | 前列<br>千徳百貨店        | 前列<br>千徳百貨店 | 前列<br>千徳百貨店 |  |
|             | 日本百貨店商業組合<br>山本幸吉氏 | 丸三鶴屋<br>伊藤重次郎氏      | 今井商店<br>桑原益太郎氏 | 故内藤彦一氏        | 松屋<br>殿木三郎氏  | 野澤屋<br>小林八百吉氏 | 松坂屋<br>山田忍三氏 | 白木屋<br>飯田直次郎氏 | 高島屋<br>高島屋    | 玉屋呉服店<br>吉岡伊八氏 | 柳川民吉氏         | 腰崎<br>伊藤俊一氏  | 腰崎<br>伊藤俊一氏  | 腰崎<br>伊藤俊一氏  |                    |                    |             |             |  |



社 會 式 株  
所 業 營 京 東 崎 松  
目 丁 一 町 籠 旅 區 草 淺  
九 七 一 七 ・ 二 三 一 ( 81 ) 草 淺 話 電  
( 目 丁 五 町 瓦 區 東 所 業 營 阪 大 )







# 日本百貨店商業組合

## 組合の現勢一斑

日本全国に亘つて散在する百貨店の統制をとり且つ其改良を發達を圖る目的の下に設置された「日本百貨店商業組合」は

現在一、二流大百貨店廿五企業を網羅し、其本支店六十五店舗を包含して漸く勢力を認められつつある。

而して、右は商工省令に基く商業組合法に據る組合組織で昭和八年八月廿一日付正式認可を受けたものである。本部の事務所は左の如し

### 本部支店事務所

東京市麹町區丸ノ内、海上ビル七四〇號室  
電話 丸ノ内(23)七六六番、二〇八九番  
尙ほ、便宜上、全國を地方別に四大部に分けてゐるが、關



事務長 伊藤重治 氏

東部は本都内に、又關西部事務所は  
大阪市東區備後町 野村ビル五二四號室  
電話 本町 一八五九番

氏は、日本百貨店協會の委員を受け昭和六年六月一日、初めて事務長として協會事務に就任したが、頭腦明晰、責任明確且つ熱誠なるを以て着々組織確立と業績向上の實を挙げ、殊に日本百貨店商業組合結成に就ては東奔西走、異常の努力を惜まず困難を突破し目的達成せし功勞者である

### 事務所の常備員

- (事務長) 伊藤重治郎、(書記) 森山宜英、(書記補) 松田慎三、山本幸三、其他——以上本部詰
- (書記長) 木庭俊一、其他——以上關西支部詰

### 組合役員現任者氏名

尙ほ組合の役員は、別項定款に規定する通り理事、監事及び異議裁決委員の三種であるが、現任者を列記すれば  
(理事長) 三越中村利器太郎、(理事) 今井商店今井雄七  
阪倉岩倉具光、高島屋村松善次郎、玉屋田中丸善八、大



丸里見純吉、松坂屋小林八百吉、福屋熊谷直一、白木屋山田忍三、松屋吳服店古屋惣八  
 (監事)野澤屋殿木三郎、十合木水榮太郎  
 (異議裁決委員)大丸里見純吉、松坂屋小林八百吉、天満屋伊原木藻平、藤崎柳川民吉

### 概要及び發端事情

大商店と中小商店との間には昔から何彼と問題が生ずる。東京に於ける五大吳服店が、内外の事情から結束せねばならぬ状態となつて、懇親會から出發し、漸次範圍も擴大され、社會事情の變遷と共に組織的に進歩を促されて今日組合の確立を見るに至つた事は云ふまでもない。

### 要 概

**五服會時代** 大正八年八月陰曆十五、月明の夜、日本橋區蠣殼町相互俱樂部三階の一室を借りて東京市内の五大吳服店が初めての懇親會を催し『五服會』が生れた。



書記 長  
氏一俊庭木

日本百貨店協會關西支部の設置と同時に、入つて書記長となり、専ら大阪に在つて關西支部の統制に力を盡して治績を挙げ、商業組合設立に當つては伊藤事務局長と力を競せて獻身的努力をなした功勞者である。

### 商業組合

昭和八年四月廿日、日本百貨店商業組合創立總會を、東京丸ノ内工業俱樂部に擧式して、茲に初めて全国的に百貨店を網羅した。即ち従前の日本百貨店協會を員十一企業の外に十三企業を加へ

三越吳服店、松坂屋上新店、白木屋吳服店、松屋吳服店、高島屋京橋店  
**百貨店協會** 大正十三年九月十日「日本百貨店協會」と改稱せられ、關西部が参加し、大阪に支部を設けた。  
 (新参加店)名古屋松坂屋本店、大阪大丸吳服店、京都大丸吳服店、十合吳服店、高島屋長堀店、三越大阪店、白木屋大阪支店、松坂屋大阪店  
 ◆昭和三年二月廿九日、關東側に新加入二店を得た。  
 ◆昭和三十二年二月十日、關西側に新加入二店を得た。  
 ◆昭和七年十二月、協會事務所を蠣殼町中央ビルより現在の海上ビルに移し、大に態形を整へた。

合計廿四企業、各支店を算入して六十三店となつた。其後松屋百貨店(福岡市)新加入、神戸そごう新開店があつて現在廿五企業、六十五店となつてゐる。



氏英宜山森

五服會當時から事務に携はり終始邁直に勤務して功あり、現に組合事務局に於ては最古の參事として事情に精通し、組合にはなくてはならぬ人となつて重きをなしてゐる。

て、事實又三越吳服店を除く外は、白木屋でも松坂屋でもみんな東京吳服小賣商組合に籍を置いてゐた。  
 組合長は松屋吳服店古屋徳兵衛、副組合長伊藤清。千三百有餘の東京吳服小賣

### 端 發

三越吳服店は昔から各地へ出張販賣をなしつつ非常に好評を博してゐた。然し反面地方の吳服店が其の爲め脅威を受けたのは事實らしく、明治四十二年五月には早くも弘前に於て非常な反對妨害を受けた記録さへある。でもそれは何等直接原因になつた譯でもなかつた。

歐洲大 直後の全国的馬鹿景氣は、物價暴騰に伴ひ凡ゆる市場に狂亂状態を現出した。而して東京は當然その渦巻の中心になつてゐたのである。  
 當時今日の百貨店は既に大體實質的に所謂百貨店の熊形を備ふるに到つてはゐたが、その悉くが未だ何々吳服店と云ふ屋號を用ひ、雛鳥のお尻に卵の殻が残つてゐる有様であつ

商組合員が、其中僅々數店の大吳服店の壓迫に苦しみ始めたのは、實に亂調子賣崩し競争が此の大吳服店相互の間に於て極度にまで激烈になつて其の餘波を受けた事に端を發する。直接原因となつた一例は、吳服屋の一枚看板と云はれた無地モスリンの賣崩し競争である。當時仕入原價一ヤール(例の延尺を加へて一尺四寸位)につき一圓十錢内外につく物を、日々刻々競り下げて、最後には賣價一尺三十九錢までに原價を割るやうになつたので、中小吳服屋では到底そんな犠牲を敢てして客を呼ぶ事は叶ふべくもなかつた。然し、如何に大吳服店と雖も、商賣道の原則に反する斯の如き暴舉が永續出来る筈もなく、一方中小吳服屋は大吳服店から無採算に安いモスリンを買つて歸つて販賣するといふ始末になつては、却つて大吳服店お互が苦しくなつて行つたのも止むを得ない事情であつた。



日本百貨店商業組合 加盟店概要—順序不同						
店名	本館所在	創業ノ時	營業建物延平數	代表氏名	組織	
<b>關 東 部</b>						
三越	東京市	延寶元年7月	15,380坪	専務 中村利器太郎	株式	
松屋呉服店	同	明治二年	6,914坪	社長 古屋徳兵衛	同	
白木屋	同	寛文2年8月	10,089坪	専務 山田 忍三	同	
ほてい屋	同	明治10年	2,303坪	専務 堀 政	同	
野澤屋	横濱市	元治元年	2,242坪	専務 殿木 三郎	同	
<b>關 西 部</b>						
大丸	大阪市	享保11年11月	8,237坪	専務 里見 純吉	株式	
阪急百貨店	同	昭和4年4月	12,906坪	社長 小林 一三	同	
十合呉服店	同	文政4年	1,263坪	常務 木水榮太郎	同	
高島屋	同	天保2年	10,009坪	専務 飯田直次郎	合名	
丸物百貨店	京都市	大正9年1月	2,237坪	代表 中林仁一郎	株式	
松阪屋	名古屋市	慶長16年	6,966坪	専務 小林八百吉	同	
十一屋	同	元和9年2月	1,136坪	常務 西國 常吉	同	
だるま屋	福井市	昭和3年7月	1,061坪	店長 坪川 信一	個人	
宮市大丸	金澤市	大正11年11月	1,156坪	専務 井村 徳二	株式	
<b>西 部</b>						
天満屋	岡山市	文政元年	3,070坪	社長 伊原木源平	株式	
福屋	廣島市	昭和4年10月	1,136坪	社長 金田榮太郎	同	
山陽百貨店	下關市	昭和7年11月	69坪	社長 久野春之助	同	
玉屋呉服店	福岡市	大正14年9月	3,200坪	専務 田中丸善八	同	
松屋百貨店	同	昭和4年9月1日	2,400坪	代表 宮村 吉蔵	合名	
玉屋	佐世保市	嘉永元年	1,613坪	常務 田中丸善重	株式	
千徳百貨店	熊本市	大正6年2月	1,325坪	代表 千徳惣一郎	同	
山形屋	鹿兒島市	寶曆年間	3,863坪	専務 岩本 善蔵	同	
<b>東 北 部</b>						
藤崎	仙臺市	文政2年	1,076坪	常務 菱沼清太郎	株式	
今井商店	札幌市	明治5年	2,073坪	社長 今井 雄七	同	
丸三鶴屋本店	訓路市	昭和5年9月	645坪	社長 兩角 榮治	同	

前記伊藤清洲組合長等が躍氣となつて調停運動を始めたのは此頃からである。目的は云ふまでもなく、一に大呉服店相互の無茶な競争を終絶せしめ、又中小呉服店との折衝をつけやうといふのであつた。

猛運動の結果、漸くにして大正八年正月三越呉服店も加へて五大呉服店は東京呉服小賣商組合の新年宴會より招待を受け、金一封の御祝儀を携へて出席した。それが動機となつて五大呉服店懇親會を結ぶ機運が進められ、同年八月、前記の

### 變遷及び業績沿革

最初の出發が、右の如く極めて柔らかな懇親會式に始まつてゐたから、四角張つた統制なんか云ふまでもなく出来る筈もなかつた。併し痒いところに手がとどかぬでも寄附金の打合せや争議解決斡旋其他何彼と役に立つた事も相當にあつて、徐々に地歩は固まつて行つたのである。

事務的な打合せは最初却て大阪の方が遅く参加しても早く合理的に進捗して行つた。それでも協會全體の事になると大

### 變遷

如く「五服會」なるものが出来上つたのである。山岡才次郎、笠原健一(三越呉服店)、佐藤三平、塚本鉢三郎(松坂屋呉服店)、内藤彦一、古屋徳八(松屋呉服店)伴野又三郎、初田伴作(白木屋呉服店)、村松善次郎、小川竹次郎(高島屋呉服店)

以上が最初の會合に出席した人であるが、爾來毎月廿六日を期して各店代表二名宛出席し、懇親會を開く事となり、爾來日本百貨店協會となつても、日本百貨店商業組合に及んで恒例として此會合は続けられてゐる。

きな問題は餘り思はしい解決を見てゐない。昭和元年十二月、東西各店から一齊に正式組合設立願を其筋に提出したが翌年十二月廿日不認可で却下された。昭和三年八月十七日、東京府で商品券課税問題が持上つたので一應反對陳情して見たが超えて同五年八月一日から實施される事となり之も負けて仕舞つた。

昭和四年十二月十日、幕ノ内辨當の商標權問題で白木屋が矢面に立ち告訴を受け協會が後援したが之だけは後日に到り勝訴となつた。

昭和六年、百貨店目録の週休制を内部から提案があつて協會の問題として協議したが遂にお流れとなつた。

又、共同配送案も結局同じ運命に有耶無耶に終つた。



斯の如く、重大問題は一つ統制出来ないのみか、其中にも各店は益々膨張して、競争は愈々激甚を加へつつ無料配達区域擴張、無料送迎自動車増加、出張販賣、販賣策販賣百出、過當サービス濫用と云つた様に其餘弊が一般小賣商に禍ひを及ぼす様になつて外部からの不平が非常にやかましくなり、昭和七年八月には、將に詰腹といふ一歩前に、協会の名に於て自制協定八箇條の聲明書を發表せねばならなくなつたのである。

併し之は協定が始まつて以來の英斷的積極行動であり、從つて自他共に相當得るところがあつた。之に刺激されて商工省當局では一般商業組合法を制定して全國に各種同業組合設立を奨励普及せしめたが、斯くして我が百貨店商業組合を創立する事となり、併して前記自制協定の骨子をとつて『營業統制規程』なるものを制定し現行してゐる。

### 日本百貨店商業組合營業統制規程

第一條 本組合は定款第二十三條第一號ニ基キ以下記載セル各條ニ則リ組合員ニ對シ百貨店營業ノ統制ヲ行フモノトス  
 第二條 組合員ハ出張賣出シヲ爲サザルモノトス但シ特定ノ家庭、工場又ハ團體ノ依頼ニ應ジ若ハ一般顧客ニ公開セズシテ特定セル顧客ノミニ商品ヲ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第三條 組合員ハ九州ニ主タル營業所ヲ置テ組合員ハ營業所所在ノ縣内ニ限り前項ノ規定ニ拘ラズ出張賣出シヲ爲スコトヲ得但シ下關市ニ主タル營業所ヲ置テ組合員ハ門市内出張賣出シヲ爲スコトヲ得  
 第四條 組合員ハ門市内出張賣出シヲ爲スコトヲ得但シ下關市ニ主タル營業所ヲ置テ組合員ハ門市内出張賣出シヲ爲スコトヲ得

## 業 事

ニ建設準備中ノ支店及分店ニシテ昭和八年十一月二十一日迄ニ之ヲ商工大臣ニ届出デ其ノ承認ヲ受ケタルモノハ第三條ノ規定ニ拘ラズ新設スルコトヲ得  
 大正十三年から日本百貨店協会の開始した『廣幅織物普及宣傳』は第一に指を屈すべき事業と云つて支障あるまい。同年十月廿六日商工省から三萬圓、翌十四年には二萬五千圓の獎勵補助金を貰つて其事を始めたのであるが、一層大々的に敢行する事として、協会が先導となり、



お寝みの間に...  
若々しくなる...

### 皮膚若返りホルモンクリーム アモルススキン

アメリカの百萬長者の秘訣は、過五十數年の間、ある皮膚若返りの藥が用ひられて居りました。その常用者はいつまでも青春時代の若さと美しさを保ち、人をして全くその年齢を疑はしめる不思議な一種の膏藥であります。その價値が驚くほど高價のため金の價値を知らぬ特殊な人々の外には到底手に入りませんでした。その秘訣は今や科學的に研究されアモルススキンと稱へて大量に製造され、何人も求め得る價値で供給されるに至りました。ホルモンの分泌が減少し始める二十五六歳から五六十歳の貴婦人階級に非常な利益となつて居ります

### 廣幅織物普及會

なるものを糾合した。全国各地大問屋及び産地組合、八大商店、廿地方組合は左の如し  
 (東京商店) 森五、市田、大森、塚本、土屋、窪田  
 (大阪商店) 稻西、丸紅  
 (各地組合) 名古屋織物組合、三河織物組合、尾西織物組合、播州織物組合、栴尾織物組合、所澤織物組合、其橋織物組合、北相織物組合、佐野織物組合、埼玉織物組合、秩父織物組合、遠江織物組合、丹波織物組合、伊勢崎織物組合、桐生織物組合、足利織物組合、八王子織物組合、近江織物組合、青梅織物組合、南都留郡甲斐絹織物組合  
 而して此會は昭和六年まで繼續され、其間商工省からは八十二萬二千五百圓の補助金を受けて相當徹底するところまで進

榮養食料品の推奨!  
 お醫者がス、メル滋養のお菓子  
**國産 カルケット**  
 本品の特徴は  
 人體に必要な  
**カルシウム**を  
 有効に配劑す  
 (試験所證明)  
 一粒毎にカルケットの文字  
 なきものはカルケットに非ず

量ヲ限ル販賣又ハ俸給ナル販賣ノ廣告ヲ爲サザルモノトス  
 第五條 組合員ハ一般顧客ニ對シ無料若ハ割引利率ヲ以テ送迎輸送ヲ爲サザルモノトス但シ特別ノ事情ニ因リ理事會ニ於テ已ムラ得ズト認メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第六條 組合員ハ組合員ニ於テ特定メタル地域ヲ超エテ顧客ニ對シ商品ノ無料配送ヲ爲サザルモノトス  
 第七條 組合員ハ同一都市内ニ於テハ毎月左ノ日數一齊ニ休業スルモノトス但シ選別制ヲ採用スル場合又ハ理事會ニ於テ特別ノ事情ニ因リ已ムラ得ズト認メ商工大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ一齊ニ休業スベキ日以外ノ日ニ休業スルコトヲ得  
 東京市、京都市、大阪市、神戸市及名古屋市ニ在リテハ一月二日、三日、五日、他ノ地ニ在リテハ一月二日以下  
 中元、歳暮及雲文拂其ノ他ノ土地慣習ニ依リ特別賣出期間中ハ休業セザルコトヲ得但シ休日廢止期間ハ一年ヲ過シ五十日ヲ超スルコトヲ得  
 汽車又ハ電車ノ始發點停車場ニ於ケル食堂ノ營業ハ休業セザルコトヲ得  
 附則  
 從前日本百貨店協會ニ加盟シ居ラリシ組合員ガ昭和八年八月二十一日迄



められ、其年限り、補金打切と同時に解散した。  
 其他、協會事業としては中形染色改良を初めとして各種商  
 品改良獎勵を行ひ、メートル法普及宣傳を指導し、又毎月「  
 調査彙報」を發行して會員間に頒布し、業界の進歩向上に資  
 してゐる等、可なり見るべき業績も少くない。

### 日本百貨店商業組合定款

第一章 總 則  
 第一條 本組合ハ百貨店營業ノ改良發  
 達ヲ圖ルヲ以テ目的トス  
 第二條 本組合ハ日本百貨店商業組合  
 ト稱ス  
 第三條 本組合ノ地區ハ日本全國トス  
 第四條 本組合ハ其ノ主たる事務所ヲ  
 東京市ニ置ク  
 第五條 本組合ハ其ノ必要ノ場所ニ從  
 事會ノ決議ヲ以テ必要ノ場所ニ從  
 事會ノ決議ヲ以テ必要ノ場所ニ從  
 事會ノ決議ヲ以テ必要ノ場所ニ從

キハ有資格者トス  
 第六條 本組合ノ公告ハ組合ノ定メタ  
 ル場所ニ掲示シ且官報及中外商業  
 新聞ニ掲載シテ之ヲ爲ス  
 第二章 加入及脱退  
 第七條 本組合ニ加入申込用紙ニ必要ナ  
 ル事項ヲ記載シ上本組合ニ差出スヘ  
 シ  
 第八條 前條ノ申込ニ對スル諸否ハ理  
 事會ノ決議ニ依リテ之ヲ決ス  
 第九條 規定ニ依リ加入申込ヲ承諾シ  
 タルトキハ其ノ旨ヲ申込者ニ通知シ  
 出資第一回ノ拂込ヲ申込者ニ通知シ  
 組合員名簿ニ記載スルモノトス  
 第十條 他人ノ持分ヲ讓受ケタル者又  
 ハ相続ニ因リ持分ヲ繼承ケタル者又  
 シタル者其ノ持分ヲ拂戻ラ受ケスル  
 テ本組合ニ加入スル場合ニ於テハ其  
 ノ出資拂込額ノ限度ニ於テ出資金  
 ノ拂込ヲ爲スコトヲ要セス  
 第十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リ脱退  
 ス

一 組合員タル資格ノ喪失  
 二 死亡  
 三 破産  
 四 禁治産  
 五 除名  
 第六條 組合員ハ前條ノ外本組合ノ  
 承諾ヲ得タルトキハ事業年度ノ終ニ  
 於テ脱退スルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ脱退セントスル者  
 ハ少トモ事業年度末六月前ニ理由  
 ヲ記載シタル書面ヲ以テ脱退ノ申出  
 ヲ爲スコトヲ要ス  
 第七條 脱退ノ申出ニ對スル諸否ハ理  
 事會ノ決議ニ依リテ之ヲ決ス  
 第八條 組合員ハ各各號ノ一ニ該當  
 スルトキハ組合員ノ決議ニ依リ  
 之ヲ除名スルコトヲ得  
 第九條 出資ノ拂込、賦課金、過剰金ノ  
 納付其ノ他組合ニ支拂フヘキ金額  
 ノ支拂ヲ怠リ無告ヲ受ケタル後二  
 箇月以内ニ其ノ義務ヲ履行セサル  
 トキ  
 第十條 組合ノ事業ヲ妨害シ又ハ組合ノ  
 信用利益ヲ毀損シタルトキ  
 第十一條 犯罪其ノ他ノ不法行為ニ依リ信  
 用ヲ失ヒタルトキ  
 第十二條 前項ノ決議ハ組合員ノ半数以上出  
 席シ其ノ議決額ノ四分ノ三以上ノ同  
 意ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第十三條 出資金準備金及  
 第十四條 出資一口ノ金額ハ金壹百圓  
 第十五條 組合員ハ各自四口迄ニ其ノ  
 營業所ノ延坪數合計一千坪毎ニ一口  
 ノ割合ヲ以テ出資スルモノトス  
 第十六條 組合員ハ其ノ延坪數ノ計算ハ左ノ方法ニ  
 依リ

荷投所(デポ)ハ營業所ノ坪數  
 ニ算入ス  
 第十七條 第一項ニ規定スル六大都  
 市以外ノ地ニ在ル營業所ノ延坪數  
 ハ二坪ヲ以テ一坪ニ計算ス  
 第十八條 組合員ノ支店分店ノ營業所延坪  
 數ハ第五條第一項ノ規定ノ延坪數ニ  
 滿タサルモノニ在リテハ二坪ヲ以  
 テ一坪ニ計算ス  
 第十九條 口數計算ニ付千坪未満ノ坪數ニ  
 付テハ四捨五入トス  
 第二十條 換算坪數ノ場合亦同シ  
 第二十一條 出資第一回ノ拂込金額ハ一  
 口ニ付金五拾圓トス  
 第二十二條 一回以後ノ出資拂込ハ必要ニ應ジ  
 總會ノ決議ヲ以テ其ノ金額及方法ヲ  
 定ム  
 第二十三條 本組合ハ出資總額ニ連スル  
 迄事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以  
 上ヲ準備金トシテ積立スルモノトス  
 準備金ハ損失ノ補正ニ充ツルモノト  
 ス  
 第二十四條 本組合ハ剩餘金ノ四分ノ一  
 以上ヲ別添積立金トシテ積立スルモ  
 ノトス  
 第二十五條 別添積立金ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ  
 臨時緊急ノ支出ニ充ツルコトヲ得  
 第二十六條 準備金ハ總會ノ決議ヲ經テ  
 別法ノ外之ヲ利用保管スルコトヲ  
 得ス  
 第二十七條 本組合ノ資產又ハ負債ニ對  
 スル組合員ノ持分又ハ負債額ハ其ノ  
 出資口數ニ按分シテ之ヲ定ム  
 但シ其ノ負債額ハ出資金額ヲ超過ス  
 ルコトヲ得ス  
 第二十八條 組合員脱退ノ場合ニ於ケル  
 持分ノ拂戻金額ハ第十九條ノ規定  
 ニヨリ之ヲ算定ス但シ除名ニ因ル  
 場合ニ於テハ其ノ半額トス

第四章 組合員の権利  
 第二十一條 組合員ハ本組合ニ對シ左  
 ノ權利ヲ有ス  
 一 總會ニ出席シ其ノ議決權ヲ行使  
 スルコト  
 二 定款ノ定めタル所ニ依リ役員ヲ選  
 舉シ又ハ役員ヲ罷免セラルコト  
 三 組合ノ業務及財産ニ付理事ノ説  
 明ヲ求メ又ハ事務所ノ執務時間中  
 ニ限り組合ノ事務ニ關スル書類帳  
 簿ノ閲覧ヲ請求スルコト  
 四 脱退シタルトキハ定款ノ規定ニ  
 依リ其ノ持分ノ拂戻ヲ請求スルコ  
 ト  
 五 本組合解散ノ場合ニ於テ剩餘財  
 産アルトキハ其ノ分配ヲ受ケルコ  
 ト  
 六 其ノ他法令又ハ本定款ニ依リ定  
 メラレタル權利ヲ行フコト  
 第二十二條 組合員ハ組合ニ對シ左  
 ノ義務ヲ負フ  
 一 法令其ノ他本組合ノ定款及諸規  
 則ニ遵シ總會、理事會及支部會ノ決  
 議ヲ遵守スルコト  
 二 本組合ノ營業ニ關スル統制ニ服  
 スルコト  
 三 第五十六條所定ノ方法ニ依リ組  
 合ノ經費ヲ負擔スルコト  
 四 前二生シタル組合ノ債務ニ付テモ  
 亦責任ヲ負フコト  
 五 解散ノ場合ニ於テ本組合ニ債務  
 アルトキハ其ノ責任ノ限度ニ於テ  
 其ノ債務ヲ分擔スルコト  
 六 營業所ノ新設、擴張、休止並ニ  
 商法ニ依リ設立登記事項ノ變更ア  
 リタルトキハ直ニ之ヲ組合ニ届  
 出スルコト  
 第五章 事業及執行

第二十三條 本組合ハ其ノ目的ヲ達ス  
 ル爲メノ事業ヲ行フ  
 一 組合員ノ必要又ハ參考ナルレ  
 キ事項ノ調査又ハ施設ヲ爲スコト  
 二 組合員ノ營業ニ關シ諸般ノ統制  
 ヲ行フコト  
 三 組合員ノ販賣スヘキ商品ノ規格  
 又ハ標準ヲ決定スルコト  
 四 其ノ他本組合ノ目的ヲ達成スル  
 爲メニ必要ナル事業又ハ施設ヲ爲  
 スコト  
 第二十四條 組合員ノ營業ニ關スル統  
 制規程ハ總會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ  
 定ム  
 第六章 役 員  
 第二十五條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク  
 理事 十名  
 監事 三名  
 第二十六條 本組合ニ理事ノ互  
 選ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十七條 理事及監事ハ總會ニ於テ  
 特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事  
 ハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任ス  
 ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選  
 任ニ付商大臣ノ認可ヲ受ケルコト  
 ヲ要ス  
 第二十八條 理事又ハ監事ニ選任セラ  
 レタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之  
 ヲ辭スルコトヲ得ス  
 第二十九條 理事又ハ監事ハ正當ナル  
 事由ナクシテ任期中解任セララルコ  
 トナシ但シ理事又ハ監事カ不適任ト  
 認メラルトキハ總會ノ決議ヲ經テ  
 之ヲ解任スルコトヲ得  
 第三十條 前項ノ決議ハ總會員ノ三分ノ二以  
 上出席シ其ノ議決額ノ過半数ノ同意  
 ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第三十一條 總會ニ於テ役員ノ解任ヲ決議シタル  
 トキハ同時ニ其ノ後任者ノ選任ヲ爲

スコトヲ要ス  
 第三十二條 役員ニ缺員ヲ生シタルト  
 キハ通過總會ノ時期迄補填スルコト  
 能ハサル場合ニ限リ之ヲ補缺スルモ  
 ノトス  
 第三十三條 理事及監事ノ任期ハ二箇年  
 トシ其ノ再選ヲ妨ケス  
 補缺ノ爲メ選任セラレタル役員ノ任期  
 ハ前任者ノ任期間トス  
 役員ハ任期満了後ト雖後任者ノ就任  
 スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス  
 第三十四條 理事長ハ組合ヲ代表シ組  
 合ノ業務ヲ執行ス  
 理事長代理アルトキハ他ノ理事之ヲ  
 代理ス代理ノ順序ハ理事ノ協議ニ依  
 リテ之ヲ定ム  
 第三十五條 監事ノ職務ハ左ノ如シ  
 一 組合ノ財産並ニ收支ノ狀況ヲ監  
 査スルコト  
 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査ス  
 ルコト  
 三 財産及收支ノ狀況又ハ業務執行  
 ニ付不整ノ點アルコトヲ發見シタ  
 ルトキハ之ヲ總會又ハ監督官廳ニ  
 報告スルコト  
 四 前項ノ報告ヲ爲スルニ必要アル  
 トキハ總會ヲ召集スルコト  
 五 組合ノ理事ノ間ニ於ケル契約  
 又ハ訴訟ニ付組合ヲ代表スルコト  
 第三十六條 理事及監事ハ名譽職トス  
 第七章 職 員  
 第三十七條 本組合ニ左ノ職員ヲ置ク  
 事務長 壹名  
 書記 若干名  
 第三十八條 事務長及書記ヲ置クコトヲ  
 必要ニ應ジ職員及書記ヲ置クコトヲ  
 得  
 第三十九條 事務長及書記ハ理事會  
 會ノ承認ヲ得テ理事長之ヲ任免シ同  
 條第一項ノ職員ハ理事長之ヲ任免ス

第八章 會 議  
 第三十九條 會議ヲ分チテ總會及理事  
 會トス  
 總會ハ組合員ヲ以テ之ヲ組織ス  
 理事會ハ理事ヲ以テ之ヲ組織ス  
 第三十條 通過總會ハ毎年四月之ヲ  
 召集ス  
 臨時總會ハ左ノ場合ニ之ヲ召集ス  
 一 理事長カ必要ト認メタルトキ  
 二 監事カ第三十一條第四號ニ依リ  
 必要ト認メタルトキ  
 三 商業組合法第二十條ニ依リ請求  
 アリタルトキ  
 第三十一條 總會ハ理事長之ヲ召集ス  
 第三十二條 總會ノ召集ハ少クモ總  
 會員ノ過半数以上ノ出席ヲ要ス  
 第三十三條 總會ノ議決額ハ出席者  
 各組合員ニ通知スルコトヲ要ス  
 第三十四條 總會ニ於テ議決スヘキ事項  
 左ノ如シ  
 一 定款變更並ニ統制規程ノ制定又  
 ハ變更  
 二 經費ノ收支豫算及分賦收入方法  
 三 財産目録、貸借對照表、事業報  
 告書及剩餘金分配案ノ承認  
 四 役員ノ選任及解任  
 五 準備金ノ利用保管方法  
 六 除名  
 七 解散  
 八 其ノ他法令又ハ定款ニ依リ必要  
 トスル事項  
 第三十五條 總會ノ議長ハ理事長之ニ  
 當リ理事長事故アルトキハ其ノ代理  
 ヲ爲ス理事之ニ當ル  
 第三十六條 第二項第二號若ハ第三號  
 ノ規定ニ依リ召集シタル總會ノ議長  
 ハ出席組合員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム  
 第三十七條 總會ハ組合員總數ノ半数  
 以上出席シ且議決額過半数ノ同意  
 ニ達スルニ非サレハ會議ヲ開クコト



ヲ得ス  
 第四十三條 組合員ハ代理人ヲ出席セシメテ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得但シ代理人ハ組合員ニ限ル  
 代理人ハ代理權ヲ證明スヘキ書面ヲ會議開會前理事長ニ提出スルコトヲ要ス  
 組合員ハ四人以上ノ代理人トナルコトヲ得ス  
 第四十四條 總會ニ於ケル組合員ノ議決權ハ其ノ出資口數ニ依ル但シ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス  
 第四十五條 總會ノ議事ハ法令又ハ定款ニ別段ノ規定アル場合ノ外總會組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權總數ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
 可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
 第四十六條 役員又ハ組合員ハ自己又ハ其ノ使用人ノ一身ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ總會ノ同意ヲ得テ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得  
 第四十七條 總會ノ決議ハ議長之ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席組合員二名以上之ニ署名捺印スルモノトス  
 一 開會ノ日時場所  
 二 組合員數及其ノ議決權數  
 三 出席者ノ員數及其ノ議決權總數  
 四 議事ノ要領  
 五 議決シタル事項  
 第四十八條 理事長會ノ職務權限左ノ如シ  
 一 組合ノ定款及總會ノ決議ニ依ル業務ノ執行  
 二 組合員ノ加入脱退ノ請否  
 三 組合員ノ加入脱退ノ請否  
 四 其ノ他理事長ニ於テ必要ト認メ

タル事項  
 第四十九條 理事長會ハ理事長之ヲ招集ス  
 第五十條 理事長會ハ理事定數ノ二分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
 第五十一條 理事長會ノ決議ハ出席理事ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
 第五十二條 第四十一條及第四十六條ノ規定ハ之ヲ理事長會ニ準用ス  
 第九章 會計  
 第五十三條 本組合ノ事業年度ハ一箇年トシ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ了ル  
 第五十四條 理事長ハ毎事業年度ノ終ニ於テ左ニ掲ケル書類ヲ編製シ理事會ノ同意ヲ得テ通常總會ヲ召集シ理事會ノ本組合ノ主たる事務所ニ備フルコトヲ要ス  
 一 財産目録  
 二 貸借對照表  
 三 事業報告書  
 四 剩餘金處分案  
 第五十五條 監事前條ニ掲ケタル書類ヲ提出シ受ケタルトキハ遅滞ナク之ヲ監査シ意見書ヲ附シテ之ヲ理事長ニ送付スヘシ  
 理事長ハ前條ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ總會ニ提出シ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス  
 第五十六條 組合ノ經費ハ組合員ノ營業所ノ延申數一千坪ニ付一口ノ割合ヲ以テ算出シタル口數ニ按分シ組合員之ヲ負擔ス  
 前項ノ坪數ノ計算ハ第十四條第二項ノ規定ニ依ル  
 前項ノ規定ニ依リ計算シタル負擔額

額カ年額百圓ニ達セザルトキト雖組合員ハ一年ニ付金百圓ヲ負擔スルモノトス  
 第五十七條 組合經費ノ收支豫算ハ毎事業年度ノ初ニ總會ニ於テ議決シ商工大臣ニ提出スルモノトス  
 前項ノ決議ハ總會組合員半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第五十八條 一事業年度ニ於ケル總收入ヨリ總支出及繰越損失ヲ控除シ剩餘金アルトキハ第十六條ニ依リ準備金及第十七條ニ依リ別途積立金ヲ控除シ剩餘金ハ之ヲ次ノ會計年度ニ繰越スモノトス  
 第十章 違約處分  
 第五十九條 組合員第二十二條第二號乃至第六號ノ規定ニ違反シタルトキハ之ヲ違約處分ニ付ス  
 第六十條 違約處分ハ理事會之ヲ決シタル違約書ヲ作成シ之ヲ違約者ニ送付ス  
 過怠金ハ金五百圓以内トス但シ第二十二條第二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對スル過怠金ハ金一千圓以内トス  
 第六十一條 違約處分ニ不服アル者ハ違約書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得異議ノ申立ハ異議決議委員ニ宛テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六十二條 異議決議委員ハ毎年通常總會ニ於テ五名ヲ選舉スルモノトス  
 第二十五條第二項第二十七條乃至第二十九條第四十一條第一項第四十九條乃至五十一條ノ規定ハ之ヲ異議決議委員會ニ準用ス  
 第六十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其ノ申立アリタル日ヨリ一月以内

ニ異議決議委員會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ得ス  
 第六十四條 違約者ハ分擔書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ過怠金ヲ納付スヘシ但シ異議ノ申立アリタルトキハ裁決書ノ送付アリタル日ヨリ一週間内ニ納付スヘキモノトス  
 第十一章 定款變更及解散  
 第六十五條 本定款ヲ變更セントスルトキハ總會組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ議決シ商工大臣ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要ス  
 第六十六條 本組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス  
 一 總會ノ決議  
 二 組合ノ破産  
 三 解散命令  
 前項第一號ノ決議ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス  
 總會ノ決議ニ依リ解散ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ効力ヲ生ゼス  
 第六十七條 本組合解散シタルトキハ理事會其ノ清算人トナル但シ總會ノ決議ニ依リ組合員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得  
 第六十八條 本組合ノ使用スル印章類左ノ如シ  
 日本百貨店商 一寸  
 日本百貨店商 一寸五分



實用新案No.112.676.



# アイデアル レインコート

# フェーザー レインコート



商工省選定、優良國産品

最古の歴史——最高の品質

レインコートは……アイデアル!

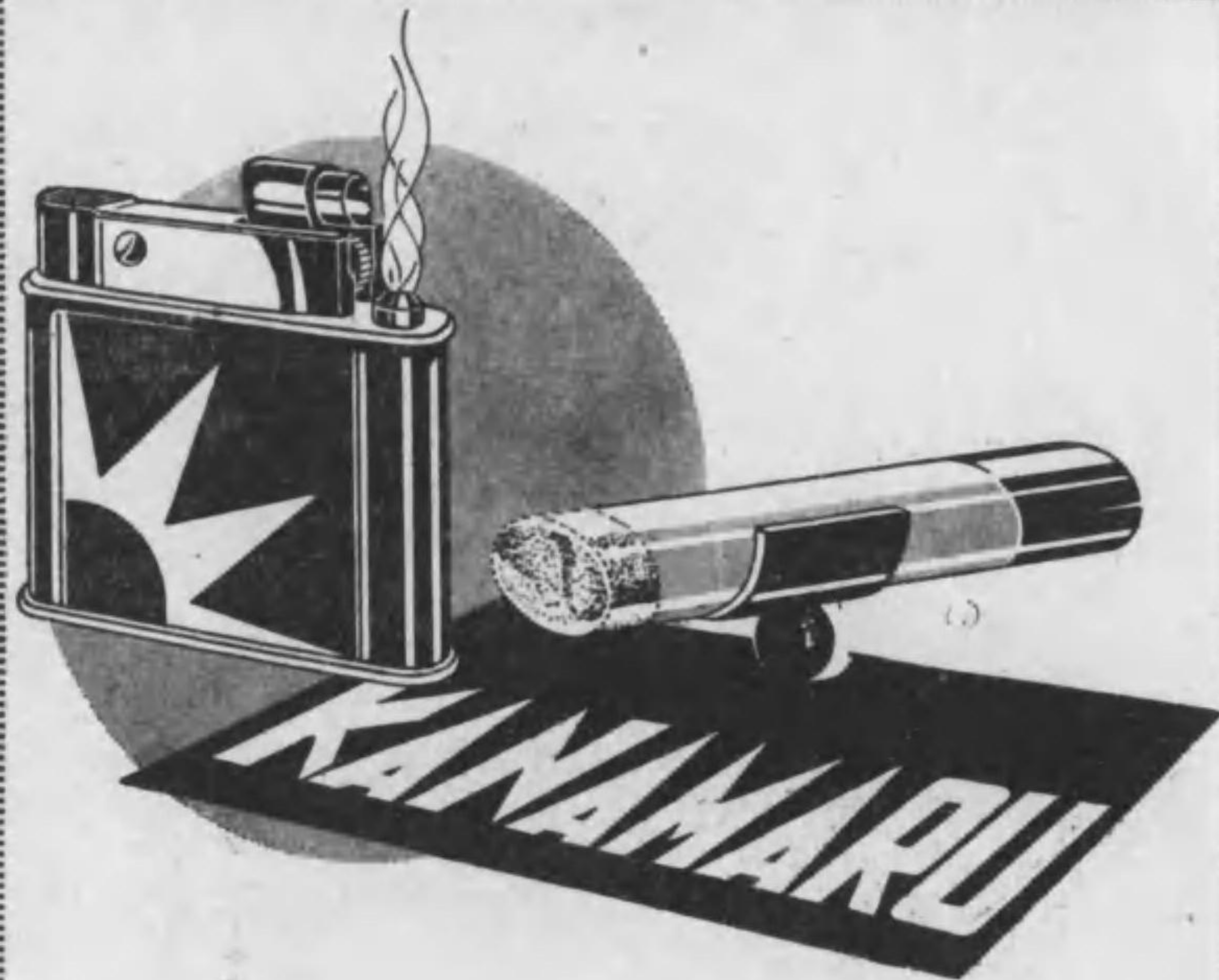
販賣店 全國各百貨店

東京市京橋區銀座一丁目

發賣元 有住商店

電話京橋七〇三三





專賣局指定 煙草用  
ペーパー並に器具販賣  
内外喫煙用具一式

# 金丸商店

東京市淺草區順賀町十九番地

電話 淺草(84) 七〇七七番三九三八番

營業種目  
毛メリヤス  
クレソックス  
婦人・子供用品  
各種卸商  
生地加工品  
生地加工品  
防汚加工品  
ハースメリヤス發賣元



## 堀尾甚能商店營業所

專賣特許  
洗て縮まぬ



大阪市東區南久寶寺町五丁目四三番地  
營業所 電話 船場 長 (83) 四二四一七〇六番  
東京店 東京市日本橋區室町三丁目四番地九  
電話日本橋長 (24) 一八四〇番  
名古屋店 名古屋市中區南武蔵町二丁目三番地  
電話 中局 長 三三三三番





# 株式三越

東京市日本橋區本町

創業 延寶元年

會社設立 明治卅七年十二月

組織 株式會社

公稱資本金 三、〇〇〇萬圓

拂込株金 一、八七五萬圓

決算期 二月、八月

店舖所在地 室町、銀座、新宿

大阪、神戸、金澤

高松、札幌、仙臺

京城、大連

從業員總數 八、三七六人

店舖總延坪 四六、八六九坪



福助足袋株式會社東京支店



### 三越本支店の規模、従業員数及開業年月日

本店 新舊館	〔延坪数〕		〔店員数〕		〔現店舗開業年月日〕
	坪数	延坪数	人数	延人数	
本店新館	八、九二〇	六、五〇〇	三、三九五	三、三九五	昭和二年四月七日 工事中逐次開業
新宿支店	四、四九七	四、四九七	八五〇	八五〇	昭和五年十月十日
銀座支店	二、九一六	二、九一六	四六七	四六七	昭和五年四月十日
大阪支店	七、六五九	七、六五九	一、六六四	一、六六四	明治四十一年五月一日
神戸支店	二、三五〇	二、三五〇	四七九	四七九	大正十五年七月六日
金澤支店	一、七〇四	一、七〇四	二一七	二一七	昭和五年十一月十五日
高松支店	一、六五四	一、六五四	一九二	一九二	昭和六年三月十七日
仙臺支店	一、四三三	一、四三三	二二二	二二二	昭和八年四月一日
札幌支店	二、一六五	二、一六五	三〇五	三〇五	昭和七年五月廿五日
京城支店	二、二五二	二、二五二	三五五	三五五	昭和五年十月廿四日
大連支店	八二七	八二七	一〇五	一〇五	昭和三年五月一日
計	四六、八六九	四六、八六九	八、一三七	八、一三七	
京都支店	三三四	三三四	一一八	一一八	明治卅七年十二月廿一日
桐生出張所	四二	四二	二二	二二	同
大手町別館	七二〇	七二〇	(本店部)	(本店部)	
本石町別館	四一〇	四一〇	(二算入)	(二算入)	
計	一一、一九八	一一、一九八	一三九	一三九	

〔注意〕延坪数の項、ゴチツク数字は三越所有、其他は賃借を示す。

〔備考〕開業年月日、東京本店舊館は大正十一年七月十日全部落成せしも大正十二年關東大震災にて焼失し直ちに修復工事に着手し先づ同年十一月十七日東館一階二階三階を開業し順次擴張して昭和二年全部開業したるを以て假りに其日を記す

其他各支店、支店設置の最初を採らず現在營業所の開業年月日を採録せり。



## 三越の大要

我國に於ける百貨店組織經營の鼻祖で、且つ現在の規模内容とも斯界に最大最高の王座を占めてゐる株式会社三越は餘りにも有名である。

今では、立派な世界的存在として認められ、先進歐米諸外國のデパートメント・ストアに比して遜色なきのみならず、却て幾多の模範的特長をさへ示してゐるのは正しく我國の誇と稱せられてもよい。

### 稱號

— 起源と由來 —

『三越』といふ稱號は、創業當時の屋號『三井越後屋』を約稱して作つたもので、明治五年三月、三井大元方から呉服店の經營を分離するに當り、店主は三井の姓を名告り

てみた。

是より前、釘拔越後屋といふ呉服小賣店が矢張り本町四丁目に於て寛永十二年から開業してゐた。これは高利の長兄三井三郎左衛門俊次郎の經營であつたが延寶元年その卒去に遭つて潰れて仕舞つた。

高利は決然捲土重来を期して伊勢松坂を出で、京都に仕入店を、江戸本町一丁目以前記越後屋を開店し、今日の大

三越の基を開いた。

『越後屋』と稱したのは、始祖高利の祖父が、三井越後守高安といふ人であつた事に因縁を發してゐる。

三井越後守高安の子に高俊あり。其妻を珠と云ひ、伊勢松坂に於て酒・米類の小商を始めたが、當時士分の家に於ける商賣は頗る珍しかつたので、人々は『越後屋の店』と呼んでゐた。

### 店章

— 商標の變遷 —

- 延寶元年七月 越後屋八郎右衛門 又ハ三井越後屋
- 明治五年 三越得右衛門
- 明治廿六年 右のマーク登録商標出願 三井得右衛門 合名會社越後屋吳服店
- 明治廿九年五月 三井吳服店
- 明治卅五年一月 合名會社三井吳服店
- 明治卅七年十一月六日 株式會社三井吳服店
- 昭和三年六月一日 株式會社三越



中村専務 麻生常務 北田常務 林常務



### 本部の統制

本店内に本部を置いて大三越の統制を圖つてゐる。本部は重役の下に秘書課、調査課が直屬して居り、尙参事といふ職制を設けてゐる。

**現重役**

専務取締役 中村利器太郎  
 常務取締役 麻生誠之  
 同 北田内蔵司  
 同 林幸平  
 取締役 倉知誠夫  
 同 小田久太郎  
 同 幾度永

**秘書課**

同 前山久吉  
 同 竹内夢次  
 常任監査役 鈴木梅四郎  
 監査役 柳莊太郎  
 同 林市藏  
 (ゴチックは現業職務者)

**調査課**

調査課長 鈴木孝五郎

調査主任 工藤和一郎  
 其他九名

**臨時建築課**

課長 林幸平  
 島口英一  
 其他兼務者八名

**参事**

参事 豊泉益三  
 同(兼) 茂木作太郎  
 同 藤村兼次郎  
 尙本部に屬する人員を細別すれば、  
 重役十二名、主任級以上八名、月給店員十四名、日給店員七名、罷役休職四十八名、小供六名、小使一名、合計九十六名

### 三越年譜

皇紀三三三三(延寶元年)  
 京都室町通藤原町に京服仕入店を開設、伊勢の人三井高利  
 同年八月  
 江戸本町二丁目(現皇服店開業。三井高利氏は店名を越後屋八郎右衛門と命名す)

◎店前現銀賣の新生面開始

一三三八 延寶六年  
 江戸本町二丁目(現新田)を開業。  
 一三四一 天保元年  
 江戸本町二丁目、二丁目南店共に江戸大火にて焼失  
 一三四三 天保三年五月  
 駿河町に移轉新築京服店復興。  
 ◎現銀賣値なしを標榜、即ちワン・ブライス正札制。之は世界に於ける嚆矢といふ。

一三四七 貞享四年  
 江戸幕府御方御納戸京服御用を拜命同年  
 江戸駿河町南側、現在三越東館の場所に木綿店を開き、綿糸木綿類を販賣  
 一三四八 元禄元年  
 大阪高麗橋に江戸駿河町越後屋の出店を開設す。

### 大三越の現勢



日本百貨店商業組合加盟店

百獸の王に獅子あるが如く日本全国の百貨店同業界に軒然たる存在は我が三越であると云はれてゐる。

日本橋本店は、堂々一萬五千四百餘坪の善美を盡したる大建築と、鉄鍊されたる三千三百餘名の店員とを擁して、名實共に並びなき東洋一の威容を示してゐる。

**支店網**  
又、全國主要都市に普遍せる支店網は、賣店々舖十箇所にて總延坪合計二萬七千四百

五十餘坪、其他仕入専門の特殊支店を、關西吳服に對して京都、關東吳服に對して桐生の二大生産地に置き、完備にらざるなき勢力を張つてゐる。而して斯の如き支店網の完備は、我國に於て獨り三越のみが備へ得たものであつて、斷然追従を許さぬ一大特長と稱しても過言ではない。

**配送奉仕機構**  
尙ほ、専ら顧客へのサービスとして、お買上品配達の便益に資する爲め、各本支店配送業務を助けるブランドの意味に於て、デボー十八箇所を設置して遺憾なからしむべく努力してゐる事も、一寸他の多くの同業が容易に模倣し得

ざる特長となつてゐる。

**特殊商品準備**  
賣らんが爲には先づ造ることから、といふ深切な見地から特殊な物を製作する爲に直營工場を三都に於て四箇所も持つてゐる。

右の意味を出来るだけ徹底せしめんが爲め、其缺を補ふ指定製作所の特約、各種商品に關して頗る多數に上つてゐる事は云ふまでもない。

**店員への施設**  
百貨店經營上、最も大切な寶と云はれる店員は、三越を以て模範とせよとまで云はれてゐる。八千三百有餘名の従業員が本支店に配屬されてゐる状態は、以上略記した外に店員寄宿舎や店員愛護會の事と共に順次詳記しやう。  
本店に關しては後段にて詳述する。





新 宿 支 店 銀 座 支 店 大 阪 支 店 神 戶 支 店 金 澤 支 店

### 整備を誇る 支店網

断然東洋随一

越後屋の昔、最初は其發祥地たる京都を本店としてゐたが、三井家事業の中心は幕府膝下の江戸に於て急速に發達し、自然の勢ひとして吳服店も江戸駿河町が本店と稱せらるるに及び、古來仕入のみで販賣を一切行はぬ京都元本店は支店となつて仕舞つた。創業十五年目の元祿元年に大阪支店、寶永七年に長崎支店、安政六年には横濱支店を出したが、其間三都に於て他店を買収經營した事も多い。爾後、經營上の浮沈に幾變轉しつゝ、明治卅七年純然たる獨立株式會社三越吳服店となつて日比事務以下の努力によつて地盤を確保し、最近小田事務時代に百貨店勃興期に際會して不知不識の競争意識に支配されて急速に現在の支店網が張られたのであり。東京日本橋本店を始めとして全國大都市に十大支店ある日本橋本店

なつて日比事務以下の努力によつて地盤を確保し、最近小田事務時代に百貨店勃興期に際會して不知不識の競争意識に支配されて急速に現在の支店網が張られたのであり。東京日本橋本店を始めとして全國大都市に十大支店ある日本橋本店  
東京市日本橋區室町一丁目 電話(日本橋)三三三二番  
ヨリ三三五七番マデ、計四十六本  
新宿 支店 東京市淀橋區角宮一ノ一 支店長 茂木作太郎 電話(四谷)六三四〇番  
ヨリ四本、六四三二番ヨリ五本  
銀座 支店 東京市銀座區銀座四ノ一 支店長 瀧長 良直 電話(京橋)三三二二番  
ヨリ七本  
大阪 支店 大阪市東區高麗橋一ノ六三 支店長 竹内 善次 電話(大阪本局)三五四〇番一三五四九

- ▼一四一四 明和元年一月廿日 江戸本町松屋敷
- ▼一四一六 明和三年十一月 松屋敷を本町より芝口に移し二日ヨリ見世開き
- ▼一四三一 安永元年一月廿九日 江戸大火に駿河町諸店罹災
- ▼一四四一 天明元年正月 江戸駿河町角越後屋文右衛門經營の系見世を越後屋本店に收む
- ▼一四四八 天明八年正月晦日 京都本店罹災
- ▼一四五二 寛政四年五月十六日 大阪吳服店見世罹災
- ▼一四六六 文化三年三月四日 江戸大火、各店悉皆罹災
- ▼一四七九 文政二年二月廿九日 江戸大火、駿河町各店罹災
- ▼一四八四 文政七年一月朔日 江戸大火、駿河町三店罹災
- ▼一四九七 天保八年一月十九日 大阪に大鹽平八郎の暴動あり、大阪吳服店罹災
- ▼一四九八 天保九年四月十七日 江戸大火、駿河町各店罹災
- ▼一五一四 安政元年師走廿八日 江戸大火、駿河町各店罹災
- ▼一五一八 安政五年正月十五日 江戸大火、駿河町各店罹災



高 松 支 店 仙 臺 支 店 札 幌 支 店 京 城 支 店 大 連 支 店

神戶 支店 神戸市神戶區元町通六丁目 支店長 枝 貢 電話(神戸元町)三三一一番、二四六一七番一三五四三三四番  
金澤 支店 金澤市書草町三十四番地 支店長 大槻 房吉 電話(金澤)四三〇〇一五  
高松 支店 高松市内町五十三番地 支店長 三浦 勉一 電話(高松)四四九一一四  
仙臺 支店 仙臺市東一番丁四十三番地 支店長 鎌谷榮之助 電話(仙臺)四〇五〇一三  
札幌 支店 札幌市南一條西三丁目八 支店長 上田村次郎 電話(札幌)三三三四五一九  
京城 支店 京城市本町一ノ五二 支店長 加藤 常美 電話(京城本局)四五〇〇  
大連 支店 大連市大山路六十六番地 支店長 長谷川吉次 電話(大連)四一八一番

る設備として  
京都 支店 京都市中區富町通り 二條上ル冷泉町六〇 支店長 小寺原清舟 電話(京都)三三〇五一一七  
桐生出張所 桐生市本町一ノ二八六 出張所長 青木 君介 電話(桐生)二〇三〇番  
大手町仕入別館 東京市丸ノ内大手町  
本石町別館 東京市日本橋區本石町  
京都染工部 京都市中立賣(元紅店跡) 本館 鐵筋混凝土造三階建 九十二坪五  
大正十一年十一月落成  
染工場 木造平家工場式 明治四十三年十月落成  
黒染染部 十七坪餘  
色染染部 十三坪餘  
色引染部 廿五坪餘  
黒引染部 廿五坪餘  
其他  
染工部總面積 一百二十八坪餘  
右の如く廣大な根據を張つてゐる大體を見ても、現在勢力の概要を知る事が出来る。

- ▼一五一九 安政六年六月 横濱開港につき幕命に依り越後屋ハ郎右衛門名義にて横濱に吳服店開業
- ▼一五二二 文久二年 横濱店開業
- ▼一五三三 文久三年正月廿三日 午後四時前、駿河町本店自火を出し魚河岸を燒く、延長丁四十間、幅平均一丁半程なり
- ▼一五二四 元治元年 京都兵亂あり京本店罹災
- ▼明治五年三月(皇紀二五三三) 三井大元方より吳服店の經營を分離して、三井御右衛門名義となし、店章を丸越に改む
- ▼明治七年五月十五日 駿河町南側の舊店を出して店開き賣出しを爲す
- ▼明治八年十一月十五日 大阪支店を一時高麗橋三丁目に移し見世開き



三越右衛門氏



### 配送機構網

## デポ

率先して設置

お買上商品無料配達と云ふ事が百貨店として有力な魅力が顧客の頭に働きかけるものと解つて来てから、如何にして其の迅速正確を期すべきかに各店とも苦心したのであるが、三越は外國の例に學んで進早くも大正九年九月廿九日東京に青山デポを開設したのを手始めとして、今日では東京市に九箇所、大阪市内に三ヶ所、其他六ヶ所、合計十八箇所のデポを設けて足溜りとして、配送機構網を完備しつつある。

△東京市内  
新宿デポ 柏木町一ノ九三  
青山デポ 高島町一五

品川デポ 南品川三丁目  
荻窪デポ 荻窪三ノ六〇  
白金デポ 白金三丁目五  
世田谷デポ 上馬  
小石川デポ 鷹巣町一四  
荻窪デポ 荻窪町八ノ二  
浅草デポ 田島町五一  
△大阪市内  
鷹巣、堺、住吉各デポ  
△其他各地  
姫路市、小樽市、富山市、  
福井市、丸根市、京都市

## 裏面の用意 専属工場

直營及び指定

明治廿年五月、新町紡績所を農商務省から拂下げ受けて經營した頃には既に専属工場の必要を感じてゐたと見るべきであらう。其後工業部を設けて専務理事高橋義雄をして主宰せしむる等の事にも及んだが、一方販賣主體の店舗擴

## 従業員

配属状態明細

時勢は今や緊縮を必要とし之れに順應する中村現専務の方針による現在の従業員各店配属はその設備に對し最少限度と云はれてゐる。  
(左表参照)

## 本支店人員表 (昭和八年十月末現在)

店別	本 部	本 店	新宿支店	銀座支店	大阪支店	神戸支店	金澤支店	高松支店	仙臺支店	札幌支店	京城支店	大連支店	京都支店	出張所	合 計
重 役	12														12
店 長	8	110	28	27	80	20	7	9	11	10	21	15	6	2	390
主任以上	14	178	118	68	327	80	29	27	21	39	1	12	18		3,150
月 給	71,477	474	2,9	690	227	111	74	111	128	141	52	22			103,803
日 給		1		27	6	2			1	3	2				42
見 習		98	14	9	45	7	7	4	6	5			1		194
月 給	74	6	1	29	4	5	3	1	3	51			6		183
日 給		9		7	2	1	2	2	3	2					28
方 託		22		11									1		36
入 益		20	2	4	17	4	2	1		1	1				53
船 役・休 職	18														48
小 供	6	207	109	47	157	88	29	00	4	87	75	8	11	4	994
小 供 見 習		21	19	8		2	5			10					67
諸 工		23	11	9	6	3		10							62
小 使	1	109	69	25	90	28	14	2	9	12	41	15	7	2	490
染 工 場		53											46		99
和服裁縫工場		129			73										202
洋服裁縫工場		18			55										73
家具工場					18										38
合 計	963,299	850	467	1,064	479	117	182	212	35	351	105	118	21	8,306	

△明治十七年十月一日  
丸越の商標登録を出願  
△明治十九年  
店員櫻村喜七、山岡才次郎を歐米に派遣す。蓋し東京に洋服店設置の目的を以て研究の爲め



念 記 歐 浦

△明治二十年五月  
新町紡績所(群馬縣新町所在)を農商務省より拂下げを受けて絹糸紡績を經營す。  
◎我國に於ける絹糸紡績業の最初の工場なり  
△明治廿一年  
三越洋服店開業式を一月八日舉行す本店舊館の西側に洋館(附設)を新築裁縫師は佛國人を雇入れ指導に當らしむ。

△明治二十六年  
三越傳右衛門の姓を三井に復歸し、九月泉服店の經營を三井復太郎、三井傳右衛門兩氏名義の合名會社とす



氏 義 義 高

△明治廿七年  
大阪支店を高麗橋一丁目堺筋角(現存の地)に復歸す。  
△明治二十八年八月  
泉服店の組織を三度更めて三井一家の經營に復歸し、理事を高橋義雄氏就任す。  
△同年十一月  
本店階上を陳列式とす  
◎我國に於ける泉服陳列販賣の最初の試みなり。  
△同年十一月  
三越洋服店を閉鎖す。  
△明治廿九年五月  
丸越の商標を丸井街三復し、越後屋の屋號を三井泉服店と改稱し世間に公表す  
△同年  
舊館と洋服店との間にありし倉庫を取壊し、其跡に西館を新築し、二階



### 店員教養

新店員を採用するや、毎日二ヶ月間は午前中二時間宛を割いて教養訓練の講習を受けしむる事となつてゐる。

講師は店内から夫々専門に従つて選抜深き先輩が分擔し懇切に指導してゐる。科目は三級漢字、三級組織、三級の博覧、百貨店事情、接客要項、服務要項、非常時心得、商品知識、

少年店員寮生活

高等小學校卒業男子を入店せしむるや直に品川少年寮に收容して規則的生活に慣れしめ傍ら補助教養訓練を授け約三年間を保護する。

因みに食事は毎日三回共本店店員食堂に於て實費自辨のこと。現在寮生六百名、小供監督係長多賀高吉、

青年寮の要領

右少年寮に於て期限満了となり一人前の店員となつた者又は中等學校卒業新入店員にして獨身者は、中野青年寮に收容され大概廿三、四歳まで寮生活を送る規定である。

現在收容寮生約三百名、食事は少年寮に同じ、寮長加藤兼重、

### 店員給與

△初任給

新入店員の初任給を大別して左の如く定む、

女店員 高小卒 日給 八五以上  
同 高女卒 同 一、一〇以上  
男店員 高小卒 日給 九五以上  
同 中等卒 同 一、三〇以上  
同 専門卒 月給 四五圓以上  
同 大學卒 同 六〇圓以上

△昇給

定期昇給制度を設けず、成績其他を考慮し、毎年三回乃

### 退職手當

退職手當は、三ヶ年以上の勤続者が退店する場合支給するものにして、本人の勤続年數、其成績、及び退店直前に於ける資格並に給料を基礎とし、店内に定められたる内規に照らして考査決定す。



我國最初の繪畫板廣告。

### 店員寄宿舎



三越品川少年寮—全景

營業所の外に、百貨店として最も大切な店員を養成する設備も充実してゐる。大別して少年寮と青年寮に分ち左の如き規模である。

### 品川少年寮

東京市品川區南品川淺間臺

昭和三年十一月廿日開館して現在約六〇〇名の少年店員を收容してゐる。

敷地 一、四四六坪餘  
建坪 二六三坪餘  
本館鐵筋混凝土、地下一  
地上五階、一、六三四坪  
附屬木造館三棟 一〇四坪  
收容力 五百五十名

### 中野青年寮

東京市中野區大塚町

昭和四年一月竣工

敷地 一、四四一坪  
建坪 二九九坪  
本館 鐵筋混凝土、地下一  
地上三階、一、一六六坪  
一八室八十一、三人室  
三十一、計百十二室  
收容力 二百五十五名  
附屬木造館二棟 三十七坪



三越中野青年寮—全景

### 玉造寄宿舎

大阪市東區玉造町

敷地 五二七坪  
小供寄宿舎 四三七坪八六  
青年寄宿舎 一六五坪三七  
神戸、京城  
其他神戸、京城(四四七坪六五)大連等にも寄宿舎あり。

大廣間を陳列場となし高館を車庫と稱す。

大阪支店の廣間を陳列場とす。

明治三十年四月三日

帳場係の制を設く

明治三十一年

横濱市本町一丁目十六番地に橋濱出張所を設け輸出物販賣取扱を開始

同年九月支配△比谷島助入店

同年十月

三井工業部を三井島服店に合併し、朝吹英一を専務理事として専ら工業部管理に當らしむ。

明治三十三年

一月、三井島服店案内「花衣」を發行す。木版口繪一枚、寫眞刷取十八頁、アトタイプ七頁、色刷り版七頁、本文三百五十六頁。一般に配布

六月、「夏衣」を發行す。

又、彫匠係員島崎博内畫の新橋名妓をモデルとせる等身大の繪畫板を新橋等に掲ぐ。

●我國最初の繪畫板廣告。

八月、第壹回購買圖案募集。

同年十月

外賣通信係を設く。

福井市に福井出張所を開設し輸出物販賣所とす。

明治三十三年五月十日

東京屋下(大正天皇)御成婚御慶事につき全國休業。三井島服店々員一同飛鳥山に運動會。

總陳列場式となす爲め店内改造着手

十二月座賣全廢

外賣通信係を地方係と改稱す。

初めて女店員を採用し、電話交換及仕立物検査に使用す。

明治三十四年

四月、第一回新陳列會開催。

八月、在庫商品全部陳列場へ。

明治三十五年五月

工業部を島服店より分離す。

西洋人向商品販賣を開始。

半橋類小物賣場を設く。

明治三十六年四月一日

クレーメント貨物自動車賣場を購入して品敷配運用に使用す。

●我國最初の自動車運轉。

同年十一月

シヨウウィンド工事に着手す。

留物者制度を廢止す。



### 三越店員 愛護會

店員の自治機關

株式会社三越とは別個のものであるが、三越店員愛護會は矢張り三越の後援に依つて、故日比翁助氏主唱の下に設立された店員相互の福利増進機關であるから、茲に特記



三越店員愛護會  
駒澤運動場表門  
は館洋るゆ見にれくが間の樹  
すて物建の部業俱澤駒な西瀧

しておく必要がある。オール三越八千三百有餘名の福利増進を目的としてゐるものではあるが、其他に社會事業の一端にも指を染め、獨立會計で専行してゐる。  
(會長) 中村專務(副會長) 藤生、北田、林各務(事務長) 渡邊啓吉、(會計主任) 鈴木調査課長、(委員) 飯野、豊泉、茂木の各事務



三越店員愛護會——駒澤俱樂部部業

### 所有基本財産

經濟は悉く其の所有財産及株式會社三越の後援により本部を本店内に置き、各支店に支部が設けられてゐる。  
駒澤俱樂部  
東京市世田ヶ谷區駒澤町  
運動場、土地面積 三千年



日比翁助事務

明治三十七年三月、三井藥房店制作の友誼額、  
「早稲田の薫」皇行陛下御用として御買上の榮を賜ふ。  
日露戦争戦捷の手柄及戰捷ポッチ繪手紙を授與す。  
六月、店員林幸平を米國視察のため派遣す。  
十月一日、店內改修工事竣成し第八回新柄陳列會と共に、光琳遺作品展覽會を開演す。來店客一萬五千五百餘、賣上高金八萬三千圓と旺せらる。  
明治三十七年十二月八日  
株式會社三越藥房店を設立す。  
資本金五十萬圓也

專務取締役日比翁助就任。  
従つて合名會社三井藥房店は解消され、店章は丸井折三より丸城に復す  
十二月廿日、大阪支店閉演、  
同 廿一日、三越營業再開、  
明治三十八年



三越店員愛護會——駒澤俱樂部部業

種物敷地 壹千坪  
木造洋館總二階延百五十坪  
【二階】食堂、二十坪、娛樂室、二十坪、其他主事室、浴室、寫真現像室、テレス等  
【附上】男子室三十九疊室二十五疊室、女子室二十一疊室、十二疊室、大廣間九十疊室、ウエラシダ其他  
○ 駒澤俱樂部  
神奈川縣駒澤

敷地總面積 三千年  
木造洋館一棟 百二十三坪  
昭和三年一月一日開館  
日本館一棟 階下六十九坪  
階上廿六坪、計九十五坪  
○ 打出俱樂部  
兵庫縣武庫郡禮道村打出  
敷地總面積 一、二二八坪  
建物一棟 百二十坪  
○ 有價證券  
株式會社三越舊株 貳萬株  
同新株 貳萬株  
○ 補助金  
三越決算毎に若干  
(最近は壹萬圓宛)

### 會の事業

一、事情ある店員に對し弔慰金及び救助金を給與す  
二、三越に勤続八年以上の者に退職金又は勤功金ある時に準じて相當割合の給與す  
三、店員疾病に對し醫療費



三越店員愛護會——打出俱樂部部業

の半分乃至三分一を補助  
四、救済を要する店員に對し低利貸金を爲す  
五、體育獎勵、修養講演、夏期海水浴補助其他の催し。  
六、一般社會に突發した特氣の毒なる者に同情金寄贈  
(其他詳細は省略)

- ▼一月 旅順開城につき裝飾自動車運動會
- ▼花自動車の初めなり。
- ▼五月 元祿風圖案を繪寫集。中形浴衣地圖案繪寫集。
- ▼六月 第一回中形浴衣地圖案陳列會を開演。
- ▼七月 文藝家、學者を以て、「流行會」を組織す。
- ▼同月十三日、第一回株主總會。
- ▼同月廿日、休館室にピアノ、バイオリンを備付。
- ▼八月十五日 洋館外部修繕及び小物賣場模様直し工事着手。
- ▼九月十五日 化粧品發賣。
- ▼十月十五日 第十回新柄陳列會と共に元祿時代參考品陳列。
- ▼十一月 日英同國勳章ハガキを發行。
- ▼同月廿三日、大觀覽式につき款款を表すべく本店休業。
- ▼三越藥房店前に海軍凱旋門を作り記念繪ハガキ發行。
- ▼十一月廿日 店員病澤正三を京城へ同北村千次郎を下海、香港地方へ視察の爲め派遣す。
- 明治三十九年
- ▼一月廿日 第一回株主總會。重役一部改選。



# 六三越の沿革

世界を通じてデパートメント・ストアなるものは極く近代の産物であつて、先進米國の大百貨店でさへも僅々五、六十年來の歴史を持つに過ぎないのに、却て我が三越が實に二百六十餘年以前に創業されたとは、甚だ不思議な事のやうにも思はれる。

以前は永らく呉服屋だつたに過ぎぬじやないかと一概に片付けるのは輕率である。

## 百貨店の特徴

抑々百貨店なるもの、定義を一般常識的に云へば、單一資本經營の下に、多種多様な商品を、一定區域内の營業所に於て部門別に整理陳列して販賣してゐる大規模の小賣店と云ふ風に了解されてゐるやうであるが、従つて其商賣方法は、當然の成り行きとして、

て、原則的に店頭に於ける現貨賣であり、又出来る限り正札制による。と云ふところまで徹底する筈であらねばならぬ。現に内外殆ど悉くのデパートメント・ストアが此の式を實行してゐるが、其處に近代向、進歩的な意義を見出されて大衆の寵兒となり、完全に機能を發

揮してゐる。

## 三越と百貨店

我が三越は、取扱ふ商品こそ久しく呉服類に限られてゐたが抑々の出發點から既に其營業方法に於て、今日の百貨店の特徴を持つて生れて來た事に驚かれる。

即ち今から二百六十餘年もの大昔に於て、當時の慣習を打破し

店前商ひの標榜  
現金賣制の斷行  
小裂切賣開始

等の極めて尖端的商法を敢行し大衆本位に着眼してゐた事は、右に述べた現在百貨店の素質を備へたものであり

正札制度を創始  
した事は更に之を裏書するものである。

- 二月十二日 地方係長守原健一を國營視察に派遣す。
- 同月十六日 京城出張員として北村千次郎を派遣す。
- 四月四日 日比野房は囑託銀行引通と共に備後丸にて横濱出張、渡歐の途に上る。
- 五月七日より六月三日まで京都支店員を派遣し、長崎、博多、馬場、廣島、兵庫の五ヶ所に臨時開店す。
- 同月十一日 函館、小樽、札幌に出張員を遣す。
- 七月一日 店內初めて水盤を配置す。
- 八月廿八日 宝町一ノ平山桂藏經營の洋服店を買収し、十月十一日より明治廿九年以來休止中の洋服部を本店向側に再興す。
- 十月十日 南側隣接地加藤併助所有土蔵一種を買収す。
- 十月十九日 廿日兩日、大阪中ノ島公會堂に本店より出張販賣をなす。
- 十月廿日 豫て新築中の京城出張員詰所落成開店す。
- 十一月四日 歐洲視察中の日比野房等歸朝す。
- 同月十一日 裁方に雇入れた英人アレキサンデル・ミツチエリ着京。

## 越後屋は

### 三井家の母體

三越の沿革を説くに當り、其前身『越後屋呉服店』を目して往々三井家事業の一分派となるが如く思ふものがある併し、事實は全く之に反し三井高利、歳五十二にして延寶元年伊勢松坂を出で、江戸に呉服店を開店して自ら『越後屋八郎右衛門』と稱したのが抑の發祥を作してゐる。

高利、非凡の商才と先見の明をもつて先づ『店前現銀賣、正札懸値なし小裂何程にても切賣』といふモットーを振りかざし、大衆心理の眞ツ只中を目標けて勇往邁進した結果、異常な大繁昌を來しつゝ、同業



三井高利氏 同夫人  
寛政五年癸丑四月 遠藤高齋

其他一部の嫉妬妨害さへ物とせしめ忽ち成功の域へ果進を續ける事となつた。

創業以來、僅々十年にして金銀兩替店を開き三井銀行の基を立てたのも、又夙に各地方の豪農と聯絡して諸物資を集め寶永七年には長崎に雜貨

輸入を目的とする支店を設置して三井物産の素地を開拓したのも、悉く越後屋呉服店を根據地として始められ、云ふまでもなく越後屋あつて後の話なのである。

即ち、三井家の諸事業こそ越後屋呉服店の分派なる事は更めて云ふまでもない。

越後屋が、三井物産の事業を疾くから直接取入てゐたすれば、百貨店化すべき機運は餘程以前から熟してゐたであらうが、幸か不幸か最初から副業的に扱はれて來た爲め別箇の存在として發達し、越後屋は之が母體の役をつとめたに過ぎなかつた。

三井家に於ける越後屋呉服店の關係位置は、常に其諸事業の母體であつた。右の外に

- 同月廿四日 神田區曾川町馬車道場跡に九月一日より起工せる鐵工場新築落成す。
- 同月廿日 日本橋區新石衛門町に新築中の洋服部鐵工場落成。
- 明治四十年
- 一月四日 芝居衣裳一式を井上敬三より買収し貸衣裳部開始。
- 四月一日 靴、履物、洋傘、櫛等販賣開始。
- 倉堂を開設す
- 三日、喜與多を新設開業す。
- 七日、元洋服店の屋上に空中庭園と稱する屋上庭園を公開す。
- 五月一日 大阪支店を復活す。
- 八月九日 林幸平を歐洲に派し駐佛大使館至内務省をなす。
- 豐泉堂三は雜貨仕人に同行。
- 九月六日 大連市羽町に出張員詰所を設置し、茂木作太郎、北村千次郎を出張せしむ。
- 十月一日 靴の販賣を開始。
- 七日、日比野房視察報告。
- 十六日、假裝舞臺上模式舉行。
- 卅一日、神田區淺河臺に新築中の鐵工場落成す。
- 十一月三日 大阪支店倉庫開設
- 十二月十日 隅田川邊一樓買収



明治に及んで越後屋が完全に三井家から分離獨立する間際まで、新町紡績を始めとして幾多製糸所其他の事業の母體となつてゐた事實を思ひ合すれば愈々明瞭であらう。

### 沿革綱要

株式会社三越の所謂デパートメント・ストアを實現してからの歴史は未だ日が浅く僅々三十年になつたばかりである、併し其以前創業時代から多分に百貨店の兆を持ち續けてゐた二百三十餘年の根柢は誠に深いものがある。

- 便宜上先づ綱要を分ち、少しく説明を加へて見やう。
- 創業前後**
- 1、三井と其發祥
  - 2、江戸への進出
  - 3、越後屋發育期
  - 4、吳服店最盛期
  - 5、受難期と岐路
- 過渡時代**
- 6、混迷期と獨立
  - 7、播磨期と曙光
  - 8、百貨店化
  - 9、株式會社設立
  - 10、三越の發達期
  - 11、震災と膨脹期
  - 12、完成と充實期

代々襲名する事となり、二代八郎右衛門高平發育期に當り獨立期に三井得右衛門あり、高橋義雄専務理事となつて漸く曙光を見んとし、日比翁助支那人に擧げられて百貨店化の準備を進め、且つ株式會社を設立して日比氏専務取締役を推され愈々その基礎を固むるや、中興の祖と云はれ、女房役藤村喜七との好バツテリを作つて躍進的發達に精進したのであつた。

- 大坂支店に寫眞部を開業す。
- 五月 新築三越、ベル賣出。
- 六月四日 雜貨仕入の爲の豊後益三を歐洲に出張せしむ。
- 同十七日 北海道東村へ出張販賣。
- 九月 本店に各地汽車汽船發着時刻表、海運案内を取揃へ賜覽に便す。



三越少年音楽隊

### 創業前後

併て、更に遡つて越後屋吳服店創業前後に眼を嚙さう。

#### 1、三井と其發祥

三井家は元藤原氏に出づと云はれてゐるが、三井越後守高安の頃は江州に住し、豪族佐々木氏に仕へてゐた。嗣子を得ずして佐々木氏より之を迎へ入れ其一族に加はるに及び餘江の城主となつたが、同時に源姓を冒し、三井越後守源高俊と名乗つてゐた。其妻を珠寶と呼び、之こそ三井高利の父母なのである。

るや、越後守高俊も流轉の身となつて伊勢國松坂村に住し酒、米の小賣店を開いた。人呼んで『越後殿の店』と稱したが、幾何もなく高俊逝く。乃ち珠寶歳四十にして寡婦となり『越後殿の店』を其儘繼承しつゝ子女の養育に没頭した。

は多數同業老舗の間に在つて額脱の機なく、偶々高利は其献策再三に及ぶも用ひられざるあり、決然行李を欵めて單身歸郷した。

- 一月 團案部を新設す。
- 十六日、少年音楽隊を組織す。
- 四月一日 帳簿持出帳を改め、傳票制度となし、元帳はカード式。
- 五月三日 東北地方出張販賣を企劃せしも弘前市のみは濃烈なる反對と迫害ありて中止す。
- 同廿日 小供寄附會に充つる爲め本郷町町に『團案部』一層買収。
- 六月四日 豊後益三を三度歐洲に派遣し雜貨仕入をなさしむ。
- 十二月 登録商標丸に三越の分廿件丸超の分十件許可さる。
- 同卅日 林幸平歸朝す。
- 九月一日 メッセンチャイ・ボーイ隊を編成す。



ヤチンセウマイボーイ



### 2、江戸への進出

◇初代八郎右衛門  
◇江戸ッ子を一掃

本立つて道は生ずる。高利は疾風迅雷の如く、長驅江戸に突進し、本町三丁目三井越後屋を開店したのが延寶元年の八月である。

此時から高利は、越後屋八郎右衛門を名告つた。斯して大三越の前身は生れた。

否、三井銀行も、三井物産株式会社も、……之は既に冒頭に詳述した通りである。

越後屋呉服店のデビニュー振りは實に眼ましかつた。

曰く、「店前現銀賣」

當時呉服屋は注文を承つて歩いたり商品を持廻つたり、出商ひを主として、代金も一期半期拂の懸賣を一般の習慣とされてゐた。



化文頃の年頭の光景、北側が本店で原服物、南側が町角は江戸糸店、銀座隣の南側の大部分は江戸向店と稱し綿縮、木綿、麻類を販賣してゐた。

筆朝文柳—圖屋後越町河駿戸江

—(所の越三の今)—

十二月 在現、外貨係の運輸機關は自轉車卅五輛、箱車三十二輛、自動車四輛、馬車三輛なり。

明治四十三年

一月廿六日 警防班十二名を置き、蒸気ポンプを常備す。

同三日 大阪、京都兩支店聯合總務三百餘名、奈良公園に運動會開催す

同十日 貳百萬圓に増資と共に退職手當金を利益金の百分ノ五以内支出の件議決。

同廿五日 益田取締役退任す。

四月三日 藤村取締役五十年勤績表彰式。記念品贈與。



氏七藤村謙故

五月九日 大阪支店に警防班四名を常備す。

同十日 流行會主催にて藤村氏勤績五十年祝賀會を會費五十圓にて旗亭百尺に於て開催す。

同十六日 店員慰勞臨時休業。

六月廿五日 本郷町小供養宿舎落成、小供養員を收容す。

七月廿日 大連出張所を大山通り二丁目新築に移轉す。

### 3、越後屋發育期

◇妨害迫害の雨傘  
◇駿河町米代の墓

青天のへきれき！ お買物はお客様の方から当店へお出かけ下さい。お金と引換へに其代り自信ある品をお安く差上げます。といふ譯である。

見得坊で、面倒臭がり屋でも怨の皮は相當なものである江戸ッ子の氣ツ風にビタリと来た此の商法が繁昌せぬ筈はない。

當の越後屋にして見れば一石二鳥である。こそ、戸別訪問して平身低頭しながら一向晴れのせぬ商賣をやつてるよりも、店前忽ち市をなす景

(源富地に手印、よく見せ、するか町の外無佛座本店)



〔江戸時代〕  
〔看板其一〕

氣の好いやり方は樂でもあれば繁昌振りも見える。それが又直に無料宣傳にもなつて加速度的能率をあげる。當時にあつては全く先端的な頭の良さを示したものでめつた。

羨む者が出て妨害を散みる。遂には迫害とまでなつたが、丁度近年百貨店が小賣商賣者から暴行を受けると同様、或はそれ以上であつた。

駿河町に移轉新築した其地點は今の三井信託の處らしいが、駿河町と云へば二丁か三丁足らず四方の小さい一角なので、其後漸次三井が買収して殆ど全部を占領した形になり、昭和七年九月に町名改正で其名は消滅したが、今日でも人の記憶から消えな

- 八月十九日 合資會社三井吳服店の清算終了。
- 同卅日 四月起上の大阪支店増築工事竣工。
- 十月一日 本店新築地鎮祭。
- 同廿一日 京都染上場増設落成。
- 十一月三日 同秋奉店員慰勞會本店は鎌倉、大阪は男山八幡、京都は梅ヶ端八幡へ。
- 明治四十四年
- 一月廿五日 三井一家及關係會社重役を帝國ホテルに謝恩招待。
- 二月十七日 帝國商學落成につき室内裝飾其他端端引受調製。
- 三月廿五日 第三回兒童博。
- 同日 電話販賣係を開始す。
- 電話は従來十二本、更に十一個増設交換手を廿五名に増員。
- 四月三日 日本橋、新橋開通式雨天なれど來客二百五千五百八十八人、外に外人三十四人。
- 同四日 晴大、來客四萬三千七百九十四人、外人四十三人。
- 五月一日 大連に洋服部新設。
- 同十六日 春奉店員慰勞休業。
- 同卅一日 豐原益三を四度歐洲に派遣。裝飾係員尾崎通造も同行す。
- 七月五日 本店新館工事着手。
- 八月一日 一時間寫眞を開展。



遂に挿繪寫眞の如き看板を出したのである。駿河町に引越すと同時に又もや矢張り早に新しいスローガンが発表された。

即ち「正札賣」である。之は世界を通じてのトップを切つたものらしいが、早くも其處に氣付いた八郎右衛門は確に傑物である。之で再び内に能率増進、外に人氣と効果の種を播き二重の利益を獲てゐる。

「小費れ何程にても賣升」といふ便宜な大衆的方法は今日でこそ誰も不思議がらないが、當時にあつては、随分思切つた英断であつた。斯うした繁昌の勢力を馳つて其頃から三井家は、一方兩營業を始めたり外貨貿易に着手を始め、事業は廣

大それた信用は累加した。

本業の呉服店の方も之と相關的に發達し、支店を出したり他店を買収したりして、其間幾度か江戸名物の火の洗禮を受けながらも其都度焼けたりと成り、元禄頃二代八郎右衛門三井高平時代の勢ひは隆々たるものであつた。

### 4、呉服店の最盛期

創業四十五年後享保三年の



げんきん するが町 かけねなし するが町 かけねなし

記録に依れば、駿河町毎日の賣上高千兩。當時日本橋魚河岸全體一日の商高と、吉原全盛一夜の遊興費と鼎座した駿河町越後屋は、江戸の三千兩と稱はれたものであつた。此の越後屋呉服店最盛期に於ける店舗の規模は、間口六間、奥十間の土蔵造り、二階家で、使用店員數四十人とあつて、今日から見れば其規模に於て必ずしも大したものでないがそれにしても商賣の能率は實に百二十%であつた。

【二共板看代時戶江】 堅厚 六尺三寸 尺三寸 幅三寸 二寸 六分 寸分 實

### 5、受難期と岐路

幕府御用爲替指定商の列に元禄四年から入つて、中にも最も上手に立廻つてゐた三井高平も寶永六年不意の爲替金引上げに遭つて一寸困つたが、それは未だ問題ではなかつた。



繪錦——筆重廣 切の保天化文 町河駿都東——景六卅土富 景風月正の屋後越

のであつた。それから引つ切りなしに高壓的な幕府が其加金を徴發したのに備へられ続け、小栗上野介が勘定奉行に据つてから其弊は絶頂に達し、慶應二年に三井が命ぜられた莫大な御用金は最後の運命を覺悟せねばならぬ程のものであつた。三井家の諸事業は元來一身同體であるから、越後屋も亦終始其影響を受けて悲運に泣かねばならぬ時が次第々々に歩み寄つてゐた。

### 6、混迷期と獨立

當初、三井の急速な發育を助長したのは幕府の庇護であつたが後年之を苦境に陥れたのも亦幕府であつた。前記經濟組織變革の受難から一層深入りして政治維新の渦亂にも捲込まれざるを得なかつた三井は、八代目高福に到り慶應三年十二月廿六日、京都御所から軍資兵糧の調達を命ぜられた時、畏みて即夜金千兩を上納したのを手始めに所謂勤王に盡し善慮したが一方又、當時の痛手は非常に大きかつた。三井家諸事業の根本的立直

- ▼九月十三日 より三日間御大陣につき休業。店內商賣式施行。
- ▼同七日 一分間寫眞を開始す。
- 大正元年——
- ▼四月十五日 本店内にオゾン發生清氣機を設備す。
- ▼五月十六日 春季店員慰勞休業。
- ▼六月廿二日 大阪支店雜貨部長山田爲三雜貨仕入に遷職。
- ▼七月一日 大阪支店に御洋裁承り係を設く。煙草賣場新設。
- ▼八月一日 本店寫眞機販賣開始。
- ▼九月十五日 大支店増設成る。
- ▼十月卅一日 今上陛下第一の天長佳節を祝し奉り全店休業。
- 大正三年——
- ▼三月廿日 大正博覽會に記念賣場を設け、萬國案内係を併置。
- ▼四月十一日 皇太后陛下崩御につき通んで全店臨時休業。
- ▼九月十五日 明治四十四番上の本店新館工事落成。
- ▼同廿一日 三國神社の分業を本店屋上に勧進願書同式施行。
- ▼同廿五日 新聞記者百餘名招待。
- ▼同廿六日 三井一家其他招待。
- ▼同廿七日 より四日間新館移轉の爲め臨時休業。
- ▼同廿八日 本店新館開館式舉行。

大それた信用は累加した。本業の呉服店の方も之と相關的に發達し、支店を出したり他店を買収したりして、其間幾度か江戸名物の火の洗禮を受けながらも其都度焼けたりと成り、元禄頃二代八郎右衛門三井高平時代の勢ひは隆々たるものであつた。

### 4、呉服店の最盛期

創業四十五年後享保三年の



げんきん するが町 かけねなし するが町 かけねなし

記録に依れば、駿河町毎日の賣上高千兩。當時日本橋魚河岸全體一日の商高と、吉原全盛一夜の遊興費と鼎座した駿河町越後屋は、江戸の三千兩と稱はれたものであつた。此の越後屋呉服店最盛期に於ける店舗の規模は、間口六間、奥十間の土蔵造り、二階家で、使用店員數四十人とあつて、今日から見れば其規模に於て必ずしも大したものでないがそれにしても商賣の能率は實に百二十%であつた。

【二共板看代時戶江】 堅厚 六尺三寸 尺三寸 幅三寸 二寸 六分 寸分 實

### 5、受難期と岐路

幕府御用爲替指定商の列に元禄四年から入つて、中にも最も上手に立廻つてゐた三井高平も寶永六年不意の爲替金引上げに遭つて一寸困つたが、それは未だ問題ではなかつた。



繪錦——筆重廣 切の保天化文 町河駿都東——景六卅土富 景風月正の屋後越

のであつた。それから引つ切りなしに高壓的な幕府が其加金を徴發したのに備へられ続け、小栗上野介が勘定奉行に据つてから其弊は絶頂に達し、慶應二年に三井が命ぜられた莫大な御用金は最後の運命を覺悟せねばならぬ程のものであつた。三井家の諸事業は元來一身同體であるから、越後屋も亦終始其影響を受けて悲運に泣かねばならぬ時が次第々々に歩み寄つてゐた。

### 6、混迷期と獨立

當初、三井の急速な發育を助長したのは幕府の庇護であつたが後年之を苦境に陥れたのも亦幕府であつた。前記經濟組織變革の受難から一層深入りして政治維新の渦亂にも捲込まれざるを得なかつた三井は、八代目高福に到り慶應三年十二月廿六日、京都御所から軍資兵糧の調達を命ぜられた時、畏みて即夜金千兩を上納したのを手始めに所謂勤王に盡し善慮したが一方又、當時の痛手は非常に大きかつた。三井家諸事業の根本的立直

- ▼九月十三日 より三日間御大陣につき休業。店内商賣式施行。
- ▼同七日 一分間寫眞を開始す。
- 大正元年——
- ▼四月十五日 本店内にオゾン發生清氣機を設備す。
- ▼五月十六日 春季店員慰勞休業。
- ▼六月廿二日 大阪支店雜貨部長山田爲三雜貨仕入に遷職。
- ▼七月一日 大阪支店に御洋裁承り係を設く。煙草賣場新設。
- ▼八月一日 本店寫眞機販賣開始。
- ▼九月十五日 大支店増設成る。
- ▼十月卅一日 今上陛下第一の天長佳節を祝し奉り全店休業。
- 大正三年——
- ▼三月廿日 大正博覽會に記念賣場を設け、萬國案内係を併置。
- ▼四月十一日 皇太后陛下崩御につき通んで全店臨時休業。
- ▼九月十五日 明治四十四番上の本店新館工事落成。
- ▼同廿一日 三國神社の分業を本店屋上に勧進願書同式施行。
- ▼同廿五日 新聞記者百餘名招待。
- ▼同廿六日 三井一家其他招待。
- ▼同廿七日 より四日間新館移轉の爲め臨時休業。
- ▼同廿八日 本店新館開館式舉行。



しを必要とする時代が来た。乃ち呉服店越後屋の分離問題が孕まれた所以である。

7、搖籃期と曙光

◇ 獨立經營の初期  
◇ 尖鋭的營業方針

明治維新の鴻業成つて、三井は鉄後の功に依り新政府の爲替方といふ立派なお役人の資格に引上げられた。所謂官員の列に坐する三井家の主人が、何時迄も町人商ひをしてゐては體面にも關るといふ理由で越後屋は申しめられた。

それに、それまで縁の下の力持で散々脂を絞られ續けて来たところへ、一方文久三年偶々自火を出して魚河岸までも焼いて以來さすがに人氣は些か衰へ、爾來干戈の甚と化し物情騒然として呉服屋の如

きは顧みられぬ世の中となつて越後屋自體も大に疲弊萎靡してゐたのである。

明治五年三月、越後屋は遂に三井總本家から一旦弊履の如く棄てられた。

之を幸ひて潰させまいとしたのは三井得右衛門である。自身も三井から分立した事を明らかにする爲め、三越得右衛門と改稱し、越後屋の屋號こそ捨てなかつたが、店章も今の丸越に変更した。

過渡時代とは云へ、之れぞ三越の前身として第二期を劃するスタートであつた。

店員を明治十九年に洋行させたり、佛蘭西人を雇入れて洋服部の別館を建設開業したり、當時最先端を行く新方面

開拓に力を盡し、又傍系的に紡績や製絲業を經營して業礎を固めやうとした努力は蓋し異常なものがあつた。

一方三井本家では却て内訌が絶えず頗る振はない状態に沈淪したが、越後屋の動きに惹かれて、明治廿六年三越得右衛門を三井得右衛門に復し同年九月には三井復太郎を加へて兩氏名義の合名會社組織とした。



明治七年戊辰新築落成調成店跡後屋

- 同廿九日 取引先五百餘名招待。
- 十月一日 本店新館開店。
- 新販賣取扱品目は食料品、茶、餅、菓子、花井の四部門。尙ほ銘茶券、贈答券をも發行す。
- 十二月廿日 東京開業。

大正四年

- 四月五日 日本橋區品川町六番地の家屋一棟買収す。
- 同十六日 東總區三百年祭大法要の大名行列一行来店休息。
- 五月六日 六階屋上庭園にソーダ水賣場を設く。
- 七月廿日 野崎廣太社長退任。
- 同廿二日 組織變更滿十年祝賀の爲め三井一家其他招待。
- 八月十五日 組織變更滿十年祝賀會開催す。
- 同卅日 野崎社長首唱にて三越店員愛護會創設せらる。
- 九月十八日 大阪支店地盤築造。
- 十月四日 大阪支店建築着手。
- 同八日 京都支店所在地七百五十一坪を三井銀行より買受く。
- 十一月十日 御即位式當日につき全店員萬歳三唱、臨時休業。
- 同十四日 大嘗祭に付休業。
- 十一月一日 乾海苔を賣出す。
- 同九日 東京市御大典奉祝當日につ

越えて廿八年八月遂に合名會社をも廢して、元の如く三井本家經營に復し、高橋 義雄を擧げて理事に任命した。

恰も此時は百貨店に轉化する搖籃時代に差し懸つて居り同年十一月本店階上を改造して陳列場となし、デパートメント・ストアの形態に第一歩を踏入れたのである。

併し此の變化は主として三井首脳部動搖の餘波であつて越後屋が獨立合資會社であつても、三井呉服店と逆戻りをして營業の本體は一貫して進歩向上の一路を辿り始めたのであつた。

明治卅一年九月、支那人に

日比翁の迎へてから此の色彩は著るしく濃厚に表はれた。翌卅二年一月早々から機關冊子『花衣』を發行し、又新橋驛頭に大繪看板を掲げてポスターの先驅をなし、懸賞



越後屋創始の元勳 故比谷翁助氏

圖案募集をなす等、流行の指導を志すと共に大衆に呼びかける積極策と、其準備の爲めには多數専門家に協力を求める方法をとつて眼見ましい活動を開始したのである。

本店で産賣全盛場陳列式の先鞭をつけたのは其年の暮であつた。一萬千里の勢ひとは實に此事であらう。

女店員を採用したり、半價小切額を賣始めたり、西洋人向きの商品を陳

列したり、眞ッ先に外國から自動車を買込んで貨物運搬に使用したり、ショーウィンドを作つたり、新橋陳列會の旗を始めたたり、今日の百貨店の準備は四五年の間に急速に整へられて行つたのであつた。

き臨時休業す。

大正五年

- 一月一日 午前九時 千有餘の店員拜賀式後、桐任出張所長慶賀七五十年勳章表彰金頒與。
- 三月十八日 京成本町二丁目の家屋一棟買収す。
- 五月十五日 本店の高塔に 天氣豫報機設置開始す。
- 同日 技能獎勵技能員を規定す。
- 六月一日 京橋出張所新築着工。
- 七月六日 大阪支店小供寄附會敷地を龍王通町に五百二十七坪購入。
- 八月十八日 日本橋區室町一丁目一番地所在家屋を買入る。
- 十月一日 本店に「萬國相談所」を新設す。
- 同日 京橋出張所新築落成す。
- 十一月三日 立太子禮佛當日に付き敬意を表して休業。

大正六年

- 一月 資本金四百萬圓に増資。
- 五月一日 大阪小供寄附會新築。
- 九月廿五日 大阪支店新館落成。
- 同廿八日 右落成式を舉行す。
- 十月一日 大坂支店新館開業。
- 十一月三日 扶老店員慰勞休業。
- 同十五日 東京市御大典奉祝當日に



### 創立以來、資本金、拂込金、純益、配當率

年度	資本金	拂込金	純益	配當率	年度	資本金	拂込金	純益	配當率
	單位千圓	單位千圓	單位圓	割分		單位千圓	單位千圓	單位圓	割分
38上	700	700	46,445	8	9上	12,000	8,100	1,207,005	25
下	〃	〃	67,629	10	下	〃	〃	1,486,069	〃
39上	〃	〃	82,648	15	10上	〃	〃	1,767,275	〃
下	〃	〃	113,714	〃	下	〃	〃	1,583,387	〃
40上	〃	500	116,339	〃	11上	〃	〃	1,522,836	〃
下	〃	〃	149,917	〃	下	〃	10,000	1,240,890	20
41上	1,000	625	99,072	〃	12上	〃	〃	1,543,571	〃
下	〃	825	162,500	〃	下	7,000	7,000	752,938	12
42上	〃	〃	143,050	〃	13上	〃	〃	1,053,121	27
下	〃	〃	189,252	〃	下	15,000	9,000	1,170,236	15
43上	2,000	1,250	144,475	〃	14上	〃	〃	946,283	12
下	〃	〃	234,308	〃	下	〃	〃	1,331,079	13
44上	〃	〃	182,238	〃	15上	〃	〃	1,345,239	14
下	〃	〃	256,600	〃	下	〃	〃	1,597,353	15
45上	〃	〃	206,022	〃	2上	〃	〃	1,659,167	〃
1下	〃	〃	291,136	〃	下	〃	〃	1,915,186	〃
2上	〃	〃	244,061	〃	3上	〃	11,000	1,960,409	〃
下	〃	〃	314,098	〃	下	〃	〃	1,960,945	〃
3上	〃	〃	243,808	〃	4上	〃	13,000	1,788,857	〃
下	〃	1,500	289,932	〃	下	〃	15,000	1,731,373	〃
4上	〃	〃	236,874	〃	5上	〃	〃	1,377,009	12
下	〃	〃	407,489	20	下	〃	〃	1,405,506	〃
5上	〃	1,750	393,851	22.5	6上	30,000	18,750	1,301,531	10
下	〃	2,000	634,875	30	下	〃	〃	1,447,165	〃
6上	4,000	2,500	593,949	25	7上	〃	〃	983,502	8
下	〃	〃	859,958	30	下	〃	〃	1,253,313	〃
7上	〃	3,000	922,189	〃	8上	〃	〃	1,001,181	〃
下	〃	〃	988,145	〃					
8上	〃	3,500	1,036,005	〃					
下	〃	4,000	1,936,400	〃					



車動自赤迎送の前京東

八尺、(階敷)地下二階、地上五階  
(收容)家具加工部、染仕立部、和  
服縫製部、洋服縫製部、通信販賣部  
圖案部、小供寄宿舍、徒弟寄宿舍、  
八月五日 定休日を毎月第一、第三  
の日曜日と定む。  
十月一日 大阪支店にて實用品特價  
提供「わかば日」を開催。  
十一月三日 丸の内別館にて三日間  
「木蘭デー」を開催す。  
十一月十日 資本金三倍増資の豊千  
貳百萬圓とす。  
同十五日 本店西館増築地鎮祭。  
——大正九年——  
八月十一日 本店と東京館間に御客  
送迎用自動車の運轉開始。  
我國最初の試みなり

## 百貨店化

### 8、株式會社設立

◇ 日比翁助の理想  
◇ 創立時の大株主

日比翁助は自ら歐米視察に赴いて大いに得るところあり、鋭意三井呉服店のデパートメント・ストア化に全力を盡したが、只に先進國の模倣に甘んずるなく、自ら見識を以て理想を立て之を織込んで獨特なものを具現したのである。外國の純然たる大規模小賣場に倣らず進んで一種の社交場又は娯樂場をも兼ねて混然たる一大殿堂を目指したのが即ちその現はれで、我國現今の百貨店は悉く多少なりとも其色彩を帯びて外國のデパー

トメント・ストアと趣きを異にしたものとなつてゐるのは日比翁助の理想が徹底して全國的になつたものと見て支障ないのである。内に對しても亦、店員の待遇を改善しつゝ、精神的團結にまで突き込んで行つた頭は實に鋭いものである。之等の一々を證明する實證は多々あるが茲に書く紙面を有しない。下記「三種年譜」と對照して了解されん事を切望しておく。斯くして滿五ヶ年の努力は立派に三井呉服店を百貨店化し、準備は大體完成した。明治廿七年十二月六日、茲に株式會社三井呉服店の創立となり、三井呉服店は解消して權利義務一切は新會社が繼承する事となつた。

店章も丸越に復歸して完全なる獨立は宣せられ、更に新なる氣を以て邁進を續ける事になつた。當時の概要如左  
資本金五十萬圓、内三十萬圓拂込、株數壹萬株、株主百十四名  
(事務取締役) 日比翁助(取締役) 高橋義雄、朝次英一、藤村善七、益田英作、(監査役) 大島雅太郎、其他大株主中から二三摘記すれば  
池田成彬、和田豊吉、鈴木梅四郎、井上勝之助、波多野承五郎、野崎廣太、藤原銀次郎、早川千吉郎、中村利徳太郎、山岡才次郎、米山梅吉、森本半次郎、山本條太郎、武藤山治、藤山雷太、團琢磨、井上泰三、寺原健一、柄澤正三、横河民輔、飯野三一、山口萬三郎、二神慶吉、磯村豊太郎、中島實司、北村千次郎、……  
次に掲ぐる資本金變化及び利益金、配當年次表によつて其後の大勢は察知出来る。



館別たし滅全で災震

竣工 大正七年一月四日  
竣工 大正八年七月廿四日  
(建坪) 五百九十七坪(合三弓) (延坪) 三千五百八十四坪(軒高) 六十尺  
——大正八年——  
二月五日 丸の内別館地鎮祭。  
三月廿九日 大阪支店舊館より出火し同館全焼、三日間休業。  
四月廿六日 春季店員慰勞休業。  
七月一日 日比會長、野崎社長共に辭任す。  
十一月九日 大阪舊館に新築着工。  
——大正九年——  
八月一日 丸の内別館開館式。



9、三越の發達期

野崎會社の時代
初代専務日比翁助が八年有半の長い間、晝夜寢食を忘れて肝膽を砕き、又洋の東西を股にかけて活躍を続け、大三越の基礎を固めた事は餘りに周知されてゐる。而して女房役としては影の形に添ふが如く常務藤村喜七のあつた事を見道がす譯には行かない。

本店新築の進歩的擴張

本店の店構へが、陰氣な土藏造りの舊套を脱いで、木造假建築ながらも洋館三階建のモダン姿に變り、間口廿四間半、奥行廿間半、賣場面積延約六百坪になつたのは明治四十一年三月である。今日の状態に比較すれば五



野崎廣太氏

本建築に着手してゐた。永久的建築として今でも使つてゐる東館は大正三年九月に出来上つたが、當時間口二十一間弱、奥行三十一間弱、五階建延四千〇〇三坪の大建築が、丁度好景氣を控えて甚だ有効な時期に間に合つたのも日比翁助の先見と英斷の賜

百坪や六百坪の店はチツポケなものであるが、當時としては素晴らしいものであつた。日比専務の理想は、それで満足してゐた譯ではない。明治四十三年には資本金二百萬圓に増資し、同四十四年七月から鐵骨コンクリートの東館

物であつたと云へる。併し、之に先立ち、日比専務は過勞の結果病床に就く事多く、大正二年七月専務を辭し、新に常務二名、朝吹常吉、中村利器太郎を擧げて、藤村と共に三常務の合議に従つて經倫を續行せしめてゐた。

野崎社長と朝吹、中村

超えて大正四年七月廿日を以て藤村常務第一線を退くと共に、當時中外商業新報社長であつた野崎廣太を迎へて取締役社長とし、取締役會長日比翁助、朝吹常務、中村常務の陣立てで着々既定計畫を進行せしめた。

日比専務の理想は圓滿迅速に實現してゐたが、茲に一段落付けねばならなくなり、次の計畫が始まつた。

三越車やかなる時代

野崎社長の時代は大正四年七月から同七年七月まで滿三ヶ年で必ずしも長くはなかつたが、丁度歐洲大戰後の最好況時代であつて、屈竟な店舗はあるし、女房役としては、現帝國生命の名社長と云はれてゐる朝吹常吉、現三越専務として時宜に適した手腕を揮つてゐる中村利器太郎の二常務が双翼となつてゐたのであるから氣持の好い程な成績を擧げ、利益率も飛躍又飛躍、四年上期廿三萬圓であつたものが同下期には四十萬圓となり、同上りに七上期は九十二萬圓、同下期には九十八萬圓を計上した。

遂に三割の恒例を残すまでになつて行つた。

盛んに擴張を期す

一方大正四年九月から大阪支店新築を始めたり、京都支店の土地を買入れたり、五年六月京城出張所新築を始めたり、大阪に寄附舎を建てたり、六年東京落合染工場を敷設したり、七年から三千五百坪鐵筋コンクリート丸ノ内別館を建て始めたり、却々手斷く資金を要する事業も起した。



倉知誠夫氏

規模擴大は、其頃擡頭した同業者との競争意識も働いて推車をかけて來た。従つて儲けた金ばかりでは足りなくなつて大正六年上期には資本金四百萬圓に倍額増資し、一年後には第二回拂込も徴收して拂込金額三百萬圓

に及んでも、走り出した車は容易に止まるべくも見えぬ状態を示して來た。

其の最中に大正七年七月、故あつて野崎社長は辭任したので、朝吹、中村兩常務が踏止まり力戰奮闘を續けた。

三倍増資の千二百萬圓

大正九年七月には三代目の主宰者に倉知誠夫が専務となつて起つたが、直に八月の上期決算には三倍増資の千二百萬圓を斷行せねばならない状態であつた。

倉知専務就任すると共に、朝吹、中村の兩常務は引退して新しい女房役に笠原健一、山岡才次郎の兩常務が代つて出たのであつた。

左に創立以來の専務全部を古參順に在任期間順べを記載して參考に資する。

- ▼九月十日 定休日を毎月十五日及び廿五日の二回に改正。
- ▼同廿九日 青山デパートを開張。
- ▼デパート設置の先驅
- ▼十月一日 大阪支店東館開館。
- ▼同十日 本店南館(中央木道館)落成す。
- ▼十一月一日 明治神宮講堂落成日につき臨時休業。
- ▼十一月 小口商品券(五十錢)券を初めて發行す。
- 大正十年——
- ▼四月十日 駒澤俱樂部新築落成
- ▼同十一月 右落合購買運動會。
- ▼六月十日 藤村取締役五日病死、社葬と青山會場にて告別式。
- ▼同廿日 本店西館増築落成式
- ▼九月一日 洋服部、家具部、和服裁縫部、染工部の技工及小使を二日に分ち有樂座に慰安會。
- ▼十一月廿九日 京城、出張所寄附會敷地を買入る。
- ▼十二月十三日 本店に三越廣の市を初めて開く。
- ▼同卅日 大阪城北加土部工場落成。
- 大正十一年——
- ▼一月十一日 より三日間、本店ギャラリーに三越遊藝會公開。
- ▼二月一日 本店北入口に履物の儘求



女神像

- ▼九月一日 午前十一時五十八分關東大震災突發。東京市内卅七萬四千四百餘坪、郡部廿萬餘坪は焼土と化し、



### 創立以来の重役任期記録

【注意】明へ明治、大へ大正、昭へ昭和の略。ゴチャクは現任を示す。

- 朝吹 英二 一年一ヶ月  
取締役 大九・七・二〇 大〇・一・二〇
- 高橋 義雄 一年一ヶ月  
取締役 明三・二・二六 明三・三・二〇
- 日比 翁助 八年七ヶ月  
専務取締役 明三・一・二六 明三・一・二〇
- 藤村 喜七 一年三ヶ月  
取締役 明三・一・二六 明三・三・二〇
- 藤村 健 一年二ヶ月  
監査役 明三・一・二六 明三・一・二〇
- 大島雅太郎 一年一ヶ月  
監査役 明三・一・二六 明三・一・二〇
- 野崎 廣太 九年六ヶ月  
取締役 明三・一・二〇 大四・七・二〇
- 益田 英作 十六年三ヶ月  
取締役 明三・一・二六 大〇・一・二〇
- 林 健 一年二ヶ月  
監査役 明三・一・二六 明三・一・二〇
- 松田 政臣 六ヶ月  
取締役 大九・七・二〇 大〇・一・二〇
- 前山 久吉 現任  
常務取締役 昭七・二・〇一 昭七・二・〇一
- 竹内 善次 現任  
取締役 昭七・九・二六 昭七・九・二六
- 山岡才次郎 六ヶ月  
取締役 大七・七・二〇 大八・七・二〇
- 中村利器太郎 現任  
取締役 大八・七・二〇 昭七・八・一六
- 朝吹常吉 六ヶ月  
常務取締役 大七・七・二〇 大八・七・二〇
- 酒井 良明 十五年七ヶ月  
監査役 明三・一・二〇 大〇・七・二〇
- 鈴木梅四郎 現任  
常務取締役 昭六・三・二五 昭六・三・二五
- 笠原 健一 一ヶ月  
取締役 大七・七・二〇 大八・七・二〇
- 小田久太郎 一ヶ月  
取締役 大八・七・二〇 昭二・九・四
- 倉知 誠夫 二ヶ月  
常務取締役 大七・七・二〇 大八・七・二〇
- 藤田 一松 現任  
監査役 昭九・九・二〇 昭九・九・二〇
- 柳 莊太郎 現任  
監査役 大七・七・二〇 昭七・七・二〇

死者七萬餘大慘事。  
三越本店は三頭神社神靈を宮城前に避難し、自動車乗用貨物用合計十五輛、丸の内別館地下室ガソリン庫のみを無事に残し其他一切を烏有に帰す。



九月三日 震災緊急本部を本郷青年會館内に設く。  
三日 臨時部署を定む。  
四日 本部を青山デパートに移す。  
六日 震災後第一回重役會議。  
七日 使用人一同に對し、十月以降二ヶ月間非常勤務を命ず。  
八日 本店掃除整理に着手す。  
十日 使用人給料一部前拂開始。  
十一日 店員別途預金支拂開始。  
十二日 第一回重役會議。

九月三日 震災緊急本部を本郷青年會館内に設く。  
三日 臨時部署を定む。  
四日 本部を青山デパートに移す。  
六日 震災後第一回重役會議。  
七日 使用人一同に對し、十月以降二ヶ月間非常勤務を命ず。  
八日 本店掃除整理に着手す。  
十日 使用人給料一部前拂開始。  
十一日 店員別途預金支拂開始。  
十二日 第一回重役會議。

- 松田 政臣 六ヶ月  
取締役 大九・七・二〇 大〇・一・二〇
- 前山 久吉 現任  
常務取締役 昭七・二・〇一 昭七・二・〇一
- 竹内 善次 現任  
取締役 昭七・九・二六 昭七・九・二六
- 北田内蔵司 四ヶ月  
取締役 大二・一・八・三 昭一・九・二〇
- 山下源之助 三ヶ月  
取締役 大九・九・二一 昭三・八・三二
- 幾度 永 一年六ヶ月  
取締役 大九・九・二〇 昭三・三・二〇
- 麻生 誠之 現任  
常務取締役 昭一・九・二〇 昭一・九・二〇
- 林 市藏 現任  
監査役 昭一・九・二〇 昭一・九・二〇
- 林 幸平 現任  
取締役 昭一・九・二〇 昭一・九・二〇



小田太久田氏

三越最近の状態に移るに先立ち、会社創立以来の各時代を抽出して見やう。

- 昭和時代 自昭和七・一・一〇より 昭七・七・二〇
- 大正時代 自大正四・七・二〇 至大正七・七・二〇
- 明治時代 自明治一・九 至昭和七・二〇

- 野崎廣太時代 自大正四・七・二〇 至大正七・七・二〇
- 中村利器太郎時代 自大正七・七・二〇 至大正九・九・二〇
- 倉知誠夫時代 自大正九・九・二〇 至昭和七・二〇
- 小田久太郎時代 自昭和七・二〇 至昭和七・二〇
- 藤田一松時代 自昭和七・二〇 至昭和七・二〇
- 柳莊太郎時代 自昭和七・二〇 至昭和七・二〇

- ▼ 十三日 水災見舞、死亡弔祭料支給する旨を發表す。
- ▼ 十五日 本部を本店後跡内に移す
- ▼ 十七日 苦情陳列先地整理委員、仕入通信整理委員、賣掛代金整理委員を夫々任命す。
- ▼ 廿日 小石川マーケット設計着手。
- ▼ 廿一日 初めて商品の入荷あり。
- ▼ 廿八日 中村取締役を臨時相談役、山岡取締役を臨時仕入相談役兼庶務長に任命す。
- ▼ 十月十一日 水道橋橋脚にバラック急設し三越マーケット開業。
- ▼ 十五日 小石川、青山南マーケットを開店す。
- ▼ 廿八日、新宿マーケットを開店。
- ▼ 十一月八日 日本工業俱樂部に臨時株主總會を開き、震災損失金補償費本金減少の件を議す。
- ▼ 十一月 日本までの被害取調は、被害者千六百六十七名、災死者千四名消息不明八名、家族災死者二十二名を算出に開致。
- 土足入場の制の先驅 本郷マーケット開店。
- ▼ 十一月三日 浅草マーケット開店。
- ▼ 十一月七日 野馬マーケット開店。
- ▼ 十一月十日 中野臨時相談役を解任。



關東大震災と焼太り

大正十二年の關東大震災に遭ひ本店を烏有に歸した時に一朝にして七百卅七萬餘圓の大穴があいたのど些か驚かずにもみられなかつたが、それでも決して閉口した譯ではなかつた。直後資本金一千二百萬圓拂込一千萬圓を、七百萬圓全額拂込に切捨減資した

之は云ふまでもなく震災後の眼見ましい復興と、次に大擴張を企てた積極政策の爲めの必要からさうしたものであつた。

株式市場に出ず

日比專務時代には社會事業乃至國家事業の意氣込みであつた理想が、何時となく營利會社本位に轉化して來た傾向は事實である。以前には殆ど獨占的立場にあつたものが、此頃になつて有力な同業競出を見、自然競争もせねばならず又一般會社情勢がさうなつて來た結果とも云へるが、反面又主宰者の主義方針が其處を指してゐた事も争はれない。

株相場高低表

Table with 2 columns: Year (大正十三年, 十四年) and Price (最高, 最低). Values range from 96.5 to 73.5.

新株相場高低表

Table with 2 columns: Year (大正十三年 to 十五年) and Price (最高, 最低). Values range from 35.0 to 75.0.

- 大正十三年 一月八日 各三越マーケットを三越分店と改稱す。
一月八日 東京區下御成橋につき蒸し休業す。
二月一日 本店四階、五階を開店。
二月末 上朝決算は會社創立以來の最高記録を示す。
六月五日 皇太子殿下御慶事につき本店休業(大阪支店は一日)。
七月廿五日 増資八百萬圓議決。
十月廿八日 東京店員慰勞休業。
十月廿八日 本店分店を閉鎖す。
大正十四年 二月廿八日 銀座分店を閉鎖す。
四月廿八日 淺草分店、上野分店を閉鎖す。
五月五日 三越少年音楽隊を廢止す(十八年間常設せられしもの)。
九月十五日 本店西區修業落成。
廿日 本店西區は開業す。
廿五日 小石川分店、牛込分店を閉鎖す。
十月一日 新宿分店(驛前五階建約一千坪現在一幸)を開館し、追分のバラックより移轉開業。
又、京橋區南橋町一ノ四に外賣係出張所を開設す。
十月十二日 本店内に鐵道案内所と

11、完成と充實期

支店網の大擴張
中村專務充實策
昭和二年九月、小田專務が代つてからは倉知專務に輪をかけて積極政策で、盛んに支店網の擴大を行ひ

大三越と

各地現状

支店網の形勢

大三越の情勢一斑は、之を要するに本邦百貨店業界に於て第一流たること繰返して云ふまでもない。
東京に於ける勢力は流石に本店を有する事と、銀座目抜き街の繁華街に割込み、又新興の新興に蟠居してゐる強味

新宿、銀座、高松、金澤、札幌、仙臺と矢張り手に伸ばし、一方資本金三千萬圓に増大して規模の大にして利益率低下の憾を生じ、恰も重役間の暗闘に絡んで止むなき事情から、昭和七年十月、潔く引退し、中村現專務に後事を委ね完成充實を期する事となつてゐる。

があり、三店合計總延坪實に二萬二千八百二十五坪餘に及んで動かし難い根柢を持ち、加ふるに永年間に築いた「天下の三越」といふ看板の信用を以て斷然歴へてゐる。
大阪も亦周知の如く最古の歴史を有して、本店に次ぐ大規模な、而して萬端本格的デパートの態形を完備してゐる店であるが、近年繁華街が堀筋から御堂筋に移つて交通

の要衝から取殘された觀があり、且つ同業各店共競つて超弩級の大建築を完備したので些か見劣りする點もあつて昔日の威風なく目下善後策に腐心中の模様である。
京城支店は、利益率から見て三越各支店中の首位を占めてゐるらしく、大連も店舗狭少の割合に非常な好成績を擧げてゐる。

其他 高松と金澤は最も振はないが、仙台は無難の状態に達してゐるにも拘はらず札幌は却て伸びないのを不思議とされてゐる。最も困つたものは神戸支店で、三越の看板をかけてゐるのが惜しい程に人氣が腐つてゐる。
總括的に見た大三越は現中村專務以下の努力で漸次光を増して來てゐる。

- 大正十五年 五月十五日 大阪支店十人入場。
六月一日 本店東館一部修業竣工せしを以て直ちに開店。
九月十四日 蒲田に家具工場敷地を買収す。
十二月 大阪支店増業の兩館に事務室を移し賣場を擴張す。
昭和二年 一月 大阪支店にて白米を賣始む。
二月七日 御大陣當日に付休業。
三月一日 住百デパートを設く。
同廿八日 青山分店を閉鎖す。
四月一日 本常修業全部落成。
同十日 本店に理髮、美容開業。
同廿三日 石垣會主館にて三越ユーマラスの夕を開演。
同卅日 小供寄宿舎敷地を買収。
六月廿八日 大阪支店敷地買収。
十一月三日 明治節制定記念舞臺を本店屋上に開演す。
同卅日 大連出張所新築落成。
昭和三年 二月一日 本店に三越ポーター(赤帽)を設置す。
商品試驗室、細菌検査室を設置。



▼十五日 より五日間中央館樓上に店員修校作品展覧會を開催。  
 ▼四月十一日 青年買取地を賣收。  
 ▼五月一日 大連支店新築開店。  
 ▼六月一日 株式会社三越京服店の商號を「株式会社三越」と改稱す。  
 ▼同日 大阪支店神戸分店を獨立昇格して神戸支店に改む。  
 ▼同日 支店を新設す。  
 ▼三月 三越ホールにて先づ「諸靈位の大法要」を執行す。  
 ▼七月十一日 新宿支店用敷地買收。遺物同製の御大禮記念章牌頒布所の指定を受く。  
 ▼八月一日 大阪支店八階塔上に商品試驗室を設置す。  
 ▼十月九日 店名規定を設く。  
 ▼十一月一日 神戸支店にポーターを新設す。  
 ▼同日 品川少年寮落成す。  
 ▼十一月三日 新宿支店商業警察昭和三年下期は買上額並に創業以來の最高記録を示す。  
 昭和四年  
 ▼二月廿一日 三越は東京商工會職員に當選す。代表者小田久太郎。  
 ▼七月一日 京都デパート、堺デパートを新設す。  
 ▼八月十九日 ツエツメリン伯號飛行

船三越上空に飛來す。



……てめすかを塔高越三號泊エツ

▼九月廿日 新宿、京城、大連を支店と改稱す。  
 ▼十月 鈴木孝五郎を米國に派遣す。  
 ▼十一月十二日 中野青年寮竣工。  
 昭和五年  
 ▼米國 ウォリツア製糖會社よりパイプオルガンを購入本店に揚付く  
 ▼四月十日 銀座支店開業す。  
 ▼十月二日 新宿支店新宿へ移轉す。



たけ付揚に階二ニ  
ンガルオアイ

▼同廿四日 京城支店は本町一ノ五十一新館に移轉開業す。  
 ▼十一月十五日 金澤支店開業。  
 昭和六年  
 ▼二月廿一日 日比谷助氏長逝す。  
 ▼同廿五日 三越中興の元勳者日比谷助氏に社葬の禮を盡し、青山斎場にて佛式告別式を執行。護符祥雲寺に厚く葬る。  
 ▼三月十七日 高松支店開業。  
 ▼同廿七日 洋書賣場を七階に設く、債額増資可決資本金三千萬圓也。  
 ▼四月一日 牛豚賣場を新設。  
 ▼六月十一日 舊株式長期市場上場  
 ▼八月一日 新株式長期市場上場  
 昭和七年  
 ▼一月三日 三越大黒祭。  
 ▼同六日 初笑の會。  
 ▼四月廿九日 東京地下鐵道「三越前」停留場開業す。  
 ▼五月一日 札幌支店を開業。  
 ▼九月一日 町名改正の結果、由緒深き駿河町の名は消れて、宣町二丁目と改稱さる。  
 ▼十月一日 日本百貨店協會の自製協定により送迎自動車を購入す。  
 同月毎月三回、八の日に一齊休業を本月より實施す。

▼十一月一日 商品券取締規則により本日以後は五圓未満の商品券發行を禁ぜらる。  
 昭和八年  
 ▼二月廿一日 大阪支店長竹内泰次氏は現職のまま、新たに取締役に列せらる。  
 ▼二月廿一日 仙臺支店開業。  
 ▼四月一日 仙臺支店開業。  
 ▼正月一日 第十回社債額面五百萬圓也を償還す。  
 ▼七月三十日 大支店附屬三越館約六百坪の改修成る。  
 ▼八月廿一日 東京商工會議所議員改選により三越は代表者中村利徳太郎一級議員に當選す。  
 ▼八月廿一日 京城の舊營業所の土地建物を譲與に賣却の登記完了。  
 ▼十月一日 第十回社債額面四百萬圓を償還す。  
 ▼十月十五日 第九回社債六百萬圓を償還す。  
 ▼十月廿五日 第十三回社債二百萬圓を新たに募集す。  
 ▼十一月廿日 仙臺支店附屬木造ハラック事務所七十二坪竣工す。



# 東京市 三越本店

日本橋區室町五丁目

## 本店各階坪數

地下二階	九五八・五五七
地下一階	一、一八三・八九七
一階	一、八八八・八九六
中階	三三三・五七九
二階	一、七三三・七六九
三階	一、七五〇・六四一
四階	一、七四九・七三二
五階	一、七四九・七三二
六階	一、六三三・八七六
七階	一、三五五・八一四
八階	一六二・八九〇
中九階	四四・三八六
高九階	一一・二九四
高十階	一一・〇五〇
高十一階	一一・〇五〇
合計	一五、三八〇・一四五

## 従業員總數

本部	九六
本店	三、一九九
計	三、三九五



日本百貨店商業組合加盟店

## 本店光榮史

○明治卅一年十月 東京陛下(大正天皇)の御召料羽一重製織御用命を受く  
 ○明治三十六年十一月 伯爵大隈重信閣下御來店  
 ○明治三十七年三月 三井炭礦店創案友崎齋「早稲田の蕪」皇后陛下御覽上を賜ふ。  
 ○同年九月廿六日、日露戰艦の爲に御來朝の獨逸皇族カール・アントン・フオン・ホー・ヘンツォルレルン閣下御來店  
 ○明治三十八年七月廿六日、米國陸軍卿ダフト氏、ルーズベルト總領事來店  
 ○同年十月十七日、英國東洋艦隊司令長官ノーエル大將及び米國ブライアン氏御來店。  
 ○同年十一月十一日、農商務大臣清浦奎子閣下御來店。  
 ○明治三十九年三月三日、清國皇族載瀾閣下御來店。  
 ○同年同月六日、侯爵伊藤博文閣下御來店。  
 ○同年同月廿一日、東郷、黒木、伊集院の諸將軍御來店。



設立時代 (1)



明治七年五月十五日落成した越後... 屋時代の遺物。上層造り一階建、間口六間、奥行十間と註されてゐる。本誌六十四頁に掲げた寫眞と同建物をすが明治廿六年春に外面總シヨウキンドに改修され、翌年株式會社になつてからも暫らく明治四十年木造洋館が出来るまで其儘でした。

三越本店の現状

交通位置

江戸繁華の中心たる日本橋は明治になつて銀座に割取され、最近名物魚河岸が築地に移轉してから昔の日本橋ではなくなつた。併し、江戸名物越後屋の名を尊かしめ明治大正昭和へかけての三越は又斯うした環境の不利をカバーして餘りある繁昌を続け、今では専ら三越あるが爲の日本橋の賑はひとまで云はれ、昔に勝るとも劣らぬ勢力を示してゐる。東京驛と三越との間を無料送迎する赤バスを昭和七年秋に廢止させられたのは一寸痛

特徴

地上二百尺の高塔を見よ！堂々一萬五千坪の豪華建築を見よ。全店内に爽快なメロデイーを漂はすパイオルガンの絶えぬ奏樂を聞け。是等は到底他店が及びもつかぬ大きな特長である。顧客層は云ふまでもなく全般に亘つてゐるが殊に堅實で上品向が多い。食堂の勘定後拂、間断なき

建築設備

一括して舊館と呼んでゐる東館、中央館、西館は延八千九百十二坪に、南新館が全部竣工すれば六千五百餘坪で、合計一萬五千四百十二坪。新館から始めて概要に及び簡単に説明すれば、先づ今度第二地階を設けた事である。第一地階 九五〇坪、營業設備、浴房、帽房、自家発電、噴泉、水産自動消火等諸設備及び登壇工作所まで大層堂の心臓部あり。第一地階 二二七〇坪、マーケット賣場、御役物所、御預物所、御届物所、店員食堂、金庫等があり、三

店内配置一覽

Table with 7 columns and multiple rows listing various departments and their locations within the store.

尺の階段を上つて善地地下室と聯絡してゐる。東館の部はマーケット賣場、小食堂、西館は事務室、客用便所し新設等、悉く浴房装飾を磨上してゐる。第一地階中央階段兩側にはエスカレーターを設けて一階に昇降出来る筈である。一階中央部には百二十坪の六階から地階まで打抜いたドーム型丸天井ライト・ウエル（ホール）ありて採光と美觀を充分ならしめてゐる。向、床の中央に大噴水あり、其周圍にはベンチや植木鉢を配して爽快な

休憩所となつてゐる。南新館の入口は自動車表玄関となり、従来の北側入口と正對し南北に貫通してゐる。其他、六階と七階に善美を盡した大食堂が出来、五階現大食堂は大催場となる。◆新館六階食堂、客席三百、厨房百六十坪、浴房装飾あり。◆七階第二食堂、座百、厨房七十坪。エレベーター ◆新設十臺。ホール東西各五

- 同年同月九日、日露戦後の際に捕兵品賣場の一として賣場より金盃一個を下賜せらる。
○同年四月、昨年獨逸皇太子殿下御慶事に際し、刻鏤屏風を献上したるに對し、兩殿下御褒名人入り御寫眞を下賜せらる。
○同年十一月廿日、五兵衛會に三越皇服店よりの出品を、皇陛下の御買上の光榮に浴す。
○明治四十年二月一日 久遠宮殿下御發行御來店。
○同年六月廿日、久遠宮殿下御來店あらせらる。
○同年七月十九日、大山元帥來店。
○同年九月十五日、井上侯爵御家族同伴にて來店。
○同年十二月十七日、福井丸記多品一覽のため東郷大將御來店。
○同廿日、韓國皇太子殿下御來店。
○明治四十一年。
○三月卅一日、伏見大宮殿下御成、徳川慶喜公御來店。
○五月十四日、伊藤公卿御來店。
○同十九日、旅順閉塞船砲丸の贈材もつて製作せる記念品御贈。
○同廣州好意個を元帥海軍大將伊東祐亨閣下を経て兩陛下に傳奉献上し御納を賜ふ。
○八月一日、有栖川宮殿下御先導にて都下自動車九臺、立川方面ドライブの事あり、當店自動車も食料品運搬の任にて参加す。
○十月六日、山縣元帥御來店。
○明治四十二年。
○二月廿一日、宮内省御用達の名稱を許可せらる。
○十二月、東郷大將の傳奏により三等艦艇材にて調製せる花板と額各壹組宛、兩陛下に献上す。
○明治四十三年。
○四月五日、清國皇族、殿下御來店あらせらる。
○同卅日、久遠宮殿下殿下、同若宮朝融殿下、同邦久殿下御同列にて慶臨遊ばせらる。
○五月三日、韓國皇太子殿下御成、同四日、久遠宮殿下子女兩殿下殿下御成遊ばせらる。
○金子子爵、後藤選信大臣等第二回兒童博覽會賞状授與式來臨。
○十月四日、三皇孫殿下慶臨。
○十二月廿一日、實業海軍大臣、廿二日井上侯爵、廿九日大山公爵何れも御來店。
○明治四十四年。
○一月十七日、東郷大將御來店。



木造時代



起工 明治四十年八月廿五日
竣工 同四十一年三月十五日
敷地五百六十三坪
ルネッサンス式木造
建坪 五百〇二坪
間口廿四間半、奥行廿間半
軒高 五十二尺、階段 三ヶ所
入口 幅十三尺五寸、高十二尺五寸
【賣場面積】一階百六十六坪、二階
二百八十二坪、三階百四十七坪、
計五百九十五坪

ロドタイプと稱するシグナルコント
ローラーがつけられた。
◆西北隅に三臺。
マルチボテージ式三千五百ポンド、
十八人乗、一分間三〇〇呎
◆東館三臺。
マルチボテージ式二千ポンド十八
人乗。
合計客用十六台。其他貨物
及び事務用七台。計廿三台。

エスカレーター
從來一階より五階まで通す
る四台(オチス製)を運轉し
てゐた外に、新館地階より一
階に通する三台(カールクロ
ア式)を加へ、都合六台であ
る。
毎分速度九十呎のものにて、一時間
に四千人を運ぶ能力あり。

冷房装置
四三〇馬力の國産ターボ冷
凍式を設備して、地下室、マ
ケット、六階ホール、六七階
兩食堂に夏季冷風を、冬期温
風を送る。
冷房能力は三四〇噸、用水一萬七千
石と稱す。

換氣装置
全館に配置せる放熱器全面
積は二萬八千方呎ある。
アイデイルチユーブ・セクショナ
ルボイラー六臺を原動力として真空
低壓式換氣機を設け、
換氣装置
二二二台、百九十七馬力半
の電氣ブローアを以て通風及
び排氣を行ふ。且つ屋上より
取入る新鮮なる空気に、オゾ
ン發生機によりオゾンを加へ
殺菌消毒作用をなさしめ、平
均十五分毎に店内の空気を一
新する。

パキウム・クリナー
店内の塵芥を吸集するため
三十馬力のポンプを使用し、
各階廿五ヶ所から地下室のバ
キューム・タンクに集める。
防火設備
全店天井方十尺毎にスプリ
ンクラー七千五百個あり。

明治四十五年
三月廿日、少年普樂隊は大山元帥
邸にて、皇太子殿下御前演奏をな
すの光榮に浴す。
五月廿七日、久遠宮信子殿下には
朝禮王、邦久土兩若宮殿下並に良
子、習子、信子の三女王殿下御同
仔御來店の榮を記す。
大正元年
八月十七日、コンノイト殿下再び
御來店遊ばさる。
大正二年
二月二日、孫皇太子御來店。
五月八日、山本總理大臣御來店
同十八日、李王世子殿下、伊藤博
邦公と共に御來店。
大正三年
六月一日、大正博覽會特別出品の
絹唐織丸帯一本、工業館出品のマ
ホガニー製ギルト・マウント・キ
ャビネット壹個、宮内省御買上の
光榮に浴し、尙ほ名譽大賞牌を授
與せらる。
九月廿八日、本店新館落成式につ
き大隈首相代理大隈總督官、岡陸
相、若槻總相、各國大使其他朝野
名士三百八十名臨席す。
十月十五日、福生出張所長發給證
七は永年格勳勳のため群馬縣知
事より表彰銀金を贈らる。

英國マザープラット會社製、百五十
度にてメルトし自働放水し、放水栓
ヘッドに於て百ポンド以上の壓力を
以て一分間六百五十ガロン(約十六
石)の水を爆發的に放射し直徑十尺
位の水霧面を作る。
水源は屋上タンク十一個に
七萬八千ガロンの水を常備し
平時は飲料や雑用に供給し、
非常時には別に自働アラーム
により百〇八馬力のサクショ
ンポンプが働き、水道及井戸
より給水する。
三越の井戸は、一晝夜に一萬七千石
七千石、一千石の湧出ある三ヶ所あ
り

電力と自家發電
買電は二千三百三十キロにて
變壓器十四臺は地下線に聯絡
東電一、九五〇、市電一八〇キロ
自家發電は、英國ラストン
エンチン七五キロ、及び二七
五キロの二臺で合計三五〇キ
ロあり、廿秒にして發電す。

新館五階に電話交換室を設
け、店内外共自働交換の最新
式を設備す。
◆外線受付六シート、外線五十本内
線四百回線を備ふ。

文化貢獻
各種の大催物
展覽會式の催し物は明治四
十二年第一回兒童博覽會以來
各種各方面に亘る涉獵蒐集を
なして同店の客足を引くに役
立つのみならず、一般社會の
文化に多大な貢獻をなしてゐ
る最近の催し二三を摘出すれ
ば、
昭和四年
武蔵野今昔の會
相模に關する博覽會
生き物趣味の會第一回展覽會
日本アルプス展覽會
人類の衛生展覽會
住宅衛生展覽會
歐米兒童博覽會
國立公園博覽會
古九谷とその製作展覽會
江戸時代風味衣裳展覽會
伊太利美術博覽會
佛蘭西新工藝展覽會
昭和五年
東京近郊梅の名所博覽會
復興記念帝都今昔の會

開店 大正三年十月一日
起工 明治四十四年七月五日
竣工 大正三年九月十五日
ルネッサンス式鐵骨混煉土
建坪 六百十九坪(合四〇
延坪 四千〇〇三坪(合七
間口 百二十五尺五寸
奥行 百八十五尺
軒高 八十五尺九寸五分
塔頂 百七十七尺七分五厘
【附設】地下二階、地下五階
【入口】幅四間、高七間半
【階段】四ヶ所七尺幅六尺五寸幅











# 沿革

赤煉瓦舗道の銀座、當時あの角店は山崎洋服店であつた。其他三人が震災後に共同で、貨事務所ビルの建設を企てたのが抑々始まりとなつた。株式會社二幸が食料品を出すべく交渉は工事中途で纏まつた爲め、昭和四年九月、當時三越神戸支店長だつた市丸八郎氏が喚ばれて急遽設計變更を加へ、準備してゐたが、話は再轉して翌五年二月、今度は三越が店を出す事になり又もや出来る丈けの模様替へをやり、間もなく四月十日に三越銀座支店として開店したといふ始末である。

年一月まで刻苦奮闘し、市丸氏辭任の後を襲ふて現支店長潮長良直氏が本店洋服係長から轉じ來り、目下鋭意モダン化した營業振りに愈々深く喰入つて成績向上に努力中である。



氏直良水潮長店支

# 業態

叙上の如く環境困難と、建築上不適といふハンディキヤツプある上に、近隣には本格的な構えを有する松屋本店や松坂屋銀座店の挾撃的壓迫を受ける關係から、兎角營業狀態は採算とれるまでには容易なことでないらしく、開店以

# 幹部

支店長 潮長 良直  
次長 長谷川 小録  
主任待遇 樋野ヨスエ  
主任待遇 太田 徳行  
●監理係  
●出納係  
●庶務係  
●受渡係  
●食料品賣場係

主任 大久保彦太郎  
同 堀内 榮治  
同 大坪 三郎  
同 上田 武  
同 中村 俊次  
同 鈴木 四郎  
同 茂木 貞三  
主任 乙部 重道  
同 小林 弘道  
同 森 謙藏  
同 山登 夏雄  
同 鹿原 惠三  
主任 安井 盛藏  
同 細谷 高福  
同 佐野 忠  
同 佐川 秀勝  
主任 安井 盛藏  
同 細谷 高福  
同 秋元 善雄  
主任 長谷川 小録  
同 齋藤 泰忠  
●其他合計全店員數四百六十七名

長店支の來以店開  
氏郎太作木茂



# 三越新宿支店

東京市

△開業 昭和五年十月十日(所有、新築移轉)  
△建物 鐵骨鐵筋コンクリート造  
△延坪 四、四九七坪(地下三層地上八階)  
△店員 總人員、八百五十名



日本百貨 店商會館 會加盟店

# 概要

三越のドル麗と稱せられてゐる新宿支店は、毎日の入場人員平均五萬人と云はれてゐる。物日の最高は十五萬までも、土曜日曜は七、八萬

平日でも四萬を下らぬ繁昌振りで、殊に入場人員に比し、買物客の多い割合は、上野松坂屋に劣らぬ事が一大特長をなしてゐる。新宿が昭和の銀座と云はれるに到るまで、大いに之を助長したのは、實に新宿三越とほてい屋であつた。併しその店舗は新宿驛前の現在二幸になつてゐる處であつて、現在の三越新宿支店は、其餘勢を驅つて別に新築し移轉營業したものである。昭和五年十月十日、現在店舗四千四百九十七坪を建築する當時は、随分思ひ切つて大規模に立てたものであるが今日になつて見ると未だ狹隘を感じてゐる有様である。









全国有名百貨店  
著名化粧品店  
専ら販賣



完成されたクリーム白粉

明光

クリーム白粉

カルシウム配合

明光あげ白粉

〔粉白粉〕

肌色………はつぱら黒いお方に  
新肌色………はつぱら赤いお方に  
白………はつぱら白いお方に  
濃肌色………はつぱら青白いお方に  
オパール色………はつぱら白のお方に

(定価各三十銭)



明光化粧品本舗

大阪 秋月三日月堂  
東京

三省會

三省會







美食と調理はお台所より

特許  
新型ツツミ天火

名は古く品は常に新し!!



本器の五大特徴

- 一、火力の抱擁装置により使用中前扉を開けても天火内の温度が下ることなく従って調理も見乍ら失敗の憂なく趣向にピッタリ合ふ様初心者にも出来るのが本器の最も誇りとする處であります。
- 一、天火の上部の穴と下部の開閉機は熱度の調節がとれ取扱簡単で燃料の経済になる點、他に類のない装置です。特に下部の開閉機による熱の吸収力は極めて多大で容器中速に高温になります。
- 一、従来のテンピに比して火廻の良き點、上火のよくきく點は長年の苦心と研究により確實性の充分あること、菓子とお料理に兼用せられることを保證致します。
- 一、背部の光線投入窓は容器中を明くなし、よく焼物の見透し出来、同背部の下方にあたる小窓は掃除の場合又容器中の下熱を下げる時等に開き用ひ誠に便利です。

ツツミ天火本舗

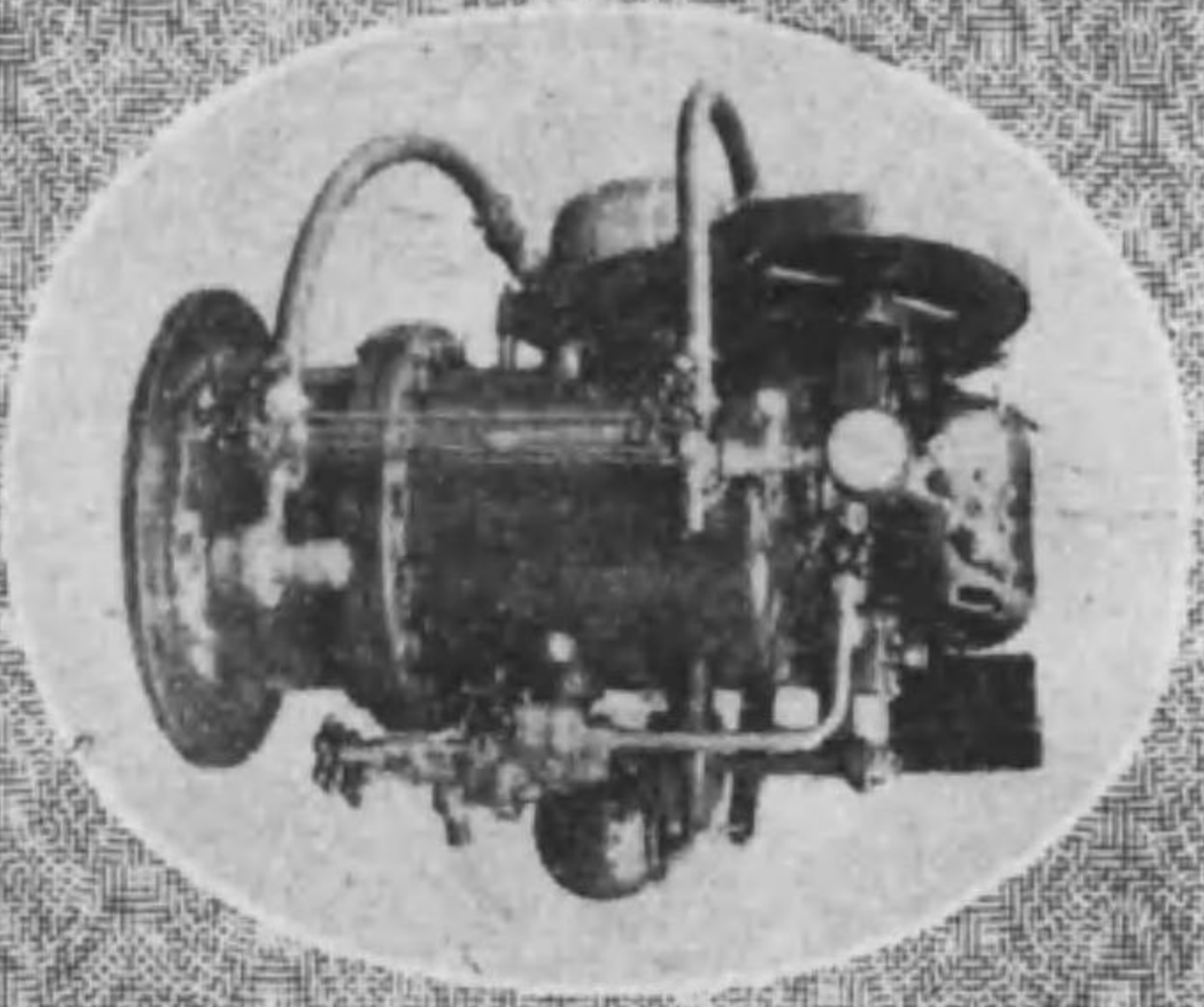
天火の元祖

堤伊六商店

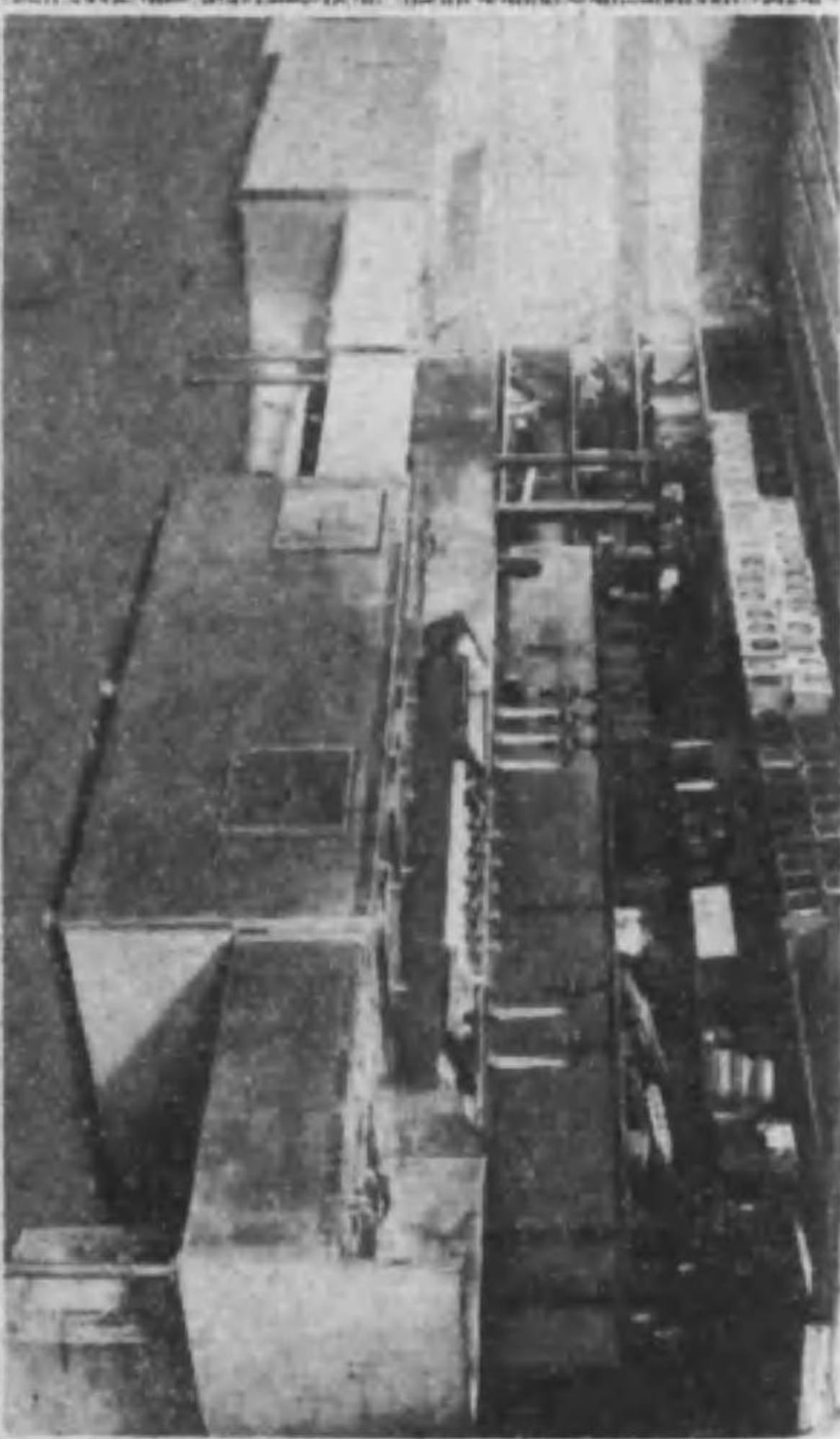
東京市赤坂區青山高樹町一

新時代の御要備品

カーボネーター



同 産

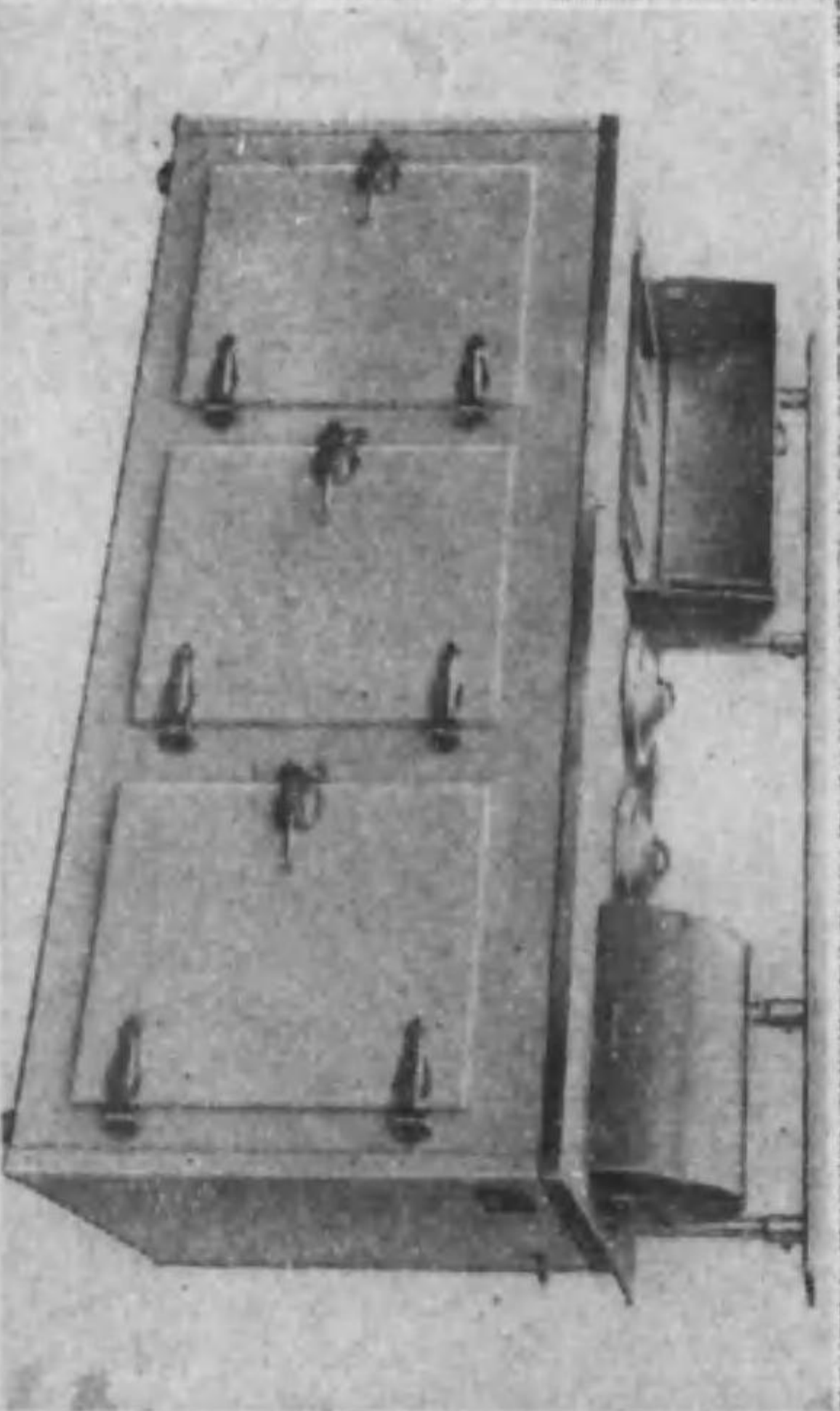


工場一

東京市豊島區荒川町一丁目

株式会社

東京市豊島區荒川町一丁目



カーボネーター





埼玉約ソホスリ渡台



埼玉家日製器式物華和トフヨ

支店



ヨット鉛筆株式會社  
製品發賣元



谷渡人物印  
ズボン釣  
ガーター  
製造元

株式會社 松直商店

東京市澁谷區猿樂町一〇

電話青山 (36) 三七九五  
四八九〇

大阪市西區北堀江通二ノ一〇

電話新町(63)二六七八

東京神田橋外

豐島屋本店

江戸の草分  
白 釀造元

吉村政次郎商店

電話神田 (25) 〇四七三番  
一〇二〇番  
二六六〇番

山なれむ富士

白酒なれむどふしれむの

# 江戸の草分白酒

大藏省所管

日本醸造協會關東支部

優等賞優賞板受領



各百貨店酒店ニアリ





日本百貨  
店商業組  
合加入店

**松坂屋**  
株式會社  
創 業 慶長十六年  
組 織 株式會社  
公稱資本金 一、五〇〇萬圓  
拂込株金 全額拂込  
決 算 期 一月・八月  
本店所在地 名古屋市  
支店所在地 東京上野、東京  
銀座、大阪、名古屋  
京都(仕入店)  
建築總延坪 二八、七七四坪  
従業員總數 五、七七三人



# 實用 新案 アサヒテンピ

宮内省大膳課 厨司長 秋山徳藏先生 考案  
海軍經理學校 囑託 北川敬三先生  
前ステーションホルム部長  
學士會館 調理部長  
特徴 直火を必要とする日本料理の鹽焼西洋料理のグリール支那料理又パン菓子等が容易に而も美麗に調理し得ること云ふ兩先生自ら其衝に當られ完全無缺なるテンピです。  
其他 硝子器、陶磁器、卓上器具、厨房具、西洋食器一式  
(定價表並呈上)

東京市芝区濱町三丁目番地  
發賣元 アサヒ商行  
電話 芝區(43) 九一四七番  
芝區 三三〇七番  
特約店  
大和組 恩田 稔商店  
東京市淺草區



美術金屬器製作  
實用  
新案  
アサヒテンピ 特約店

# 大和組 恩田 稔商店

工場  
東京市淺草區駒形町二五番地  
電話 淺草(84) 一七六七番  
東京市葛飾區本町川端三三三番地  
電話 墨田 三二二五番



松坂屋 本店 現有勢力表

店 舗	開設年月日	創設年月日	建築様式	所 在
名古屋本店	明治四三年一月一日	慶長十六年	近世式鐵筋コンクリート造、地上六階、地下二階、塔共十一層	名古屋市中區南大津町一丁目八番地
東京上野店	明治四三年一月一日	寛永四年	近世復興式鐵骨鐵筋コンクリート造、地上八階、地下一階、塔共十一層	東京市ト谷區上野廣小路町一丁目一番地
東京銀座店	大正十三年三月一日	同上	近世式鐵筋コンクリート造、地上八階、地下二階、塔共十一層	東京市南區日本橋筋三丁目四十五番地
大阪支店	大正十一年三月一日	同上	ネオ、ルネッサンス式、地上八階、地下二階、塔共十一層	大阪市東區南船場一丁目十五番地
静岡支店	昭和七年十一月廿日	同上	近世復興式鐵筋コンクリート造、地上六階、地下二階	静岡市葵町一丁目十五番地
名古屋栄町支店	大正十四年一月一日	同上	近世復興式三階洋館	名古屋市中區栄町五丁目八番地
同御幸町支店	昭和六年四月一日	同上	日本式鐵筋コンクリート造三階洋館	同西區御幸町通二丁目十番地
京都仕入店	明治四三年一月一日	延享二年	和風木造一階建	京都市中區區新町通六角下ル六角町廿三番

松坂屋の大勢

俗に「名古屋の伊藤か、伊藤の名古屋か」とまで謂はれて居る伊藤氏の松坂屋、名古屋地方では伊藤氏を呼称して居る者はないとまで云はれて居る名望家伊藤氏の松坂屋、其松坂屋は遠く慶長十六年の創業以來、よく祖先の遺訓を傳へ、時代の進運に伴つて進

展し遂に今日の百貨店株式會社松坂屋を築き上げた。由來社長伊藤氏の家柄は武門の出であつた爲めに社會の尊敬を得たものであつたが、加之初代以來相繼いで熱心な佛教信者であつたが爲めに、店內の訓育も佛教に依るは勿論外に對して社會奉仕、慈善

現重役

- 社長 伊藤松之助
- 専務取締役 小林八百吉
- 常務取締役 塚本鈴三郎
- 取締役 交野 政邁
- 同 鬼頭 幸七
- 同 安田文之助
- 同 桑原益太郎
- 監査役 戸谷惣三郎
- 同 伊藤鈴三郎

本店

松坂屋、伊藤氏發祥の地として今日も尚松坂屋の本店は名古屋に在る。都下百萬の人口と、三百餘年の歴史の上に立つ名古屋本店の存在は、全國の要衝に支店網を置くオール松坂屋の本據として名實共に兼備したものであつて、近年屢々同市中に他百貨店の進出計畫を聞くも悉く中途にして解消する例證に見ても、如何に其勢力が牢固たるものであるかが窺はれる。

支店

地元名古屋に二支店を置く他、關東方面は東京に二店、關西方面は大阪と京都に各一

配送機關

松坂屋の東京に於ける配送機關は、其整備の點に於て斯界に一二を争ふ程完全されたものであるが、同店が近き過去に於て關東から九州に至るまで表日本全體への無料配送を計畫したことがあつたのに鑑みても其意氣を知るべしである。

姉妹會社

- 一、株式會社 誠工舎
- 本店 名古屋市中區西川端町八丁目三番地
- 支店 東京市豊島區日暮里町一丁目十二番地
- 松坂屋專賣の家具工場として特長ある同店家具の製造に當つて居る。
- 一、株式會社 サカエヤ
- 本店 東京市下谷區同町十
- 支店 名古屋、大阪
- 食料品專門店として獨立營業して居る他、松坂屋の食料品賣場の一部を請負つて居る。

上野松坂屋の變遷



同店の記録に殘された最古の圖繪で舊軍の江戸百景に描かれたものだ、時代から云へば安政三年九月、彼の有名な安政の大地震後に蕩草く新築落成した建物の、此時の開店賣出三日間の賣上合計が二千九百餘兩に上つたと云はれて居るが、此時の當主は十三代目松坂屋中興の祖と仰がれた人である





上野松坂屋の變遷

(其二)

明治初年、市内交通機關の元祖鐵道馬車が走つて居た當時の眞實な建物は安政以來のものであつたと云はれて居る、彼の明治維新の上野戦争に官軍の本營に充てられて大西郷が屯したと云ふ由緒ある店が之れである、當時の記録には「何分にも當店の居廻り一圓に大砲小銃の打合ひとて……恋しとも何とも一同驚き顛倒云々」とある

### 店員への施設

#### 店員教育

松坂屋の店員教育は飽までも實際的であつて形式的な空虚なものではない、失れ丈けに店員諸君も被教育者の立場として並大抵の事ではないが將來の爲めには、誠に喜ぶべきことであつて此點に就ては本人は勿論の事、父兄の如きも衷心から感謝して居る有様である

同店の店員教育は其目的から區別すると  
1、實務教育  
2、精神教育  
3、情操教育(女店員)  
に區別する事が出来る  
1、實務教育 とは一般營業に直接關聯して居る教育であつて、營業に關する一般知識、商品知識並にサービスに

就ての心得を涵養せしむるものであるが、先づ新入店者に就て述べると、毎年三月各地方から募集した少男店員は一旦名古屋の本店にやつて前後六ヶ月、根本的に松坂屋精神を吹込まれることになつて居る、此期間を卒業してから始めて本人が採用された各店へ配屬されることになるのである、又一般女店員は採用後各店専屬の舎宅で十日乃至二週間、デパートと云ふものに就ての輪廓を充分に教へて後夫々の職務に従事せしむるのであるが、其後も毎日午前中一時間程の講習時間を設けて接客上の注意及商品一般に就ての知識を教育されることになつて居る  
尙一般男女店員共組別に分

けて毎朝豫定された計畫の下に各先輩講師の指導に依つて店務教育を受けることになつて居るのであるが、此他にパートデーンシステムに依つて各賣場毎に實際上の注意又は質問應答等が懇切に其賣場主任なり係長なりに依つて行はれつゝある  
2、精神教育 に就ては特に毎月一、二回あらゆる方面の名士を招聘して講演會を開き、精神上の修養に資して居る以外に亦社會的知識をも汎く修めしめるやうに考慮されて居る  
3、情操教育 は女店員に限り目下の處では裁縫、手藝、刺子の三科目を限つて隨意課制度とし希望者に對して其道の専門家を外來講師として招



き材料費のみを徴收、其他は凡て店費支辨で實行して居るが、希望者の申込多數で毎々受け切れない状態にあるが店では之れを家庭科と稱して居る  
店員教育は大體に於て上野も銀座も變りはないが、たゞ銀座は連日夜間營業を行つて居る爲めに四部制の勤務になつて居るから實施時間に多少の相違はあつても全體の教育延時間に於ては同一で何等の

差異がないわけである。

#### 店員給與

店員給料は大體に於て市内の他百貨店と大差がなく、高小卒女店員初給七八十錢見當、女學校出の者は女學校の種類によつて多少の相違を設けてあるが一圓内外を支給して居る  
尙昇給は半期毎に定期昇給制度になつて居り、賞與は年四回で、年末、中元及兩期末と云ふことになつて居る

#### 上野松坂屋の變遷

(其三)

明治四十年頃の建物で、同四十一年には全松坂屋の急先鋒として、從來の座敷式を陳列式に改め今日の百貨店が一般大衆へ進出するに至つた其第一歩を拍したものと記すべき代である、次に四十二年に組織を株式會社にしたのであるが當時の資本金は壹百萬圓であつた、此時分名古屋の本店は從來の茶屋町から愛町に進出した

### 東京松坂屋の統制

東京に於ける松坂屋の布陣は上野廣小路所在の上野店を本據とし、京橋銀座の銀座店を其支店として、完全に帝都南北の二大關を扼したことに依つて他店の追従を許さない強味があると云はれて居る、而して此兩店を統帥して行ふ松坂屋東京軍の總司令官は目下専務取締役である小林八百吉氏であつて、同氏は職制上、上野店の營業部長であると同時に銀座店の營業部長であつて兼任の形式を以て東京に於ける營業其他の一切を統轄して居る又常務取締役の職を本鉢三郎氏は商事課長事務取扱として矢張り兩店兼務で東京に於ける統制を補佐しつゝ、

ある。又専ら上野店では北澤平藏氏が營業部長となり、銀座店では澤田東作氏が同じ營業部長として、各々其店の最高責任者たる職制の下に其店を統率して居る、其以下の職制は全部上野は上野、銀座は銀座と夫れ／＼に専任の部門が配屬されて居て、兩店相呼應して極密接な連絡の下に一糸亂れざる松坂屋獨特の營業振りを見せて居るわけであるが、其整然たる人事、職制の統制は、實に寶永四年以來二百二十有餘年に垂んとする貴重なる傳統の力であつて、殊に歴代店主の恩寵、有徳の施政は克く今日の基礎を成したと云はれてゐる。





東京市



# 松坂屋上野店

東京市下谷區上野廣小路町一

下谷電話 (83) 一〇〇五・二  
三三〇〇  
九九九長

創業 永年 四  
員業従 二〇〇五・二  
敷坪築建 九・五七四

## 上野松坂屋の現勢

### 交通位置

上野は上野か浅草かと云はれた江戸時代からの名所上野は銀座の橋頭、新宿の新興に依つて盛り場としての位置は稍取り残されたかの感がない

でもないが、さればと云つて帝都を縦貫する最重要道路の北門を扼する點に於て市内最樞要個所の隨一であることは昔も今も變りなく、東北線上野驛を控へて全圖的交通の要衝をなして居ると同時に、市

内北部の市民の集散地區である關係上、此地點に東京の本據を有する松坂屋の地理的勢力は嚴として動かすべからざるものがある。加之市内他の個所が何れも二三の同業集中して相競ふの觀があるのに對して獨り上野附近に於ける百貨店は松坂屋一軒の獨占場となつて居る事に於て更に無上の強味を有つて居ると云はな

ければならない。尙又交通上から云へば東方面近に省電御徒町驛あり、北方數丁にして前記東北本線の據點上野驛あり、東京市電は直前の廣小路及次停留場上野山下に於て下谷神明町驛、三島の輪南千住線、淺草、本所柳島線、本郷、大塚、早稲田線、橋、外手町線、神田、日本橋、京橋、芝、品川線の悉く

### 特徴

前記の次第であるから當然の結果として此店は顧客の雲集を以て矢張り市内第一の稱があるのも亦當然のこと、云はなければならぬのであらう當初建築の設計は約廿萬人の顧客を送迎する豫算を以て樹てられたと聞くが、往々此の豫算は突破せられ、最近昭和八年十二月十六日の記録に於ても廿六七萬の人出を算し結局入口の扉を閉して場内客の整理を餘儀なくされる瀬戸際まで行つたと云ふ繁昌振りである。

### 建築變遷

松坂屋上野店は遠く寶永四年の創立で、明治、安永年間には江戸北部の老舗として基礎益々固く、一時安政の大震災に遭つたが直に再築、明治戊辰の上野戦争には官軍の本營にもなつた歴史の建造物として知られて居た。後時世の推移するに従つて從來の座賣式を陳列式に改むる必要を感ずるに至つたので、明治卅九年改築に着手、同四十年竣



大正元年頃の寫眞、世界大戦の黄金の洪水は此建築の中に往き込んだわけである。變つて此時分は既に百貨店としての形式に入つて居たと云ふべきで恐らくは劃期的な營業成績を挙げた時代であつたらう。其結果大正五年には改築擴張をすることゝなつて此店は更にモダンな設備へと轉向することになつたのである。

### 上野松坂屋の變遷 (其四)

### 建築設備

一口に本館と呼ばれて居る現在營業所は昭和二年六月一日落成したものであつて近世復興式、鐵骨鐵筋コンクリート、耐震耐火構造、地上八階、地下一階、屋階を併せて十階本館と地下道連絡による事務





上野松坂屋の變遷 (其五)

此建築は大正五年起工、同六年九月落成、初めて従来の土蔵造りの影がなくなつて、ルネッサンス式の外装、エレベーター、コンベアー、リフトを備へ驚異的な營業の近代化を計つた記念すべき建築であつて、當時帝都北門の一大傑作と賞められたものであつたが、同十二年九月一日關東大震災の二日夕刻、遂に火災に遭つて烏有に歸して了つた。

館を合せて延坪一萬坪に及ぶ大建築であるが

エレベーター

は本館使用十五臺中客用は十臺で、其内八臺はオチス製、十五人乗で速力は毎分三〇〇呎、内一臺はA・B・Oのもので十四人乗、速力は二百五十呎である。

此他に一時間約四〇〇〇人を運ぶエスカレーターが六階迄通して居て、エレベーター十臺と併せて一日二十萬人の客を昇降せしむる機能を有して居ると云はれてゐる。

其他の設置

此外に七階から地下までのリフト四本、更に一階地階間にも一本のリフトがあり、地下室にコンベアー一本を設備されて居る。

松坂屋上野店の建築

地下	九四五坪
一階	八五三坪
二階	八五三坪
三階	八五三坪
四階	八五三坪
五階	八五三坪
六階	八五三坪
七階	八五三坪
別館(事務用)	七、五八一坪
合計	六二、九四九坪
木造別館(事務用)	一、三六四坪
合計	六四、三一三坪
他に	三、八五坪
合計	六八、一六八坪
従業員總數	二、五〇〇人

業態

松坂屋上野營業部の營業狀態は、前記の如く市内に於ける其特種な地位と、實用品販賣に主力を傾注した結果、最近に於ては一般大衆顧客の上

店員施設

池之端舍宅

松坂屋の舍宅は元根岸に在つたのであるが、大正十一年三月廿三日に現在の池の端の松平子邸跡に移つたものである。

建築は鐵筋コンクリート三階建コテージ式で、舊館は七八四坪であつたが、昭和六年六八八坪の新館を増築した。



池之端舍宅全景

其他毎月十三日には戊辰詔書冊日には教育勅語の奉讀式が缺かさず厳肅に行はれる。

常盤寮

店員に依つて俱樂部式に利用されてゐる常盤寮は郊外に在るが、夏季は各組に別れて三日位此寮に宿泊、休養を兼ねて精神修養と青年訓練の野外勤務を實行する。

體育部

同店體育部は昭和八年一月十三日、北澤營業次長會長として發會式を挙げたが、現在では左記の部門を包括した一大組織を形成してゐる。

優良國産賞牌受領  
國産優良褒狀受領  
日本玩具協会推薦  
各国百貨店御指定

式ラツツル  
ママ  
ママ

式ラツツル來出ノ賴信對絶  
レア意注御ニ取外

甘樂ママ竹苗製作所  
東京本郷根津宮永町三







震災後の東京市中で本建築の百貨店として開店したのは



### 概要

日本百貨店組合  
 加入店  
 大正三十一年二月一日  
 建築 鐵骨コンクリート  
 地上階八階・地下階一  
 延坪 二四六坪  
 員 四〇五名・女三〇八名



東京市

## 松坂屋銀座店

東京市京橋區銀座六ノ一  
電話銀座 三三八〇(長)

此店が最初であつた。夫れ丈に開店當時の人氣は大したもので、恰度市中は震災直後で物資の缺乏に苦しんで居た頃であるから開店景氣の間に設備費から什器一切に致るまでの創業費を全部一舉に消却し得たと云ふ程の繁昌振りであつた。其後山城町に銀座店専屬の住宅を建設したり地所を買つたりしたために約百萬圓程投資してあるわけである

が、其後引續いて順調な營業振りをを見せてゐるから、店舗が狭小であること、設備が思ふ様でない爲めに際立つて能率を擧げることが出来ないにしても、大して苦しまないで經營して行けるのは此店の強味である。尙最近地下鐵が銀座まで開通された結果上野店との連絡が益々密接になり、市の南北を完全に扼する東京松坂屋の販賣戰線は大いに擴

### 業態

今日の銀座の繁榮は昔日の夫れとは稍趣きを異にして來たかの觀があり、同地區百貨店界の傾向も、新宿方面の興隆に加へて市内交通機關の發達が多分に顧客の流れを變化せしめつゝある事は争はれない事實であるが、尙其世界の銀座としての地位は益々向上しつゝある時勢に於て、此銀座店の存在は、オール松坂屋の所謂「眼」である點に於て重大性を有してゐる。

## 優良百貨常潤に澤

お買物は……



上野 銀座 松坂屋

### 松坂屋のお廉い理由

- 一、現金仕入れを本位とし、一枚の手形をも發行せざる事
- 一、主として生産者より直接に大量仕入れを行ふこと
- 一、社債、借入金如き負債を有せざる事
- 一、極力冗費を節約すると同時に利益率を低くすること













朗かに明るく  
人生の美を現す  
近代女性美への

ループ化粧料

- ループ、ヘヤトニツク
- ループ、パニシングクリーム
- ループ、コールドクリーム
- ループ、水白粉
- 同 水白粉 (白・肌・オークル)
- 同 粉白 (白・肌・オークル)
- 同 クリーム白粉 (白・肌・オークル)
- 同 ホ、紅 (函付)
- 同 ホ、紅
- 同 口、紅
- 同 ヘヤトニツク
- 同 ヘヤトニツク
- 同 コスメチツク
- 同 コスメチツク
- 同 ヘヤークリーム
- 同 ハリケン石鹸
- 同 ハリケン化粧品

小大 小大

株式会社 播

金商店  
化粧品部

電話浪花四、七七〇

御名人特製化粧品調製

東京市日本橋區區役所町八

世界的大流行!!

誰にも面白く遊べる

新製キングビリヤード



(カタクロ) 下谷西町四十七  
岸キングビリヤード商會  
電話下谷五五九五

實用新案登録公告 第四〇九番  
第二八八八番

一九三四年の

玩具界の花形!!

競技法

競 技者は先づ、盤をテーブルの如き平面上に据付けます、さて各  
競技者は盤の下方にあるボール貯藏庫のボールを全部出し、源平兩者  
に十ヶ宛持ち白球より競技開始をなす。白玉が點數の穴に入れば赤玉  
にて此れを突き出す。かくして源平兩者の戦となり最後に高點數を得  
たるを勝とする。此の場合玉の力強くして敵陣(青布)に飛込めば捕  
獲となり盤外に飛出したるは死球となる又味方の陣地に戻りたる時生  
球となり兩者同點數の時は捕獲を以て計算しかくてゲーム終る  
其 の他各競技者の工夫により面白く遊ばすを得





## 瀆 印博多人形に就て

弊店の瀆印以上優秀なる博多人形は絶対に他に無しとの定評有り。東京全デパートの陳列ケースに獨占的に充滿する弊店の博多人形を一見せらるるならば此評の眞なる事に直ちに同意せらるべし。

### 特 徴

- 一、定價販賣 他店の品の場合同一市内に於て同一品につき三割の賣價の相違を認めせらるべし。これ系統不明のブローカーを經る故なり。專斷職人を有する。印には他店に無し。
- 二、品種、在庫豊富なりや 下は五六十種の玩具より上は五六十圓の藝術品迄二百餘種に及ぶ。猶毎月大小新製を絶えず追加製作す。しかも従来の如く田舎臭き粗悪品に非ず都人士の趣味と時代の動きと、購買力とを研究し直ちに顧客にアツビルする品とす。之れ印が銀博多人形の稱ある所以なり。
- 三、最優秀の職人を專屬とす 博多人形師の数は枚舉に遑あらず、しかも優秀なる技術の保持者は僅かに五指を屈するのみ、其殆んど全部を弊店の專屬とす。他店の企て及ばざる理なり。
- 四、修理を引受く 博多人形の缺點はその脆さにありとせらる。弊店は東京分工藝を有し顧客よりの依頼ある時は旬日を出でずして修理を爲す。

昭和九年カタログ「コロタイプ美本」  
(印刷出来。御申越次第急送)

博多人形問屋 瀆田敬一商店

東京市豊島區長崎町  
一丁目一九九八  
電話大塚一七五九

### 標 語

値段よりも製品の優秀。  
問屋は百貨店の調節機能なり、弊店は此使命を認識し之を忠實に實行す。

## 株式 松屋

吳服店

東京市京橋區銀座三丁目一ノ五

創業 明治二年  
會社設立 大正八年  
組 織 株式會社  
公稱資本金 五〇〇萬圓  
拂込金額 四〇〇萬圓  
決算期 二月、八月  
店舗所在地 銀座、淺草、今川橋、横濱  
店舗總延坪 一六、七二六坪  
従業員總數 三、四三七人



日本百貨  
店商業組  
合加盟店



株式會社松屋吳服店

規模と本部統制

新進の大百貨店として東京銀座の好位置に據り、大正十二年の關東大震災後は殊に眼覚ましい進展を遂げ、今や最も特色ある商品と、最も堅實なる經營振りに現代の先端をゆくものと云はれてゐる。

規模概要

株式會社松屋吳服店は現在資本金五百萬圓、内金四百萬圓拂込済みで、社債一百萬圓を負ふてゐる。店舗は銀座本店の外、横濱支店、今川橋支店を有し、又淺草支店を借家して營業してゐる。其他附屬別館及寄宿舎等大要左の如し

- 銀座本店 五、八四四圓四
横濱支店 一、六七六・三七
淺草支店 七、四五〇・〇〇
今川橋店 五〇八・〇〇
銀座南別館 六九一・〇〇
同 北館 三八八・七六
明石町寄宿舎A 五〇〇・〇〇
同 木造宿舎 四〇〇・〇〇
但し南別館本店仕入部及事務室に充て鐵骨鐵筋コンクリート造り地坪百坪七階建、北館は本店本館と隣接し鐵筋コンクリート地下二階地上八階不正形に建てられ、地下一二階共店員更衣室、一階地方配送部、二階男店員食堂、三階

女店員食堂、五階衣裳部、六階店員休憩室其他に使用されてゐる

本部統制

右本店其他は本店内に本部を置き之を統括してゐる。

本部職員

取調役 山本 龍造
部長 龍造
主任 龍造
係長 龍造

秘書課

主任 龍造
係長 龍造
主任 龍造
係長 龍造

主計課

主任 龍造
係長 龍造
主任 龍造
係長 龍造

庶務課

主任 龍造
係長 龍造
主任 龍造
係長 龍造

機關部

主任 新保榮之助
係長 松本藤吉郎

權度課

主任 龍造
係長 龍造

沿革

明治二年、先代古屋徳兵衛横濱市に於て鶴屋吳服店を創業し、業績見るべきものあつて逐次繁昌に赴いてゐた。明治二十二年に到り東京進出を企て、是より前神田區今川橋(現在家庭部の地)にあつた「松屋吳服店」を買収し、同時に其名稱をも繼承した。明治四十年には歐米式百貨店の形式をとり入れて營業する事となり、建築は地坪五百坪に總三階建て延千五百坪の

創立以來の業績表

Table with columns: 年度, 資本金, 拂込金, 純益, 配當率. Rows from 大28 to 92.

店舗を以て隆々たる新興振りを示すに到つた。大正八年三月、資本金一百万圓全額拂込済みの株式會社組織に更め、愈々業礎を固めつゝ待機の状態で發展してゐた。

躍を試むる事とし、大正十三年に到り資本金五百萬圓と五倍増資を斷行し銀座進出の準備を進めてゐた。大正十四年五月一日、銀座通りの現在店舗大部分を、最初第一徵兵保險會社より賃借して、本店を今川橋より移轉し華々しく開業した。

遺言により女婿内藤彦一氏を支配人としたのであるが、内外に手腕を揮ひつゝ殆んど一身に全責任を負ふて良く短時間の間に今日の松屋を造りあげたが、惜むべし昨年(昭和)に到り蹉跌を生じ加ふるに胃痛を患ふて死去した。

歴代重役

古屋徳兵衛
大正八年三月 現在
内藤彦一
大正八年三月就任



○古屋惣八

昭和八年八月辭任  
大正八年三月、取締役就任  
昭和八年八月常務取締役就任  
現在中  
△取締役

○古屋太吉

大正十五年七月死亡

○中山新右衛門

大正八年三月取締役就任  
大正十五年三月辭任  
同時監査役に就任  
昭和七年十二月死亡

○根津嘉一郎

大正十四年三月取締役就任  
昭和七年四月辭任

○若尾鐵之助

大正十四年三月就任—現在

○古屋榮一

昭和三年三月取締役就任  
昭和八年九月辭任

○山本龍造

昭和三年三月就任—現在

○小松視次

昭和八年三月一日  
△監査役

○小池春次郎

大正十四年三月辭任

○神谷金之助

大正十四年三月辭任

○細田武雄

大正十四年三月就任—現在

○中山新右衛門

大正十五年三月就任  
昭和七年十二月死亡

○大瀧喜一郎

昭和八年四月就任—現在

店員教養

松屋店員教養所は、店員に必須なる智識技能を教授し、併せて商業道德觀念を涵養し、優良店員養成を目的として店內に設置せられ、普通科三年及び進んで研究科一年を修業年限と定む。

普通科教養科目

◆一學年、修身、公民、接客、販賣、國語、商業算術筆算及び同珠算、商品學、實用英語

◆二學年、三學年、商業作文を加へ、時間割に多少の異同あり。

研究科研究科目

◆商業道德、接客、販賣、商業要項

商業簿記—以上必修科目  
商業算術、商業英語、裁縫法、商業美術—以上選擇科目  
而して授業時間は、通常一週十時間以内とす。

店員給與

△初任給

新採用店員の初任給與は大體左の標準による。

女店員	高一卒	日給	一、七五
男店員	高小卒	同	一、八五
同	中卒	同	一、一〇
同	高卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇
同	大學卒	同	一、一〇

△昇給

定期昇給の制なきも、月給五十五圓以下に對しては年一

回又は二回の拔擢昇給に浴する機會あり、上級者に對しては二年に一回位に同様のチャンスあり。

△賞與

六月に中元、十二月に歳末と毎年二回のボーナスあり、期末賞與は最近別之を行ふの煩ひを避け、右兩回に含めて按配する慣習となれり。

寄宿舎

東京市京橋區明石町  
A、總務課土地下二階、地上四階  
B、木造、延坪五百坪一棟、延坪各百坪、合計延坪六百坪  
現在收容、三百八十名

帳簿 天勝堂帳簿製作所  
東京・京橋二丁目 電話・九九七  
カタログ二錢郵券五枚要ス  
直ぐ御問に合ふ既製品五十餘種願在庫有富

東京市

松屋銀座本店

現店舗開設 大正十四年五月一日  
建 物 鐵骨鐵筋混凝土造八階建（近世復興式）  
店員 數 一、七五〇人



銀座本店本館

地階	七七一坪三八
一階	七〇七・七五
二階	六二七・四八
三階	六二七・四八
四階	六二七・四八
五階	六二七・四八
六階	六二七・四八
七階	六二七・四八
八階	六二七・四八
塔屋	四二・七五
計	五、八四四・二四

日本百貨 店商業組 合加盟店

本店従業員定員

係長級以上	二〇〇名
係員男店員	三五〇名
見習(男)	二五〇名
少年店員	八〇名
女店員	七五〇名
雜役	一、二〇〇名
計	一、七五〇名

概要

銀座街の中心に聳立する近代ルネッサンス式の建築は偉觀である。本年三月三日地下鐵が銀座まで延びて銀座地下街に直接連絡することになつたので一層交通の要衝に當り條件は益々良くなつてゐる。最近の我國百貨店の一流に伍するには些か店舗の狭い憾みはあるが、其他の點に就ては商品及び建築設備に於ても斷然異色を發揮して、寧ろ同

建築設備

建築上から見て最も特徴となつてゐるのは、誰が見ても氣付くスカイライトのドームである。四角な建物の真中に八階天井まで一階から突起してゐる空柱は第一壯觀である。三越本店のそれが完成してゐないので今では我國百貨店中で唯一のものとなつてゐる。賣場面積の狭くなる憾みはあるが、此の缺を補つて餘りある幾多の有利な點をもつてゐる處に價値がある。

充分なる採光

採光が充分であるから店內の氣分まで明るく、各階の換



氣が此の空柱によつて自然と  
良く行はれるから衛生上にも  
至極宜しい。尚ほ各階賣場を  
巡覽するに頗る道順がよく、  
中央階段から直ちに全階の賣  
場の見當を大體つけ得る事も  
非常な便益がある。

### 自然力の通風

尚ほ通風に就て、東京の大  
百貨店は概して南面の窓が塞  
がれるやうに事務室其他の邪  
魔を受けてゐるが、松屋は此  
點に注意して出来る限り南面  
の窓を開放し、南風の多い東  
京の氣象を利用して店內賣場  
に自然の力による通風を充分  
ならしめてゐる。他店の多く  
は機械力による通風に努めて  
ゐるが、松屋は此點大自然の  
力を利用して費用を節約する

一方機械力の及ばぬ程に完全  
な通風をなし得てゐる點が類  
る例巧である。

### 場内無一分快適

次に、八階建であるから東  
京高島屋と大體似た程度に各  
階の天井は低いのであるが、  
之を低く感ぜしめない處に工  
夫が用ひられてゐる。一つに  
は例のスカイライトの關係も  
あり又柱の比較的小さい事が  
之を助けてゐる。具體的に云

へば柱は大部分二尺二寸角で  
あつて五階以上は一尺八寸に  
までなつてゐる。柱と柱の間  
隔は十九尺である。

### リノリウム床

百貨店の床は最近大方木  
イル張りになつてゐるが、松  
屋だけは地階一階七階食堂の  
外、悉くリノリウム張りにな  
つてゐる。下駄穿き客の多い  
我國では非常に不經濟で毎年  
五萬圓乃至六萬圓もかけて張

## 沿革

本店が最初横濱に起り、今  
川橋に進出した事は前に説い  
たが、愈々銀座の現在建物に  
本據を移して開業したのは、  
大正十四年五月一日であつた  
増築の企てこそないが、第一  
徴兵保険より建物を買取るに  
及んで八階を使用し又漸次事  
務室の縮少又別館移轉を行つ  
て賣場を擴張してゐる。

## 業態

賣場部門は大別して呉服、  
洋服、雑貨、食料品、食堂の  
五部門であるが、賣場数は七  
十二に分れてゐる。但し仕入  
の人物の關係上からは大要左  
の如く區分せられてゐる。

- ▲第一部西絹布▲第二部國東絹布
- ▲第三部絹布▲第四部紳士洋服▲第
- 五部洋品類▲第六部學務文具玩具
- 運動具▲第七部對金屬時計美術品裝



圖社の部内るす立蛇のムード・トイライカス

節▲第八部食料品▲第十部均一品  
因に、松屋の特長とする商  
品は婦人服を始め、食堂の和  
食、嗜好み呉服類、銀座向洋  
品雑貨等が一般に周知せられ  
てゐる。

## 青年訓練

模範的との定評ある松屋青  
年訓練所の沿革を示せば左の  
如し  
一、設置認可、大正十五年七月一日

- 一、訓練所設置認可、昭和二年七月一日
- 一、訓練所開校、昭和三年十一月十五日、同五年十一月三日
- 一、文部省表彰、昭和五年一月十一日、優良訓練所の表彰を受く。
- 【入所資格】松屋本支店々員にして十六歳乃至十七歳までのもの
- 【修業年限】毎年四月に開始し翌年三月完了、滿一ヶ年修了者には修了證を授與す。
- 【指導方針】私立松屋青年訓練所規程に基き、心身を鍛練し、日本國民としての資質を向上せしむるは勿論、特に社

## 今川橋家庭部

東京市神田區鍛冶町  
木造二階建、延五〇九坪  
現在の今川橋家庭部は、本  
店の延長ともつかず、支店と  
もつかぬ位置にあるが、松屋

- 長の訓示要項「行ひの訓練」を服膺得せしむ。
- 一、健康を増進し身體各部の均整發育を圖り、耐久力を培養して意の儘に動き得る力を養成す。
- 一、精神を鍛練して不動の精神を養ひ眞剣味を以て事に當り、達成せずんば止まざるの氣魄を圓滑に表現す。
- 三、習識は根本を理解して應用工夫の力を養ひ、實務を活用して訓練を生活化する。
- 【成績判定】訓練所の成績のみならず、寄宿舎に於ける成績と、尚ほ店内の成績をも參酌して慎重に考査す



本造三階建、延千五百坪の大店舗であつた。大正十二年の關東大震災後、區劃整理にて地坪も削減され一方本店を銀座に移した爲め其後は現在のバラツクを建てて、主として日用品百貨を販賣してゐる。

今川橋 家庭部 職員

- 主任 山本 英景
係長(仕入) 水谷 隆郎
同(販賣) 關 久雄
同(事務) 飯島 守一

本店職業名簿

但し部長、課長、主任、係長の順とし以下本店員は之を略す

営業部

- 営業部長 古屋 惣八
取締役 細 入 富 重
同 次長
主任 金子内太郎
係長(美術) 本多 澄明
同(時計) 清水 重義
同(漆器) 山田 惠雄
同(陶器) 小川松之助
◎第八部
主任 内藤 長一
係長 穴原 修三
同(家具) 山中 一郎
同(家具) 小牧 宜嘉
◎第九部
主任 伊勢三郎
副主任 古屋 昇文
係長 伊藤 季雄
◎商品研究調査係
主任 小野寺直次郎
◎流行調査係
主任(兼) 津金 新
副主任(兼) 石井 徳朝
係長(兼) 山内 五郎
同(兼) 伊藤 義郎
同(兼) 津邊義之助
◎用度係
主任 西海 猛
係長 堀内 要
◎販賣課
主任 清水 眞
副主任 村林太郎

ハブ茶の権威 絶対他品の 追及を許さぬ
近藤鋼太郎商店
電話 花六〇三番

- 主任 鈴木 孝一
◎二階
主任 山田 七朗
主任待遇 中村 榮吉
同 山田 知次
同 白倉 昌
同 古屋 貴
係長2番 松野伊太郎
係長1番 山田正太郎
◎三階
主任 山田 定太郎
副主任 山下 寛次
同 小松 玄造
同 石橋 保
◎四階
主任 古屋 善七
主任待遇 市田彌之助
同 菅谷 隆吉
同 加美長根蔵
同 森 實
同 殿家 金平
同 古屋惣太郎
同 川畑清一郎
◎五階
主任 高水 啓介
副主任(兼) 青木 寅男
主任 秋山 政治
同 堀内 誠蔵
同 藤川 金一
同 原田吉次郎
主任待遇 小松 忠孝
同 老沼 勝雄
同 大竹 庄藏
同 山木忠太郎
同 前田 常吉
同 齋藤 三郎
同(待遇) 高木作太郎
同(待遇) 彦坂 貞
同(待遇) 石橋 保
同 17番 宮澤 福一
◎六階
主任 松澤美三男
副主任 小倉 實
同 33番 本多 澄明
同 34番 桑原 榮一
同 44番(兼) 山田 惠雄
同 45番 力石 安徳
同 46番 清水 重敏
◎七階
主任 松井 新平
主任待遇 中村 武
同(兼) 石崎 武
◎八階
主任 安田芳三郎
主任待遇 大澤徳太郎
同 43A 森島 力雄
同 43B 佐藤 保
◎外賣係
主任 松村米三郎

宣傳課

- 主任 藤原 敬次郎
◎會社係
主任(兼) 齋藤 信義
副主任 小泉 三男
同 高橋 金治
同 宮川 尚一
同 酒河 恒吉
◎裝飾請負係
主任 名和野秀太郎
副主任 淺海 俊夫
◎集金係
主任 大宮福太郎
主任(兼) 齋藤 信義
同 藤原 新藏
同 林山 光友
◎衣服洗係
主任 大岡 榮吉
主任 村山 滿
◎洋服洗係
主任 吉野 耕三
◎御得意係
主任 柴田小一郎
監督(兼) 村林太郎
主任 井上 道
同 辻 壽郎
◎廣告部
主任 宮崎 謙一
◎警備係
主任 岩村 一郎
◎雜役係
主任 式田藤太郎
◎人事課
主任(兼) 石井 定夫
主任 金子 秀春
同 新井國之進
同 女店員監督 村林 孝一
◎經理課
主任 五十嵐 治
主任 神谷 榮吉
◎仕入受渡係
主任 村上 一郎
主任 小林 喜作
◎賣上受渡係
主任 伊藤 一 枝
◎商品計算係
主任 阿野田 四郎
◎買掛計算係
主任 齋藤 彰
副主任 望月 嘉衛
◎會計係
主任(兼) 神石 榮吉
主任 宮川 銀次郎
同 菊島 定宜
同 近松 徳介
同 山田 義雄





東京市



# 松屋 淺草支店

東京市淺草區花川戸十三番地

△開業 昭和六年十一月一日  
△建物 鐵骨鐵筋混泥土造(賃借)  
△店員 男四三人、女七人、食堂一七人

## 各階使用坪數

地階	一、四〇六・九二
一階	三七〇・七八
二階	八〇〇・〇〇
三階	二四〇・〇〇
四階	一〇八・八〇
五階	〇九七・四四
六階	〇七〇・〇一
七階	九四一・九六
計	一三四・〇五
計	七、四五〇・〇〇

## 概要

隅田川を背景とし、吾妻橋の畔に立つ偉大な建物は先づ衆目をひかすにはゐない。東武電鐵の起點が二階にあつて

## 特徴

銀座本店よりも大なる賣場面積を持つてゐるが、百貨店としては寧ろ異端とも云ふべく全國に類例を見ない一風變つた特徴を備へてゐる。即ち

## 業態

營業面積の半分までは食堂

屋上の東道ゴンドラや動物園を始めとして七階も殆ど全部スポーツランドと稱して遊樂場に充て、實に數十種の珍奇な氣散じを目的とする設備があつて大繁昌を續けてゐる。一錢二錢位から五錢位の遊戯料で毎日の上り高が六百圓から七百圓にも及ぶといふのだから一寸驚かされるが、淺草らしい氣分が面白い。其次は食堂の繁昌であるが六階大食堂の外に地下室にも大食堂があつて其厨房設備は文化的と衛生的に於て模範設備と云はれてゐる。地下食堂は酒類も出す等、相當異色を發揮してゐる。

## 賣場配置

建築構造が所謂百貨店向に出来てゐない事と、東武電鐵の驛ホームに大切な所をとられてゐるが、多數の出入口と七臺のエレベーター及びエスカレーターに依り大いに緩



小松 視次 部長

和され其間に左の如く賣場を配置しゐる。  
地階 食堂、盥所用品、食料品、菓子、果物、魚類、肉類、野菜類、公衆電話  
一階 實用雜貨市場、御用物承所、御預物係、萬承係  
二階 御土產局、喫茶室  
三階 樂器、運動具、子供服、婦人服、婦人雜貨、子供用品、玩具、書籍、寫眞、文房具、度量衡、髪飾、眼鏡、檢眼室、貴金屬、時計、帽子、洋品、タオル、ハンカチーフ、股方雜貨、贈物、袋物、シヨール、洋傘、化粧品、藥品、旅行用品、博草、商品券  
御案内係、休憩室、公衆電話

## 淺草支店職員

- 營株部長 取柄役 小松 視次
- 同 次長 矢橋 久吉
- 商品課
  - 課長 山崎 善吉
  - ◎商務係(雜貨) 今井 健三
  - ◎商品管理係 元島 常次
  - ◎二階 小池多三郎
  - ◎一階 小池多三郎
  - ◎三階 中村徳太郎
  - ◎四階 久保重五郎
  - ◎五階 高須 孫一
  - ◎六階 飯島伊三郎
  - ◎七階 日原虎雄
  - ◎八階 菊池卯吉
  - ◎九階 武藤義雄
  - ◎十階 小林 久夫
  - ◎十一階 今福義清
  - ◎十二階 前澤義一
  - ◎十三階 津金慶一
- ◎地階 小池多三郎
- ◎一階 吉田 春夫
- ◎二階 山内益雄
- ◎三階 田代 聡
- ◎四階 小池多三郎
- ◎五階 金子惣三郎
- ◎六階 小池多三郎
- ◎七階 草薙向次郎
- ◎八階 福山 豊吉
- ◎九階 小池多三郎
- ◎十階 草薙向次郎
- ◎十一階 小池多三郎
- ◎十二階 草薙向次郎
- ◎十三階 小池多三郎
- ◎十四階 草薙向次郎
- ◎十五階 小池多三郎
- ◎十六階 草薙向次郎
- ◎十七階 小池多三郎
- ◎十八階 草薙向次郎
- ◎十九階 小池多三郎
- ◎二十階 草薙向次郎









高級向。實用向。意匠斬新

各種電氣スタンド類

豊富取揃

電燈照明器具電氣スタンド類

製作販賣

**サンデン電氣商會**

東京市芝區新橋三ノ二 電話銀座(57.3282)

PAT. NO. 170032

T. S. EN 新デザイン

製織工場

東京市荒川區日暮里町三丁目

縫工場

東京市淺草區瓦町二八

株式會社 **寺田商店**

東京日本橋區横山町一丁目

高級アチンモチニ製品

京都出張所

京都市中京區東洞院通四條上ル西入  
電話本局三二九四番



煙草セツト 煙草入 煙草落 灰置物 床置物 インキ入 文鎮 筆立 呼鈴



(84)草淺話電  
番四九〇五

**店商郎太喜村梅**

區草淺市京東  
地番九十町島小

星鷹印  
新デザイン



株式會社 **高瀬商店**

本店 東京市荒川區日暮里町三ノ七七二  
電話下谷(83)四三五四番

支店 大阪市東區南久寶寺町三ノ廿二  
貿易部廣濱市中區住吉町二ノ十七





雛人形



三月  
五月  
お節句飾品  
専門の卸店

東京 浅草橋通 久月總本店

電 浅八八八  
東 〇〇  
三 八  
〇 六  
八 五  
京 草 話

優秀ナル鉛筆



眞崎大和鉛筆株式會社

東京市品川区大井立會町

高級ナル「クレヨン」

毛及シヨール  
毛及コイル  
其ノ他ニ整皮



年中豊富に  
取揃有之候

洋装用毛皮の御用は  
マツオカ

會社名 松岡商店毛皮部  
東京市日本橋區通三丁目四番地  
電話日本橋(24)二五二〇番  
振替口座東京八一三三七番  
取引銀行 川崎第百銀行日本橋支店

新界をリードする

KMコルセット

不斷の努力と研究が生む

スタイルの革新、品質の優良價格の低廉さ！

先づ本品を御試し下さい

(カミソリ型)



會社名 松岡商店  
東京市日本橋區通三丁目四番地  
電話日本橋(24)二五二〇番  
振替口座東京八一三三七番  
取引銀行 川崎第百銀行日本橋支店

KM印婦人洋装用品問屋









株式會社

白木屋

東京市日本橋區日本橋

創業 寬文二年  
 會社設立 大正八年二月  
 組織 株式會社  
 公稱資本金 一、五〇〇萬圓  
 拂込株金 一、一二五萬圓  
 決算期 一月、七月  
 店舖所在地 日本橋、大森、  
 五反田、錦糸堀、  
 大塚、麻布、神  
 樂坂、小田急新  
 宿驛構内、丸  
 內。  
 従業員總數 二、五〇〇名  
 內 本店 一〇、〇八九坪  
 分店 二、九六五坪  
 店舖總延坪 一三、〇三四坪



夫婦羊印  
 毛糸並毛糸洋品問屋

株式會社 英國屋

東京市京橋區第一相互館  
 電話 京橋 一三六四  
 七七三  
 一四九  
 四五二



# 白木屋の現勢



日本百貨  
店商業組  
合加盟店

カネ一印白木屋のマークは三越の丸越と共に傳統を誇る江戸名物として恰ねく人々に膾炙され其の有する幾多の特徴と相俟つて天晴百貨店界の王座に翼を連らねて居る白木屋である。

## 本店

御江戸日本橋と頭にも残る有名すぎる程有名な日本橋！其の昔は東海道五十三次の振出しとして生馬の目をも抜くと言はれた繁華の跡は形こそ變れ今以て大東京交通文化の

最要地である。此の一角に悠々然と備はる超努級艦の如き近代式ビルディングこそ我白木屋の英姿である。

## 交通機關

白木屋を繞る交通網も又充分發達し路上を縦横に疾驅する市電、市營バス、及青バスの類は勿論淺草、銀座間を結ぶ地下鐵は同店を中心として驚異的スピードを以て交錯し發進して居る。

## 分店網

向又特に白木屋の特徵として挙げられるのは其の完全なる分店網の布陣であらう。昭和二年末頃より大阪地方の支店を除々に廢止しその代り本店を中心として之から益々榮



を行かんとする大東京新市内の要所々々に見事な分店網を張り廻らして、飽迄も大東京の白木屋として地盤確立を志してゐる。

法は三越の支店網、高島屋の十錢ストアに匹敵するもので、離る可からざる重要さを占めてゐる。

## サービス

顧客に對しては常に懇切及丁寧なるサービスを心懸け主なるもの二三を挙げれば

- 一、展覽會の開催
- 一、相談所
- 一、社交室の設置
- 一、スーベニアデパート

外外人への贈りもの相談等にのり行くは外國の大デパートとの密接な連絡を取るに至るものとして目下は積極的に小規模に實施中である。

## 配送仕機構

此の他サービスの部類に屬す可きものに配送の奉仕がある。顧客の御買上品に就きどんな細なもので一々無料配達を爲すと言ふことは大百貨店にしてのみ可能の事でありそれだけに仕事の確實と迅速には非常な苦心と経費がかかるものである。

白木屋の現在配送機構は散在せる分店及び此の外に三ヶ所の所謂デポ1を設け中繼を行つて居る。

- 品川區北品川五の四六七
- 鎌倉區藤倉通一の二〇
- 杉島區中野町

配送區域は百貨店組合の規定により加盟店何れも一定されて居るが之に使用されて居る配送機關は

- 自動車 一三臺
- 自轉車 七〇臺
- 従業員 一〇〇餘名

## 特徴

歴史の古き事随一で今より二百七十二年前始めて孤々の聲を擧げてより今日まで連続として逐次順調なる發展をなし來つた事は白木屋の最も誇りとする所である。場所の關係もあらうが往時の江戸ッ兒氣質にピッタリ合つた營業振りは今以て同店の非常な力となつて居る。之は大正十二年の大震災の折白木屋に集まつた一般の同情に依つても明らかに裏書されて居る。特に花柳界を把握する白木屋の傳統的勢力も又偉大なもので

文學博士笹川臨風の兩氏を流

ハルヤキハニモニカ

僕ハハニモニカ  
君ハハニモニカ  
ハルヤキハニモニカ

高嶺ハルヤキ  
廿六復音  
一圓八十錢

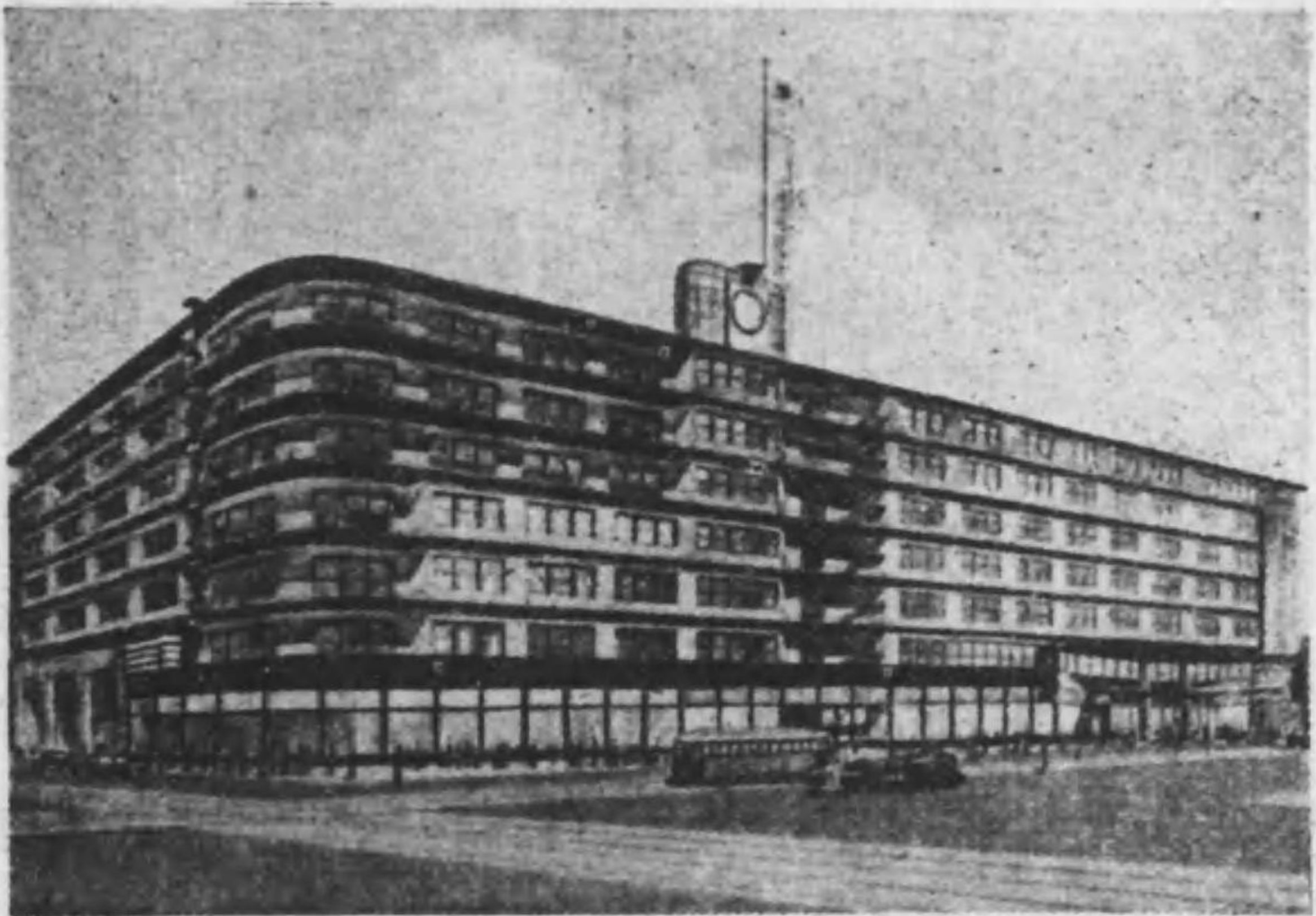
二十穴復音  
愛國五十錢より  
百貨店樂器店にあり

町工草神東京東  
店商吉龜賀須

行専門委員に推薦し  
1 山手好み  
2 絆好み  
3 モダニ  
4 クラシック

る流行の尖端を切つた婦人服が常に取揃へてある。





本店各階坪数

地下二階	一、一九五・三四九
地下一階	一、一九五・九九九
一階	一、〇三三・一九〇
中二階	一、三三三・八九〇
二階	一、〇一八・七一九
三階	一、〇三二・七二四
四階	一、〇三二・七二四
五階	一、〇五五・八七二
六階	一、〇五五・八六二
七階	一、〇〇〇・九九二
八階	一、〇〇〇・六六四
屋上	一、〇〇〇・六六四
合計	一〇、四五二・四二六

本店従業員總數

一、八五〇名



日本百貨  
店商業組  
合加盟店

白木年譜

- 皇紀 三三二一 (寛文二年)
- 初代大村彦太郎可全、江戸日本橋通一丁目自に泉原小切れ店として創業
- 二三三三 (寛文五年)
- 店舖を通一丁目に移し紙人地敷發賣
- 二三三八 (寛文八年)
- 羽子重地敷發賣を始む
- 二三三〇 (寛文十年)
- 支那人中川治兵衛に命し家法を作る
- 二三三八 (延寶六年)
- 縮緬、毛氈、紗、綾の發賣を始む
- 二三三九 (延寶七年)
- 兩木浦の發賣を始む
- 三三四一 (天和元年)
- 木綿羽織の發賣を始む
- 二三四六 (貞享三年)
- 郡内藩の發賣を始む
- 二三四九 (元祿二年)
- 初代大村彦太郎卒す (五四才)
- 三三六〇 (元祿十三年)
- 通一丁目東側三軒目に第一回土庫家屋を購入す
- 三三六七 (寶永四年)
- 御家式目を定む
- 三三六九 (寶永六年)

建築及設備

地上七階地下二階鐵骨鐵筋コンクリート、寫眞に見る如く最新式インターナショナルの明朗且輕快な建物である。昭和七年十二月幾多の慘事を産んだ火災により四階以上は完全に燃焼し、之が復興を完了したのは昭和八年六月九日であつた。其後同年十月特殊建築物規則によつて百貨店建築に關する取締令が發せられるや新装の白木屋は之に基き再び改築を施した結果、現在では防火、防煙、人命救助の三點に於て恐らく日本一の完全なる百貨店と稱されるに到つて居る。

概要

一階中央より二階を打抜いたドーム式ホールは金色の壁面と相和して一大豪華版を形成して居る。又地下一階より二階までは二十尺巾の大階段が途中でバルコニー型に曲折し美觀を添えてゐる。地下二階は地下鐵に連らなり屋上に登れば附近に眺望を碍ける高層建築物なく大東京の繪姿を一望の内に治める。

設備

エレベーター  
白木屋の名物はここにも又一つあり。即ち大エレベーター

現在の狀態は

【客用】五十三人乗一臺、十四人乗三臺、五十一人乗一臺、二十三人乗一臺

計七臺

【事務用】五十二人乗、二十三人乗十一人乗、六人乗各一臺

總計 十二臺

何れも防火設備が施されてガラス部分もワイヤー入ガラスが使用されて居る。日本エレベーター會社速力一分に一五〇呎

エスカレーター

一階より六階まで五基、各階毎に電動式シャッターがあつて防火防煙に備へてある。

機噐設備

第二地下室の機關場には大變電所があり一切の動力を此處で調製する。液化炭酸瓦斯を用ふる冷房暖房は各階壁面の適所に設けられたユニット

通一丁目北側より三軒目に第一回土庫家屋の購入

- 三三七〇 (寛永七年)
- 兩角より一軒目の土地家屋購入
- 三三七二 (正徳二年)
- 白木觀音像の發賣白木名水の湧出
- 三三七三 (正徳三年)
- 深川池田町に深川倉庫敷を購入
- 正徳年間
- 朝鮮使館當店を休館所に充つ
- 三三七五 (正徳五年)
- 店舖改築
- 三三七六 (正徳六年)
- 出火所不明にて新築
- 三三七七 (享保一年)
- 小石川より出火類焼の爲改築
- 三三七八 (享保三年)
- 新町より出火類焼の爲改築
- 三三八三 (享保八年)
- 兩角より三軒目土地家屋購入
- 三三八九 (享保十四年)
- 店舖改築
- 三三九三 (寶曆三年)
- 平松町北側に土地購入
- 琉球中山王出府に當店休業關連接待
- 三三九六 (寶曆六年)
- 山手寮に當店休業し御座敷接待す、明治初年迄この屋敷を御座敷
- 三三九七 (明治四年)







三階以上に逃避用バルコニーを設けこれより非常階段に通ずる事が出来る。

各階現状

前記機關の外に商品管理部、配送部、仕入部、店員更衣室があり白木名水を通れば地下鉄出入口が控へて居る。

- 一階 鐵道案内、サービス係、萬承り所、ツーリストビュロー、手荷物預所、郵便局が設備されてゐる。
中二階 全部を事務室に使用
二階 此處には醫務室、休憩室、公衆電話の備へがある。
三階 婦人社交室、日本間、公衆電話。
四階 齒科室、寫眞室、検眼室及びギヤラリーがあり此處では展覽會其他の催し物が絶えず開かれる。
五階 美容室、理髮室、住宅相談

- 六階 所が設備されてゐる。
七階 特賣場及び事務室。
七階 ホール。收容人員約一千餘、ホリゾント式舞臺に完全な照明設備が施され、防音、暖房、冷房装置は前述の如く、一般の申込には一日廿圓の使用料で貸與へる。
食堂。千餘名の客を入れる事が出来設備一切前と同じ。特別室、大食堂に連接した關の間を始め數ヶの特別室が大各階の集會、社交に提供されて居る。
八階 五六〇坪、白木觀音及び白木遊園、展覽臺及び店員食堂がある。

- ▲二五二六(明治二年) 關燒の危に會ひ假借調のまゝ營業
▲二五二八(明治元年) 聖上東御入京當日休業
▲二五二九(明治二年) 名古屋支店本町丁丁目に移轉
▲二五三〇(明治二年) 明治に入り始めての賣出をなす。
▲二五三二(明治五年) 兵部省より小倉鐵道千反の註文あり
▲二五三四(明治七年) 先代彦太郎氏出資支那人神島
▲二五三五(明治八年) 先代彦太郎氏小松原熱に入り修業
▲二五三六(明治九年) 奇應丸發賣許可
▲二五三七(明治十年) 七月建築開始、店法改正、上野勸業博覽會に數點出品す
▲二五三八(明治十一年) 十一月日本建築落成(平家通り)
▲二五三九(明治十一年) 大賣出し行ふ。同年瓦葺修葺
▲二五四〇(明治十一年) 六月十八日始めて賣出の講習會を開く(商會の贊助なり)
▲二五四三(明治十六年) 一月八日大雪にて來客一人もなし
▲二五四四(明治十八年) 八月七日大規模修繕上棟式舉行
▲二五四五(明治十八年)

業態及従業員

業態

大三越と軒を連ね而も之又好調にある新鋭高島屋を背後に控えての營業には可成り苦しいものがある。交通の便は縦横無盡に發達して居るが東京の繁過の中心としての日本橋には昔日の面影なく完全に銀座街へ取られて了つてゐる

概括

然し株式會社となつてから比較的年數淺く而も其の十餘年間に三度の大火災に遭遇して居る。即ち大正十二年の大震火災と昭和七年の火災である。此の二つの障害は白木屋發展の行手に妨からざる影響を及ぼした。然して白木屋の最近此の苦境より脱せんとする努力は善悪にかけて暴露されてゐることは絶えざる職制及び人事異動にも其の一端を窺ふ事が出来る。

Table with 2 columns: 年次 (Year) and 純益金 (單位圓) (Net Income). Rows include 昭和六年下半年, 昭和七年上半年, 昭和七年下半年, 昭和八年上半年, 昭和八年下半年.

店員

現在白木屋に働いてゐる店員の概數は次の如くである。

- ▲二五四六(明治十九年) 有栖川宮歸去につき三日間休業す可全公二百回券を行ふ
▲二五四八(明治二十一年) 英佛人とラシヤ直取行を行ひ
▲二五四九(明治二十二年) 三井倉庫店洋服部開業時に當店代表者出席
▲二五五〇(明治二十三年) 洋服注文取車六臺と騎士百人を使用す
▲二五五〇(明治二十三年) 七月九日四萬六千圓觀音の祭を兼ねて秋葉會にて設立を行ふ
▲二五五三(明治二十六年) 美濃の震災に義捐米を送る
▲二五五三(明治二十六年) 米國シカゴ博覽會に出品す
▲二五五四(明治二十七年) 海軍擴張に付一年三百圓六ヶ年間獻上方を願出す
▲二五五四(明治二十七年) 七月十七日朝鮮事件、本日より關稅賣上昨年の半分に減らす
▲二五五五(明治二十八年) 日本橋兵衛會に千圓也亦附
▲二五五五(明治二十八年) 陸海軍二千圓也亦附、店員擧出一百三十圓也亦附、官廳方を設く
▲二五五五(明治二十八年) 和吉郎氏八年間の洋行より歸朝
▲二五五五(明治二十八年) 彦太郎氏の願出許可せる



計 一、九〇〇人

分店及賣店 一〇〇人  
男店員 四〇〇人  
女店員 六〇〇人  
合計 二、五〇〇人

### 店員教養

新店員の教育及び現店員の講習を目的とする爲に白木商業學校なるものが設けられてゐる。

### 白木商業學校

○養成教育  
○向上教育

前者は即ち新規採用となりたる店員を教育するもので、一週間乃至四週間義務として教育されねばならぬ。後者は現在店員の向上發展のため營業時間中一時間宛適宜の講習を行ふ。教室として特別室約二十坪を本店内に設け一回に四十五

名を收容し得る。

講師—店内主任、係長、幹部中より任命  
主任主任—一人、人事係員  
鈴木貞一氏

### 授業科目

白木屋沿革、白木屋組織、傳票、百貨店事情、接客要項、服務要項、非常時心得、商品知識、見學、實習  
尚今日迄此の教育を修了せる者即ち白木屋商業學校卒業者數は左の如し  
養成教育 七八回 一、五〇四名  
向上教育 三六回 九四名

### 青年訓練所

私立白木屋東京青年訓練所を設け青年訓練所令に依りて青年の心身を鍛錬し國民の資質向上を目的とする。訓練期間 四年間  
白木屋に於ては少年店員は悉く入所する事になつて居り

### 寄宿舎

現在第一年度生より第四年度生まで合計八十七名の團員あり夫々専門の教員が指導に當つて居る  
主事 梅田建次郎  
指導員 梶谷富藏、白井政次、高橋竹庵、長谷川俊  
訓練所は雪ヶ谷店員寄宿舎内に設けられてゐる。

### 所在地

東京市大森區調布大塚町七二

五 池上電鐵雪ヶ谷驛下車、約五千坪の廣闊な地域を占め北方數分にして洗足池畔に到り西窓には富士の巒峰を望む絶好の場所である。

### 宿 舎

總二階洋風建築物にして階下大食堂を中心として南北に縦貫する廊下の延長四十餘間清潔な大氣と完全な設備と相俟つて衛生的である。

### 宿舍生活

舍内は總て軍隊的整頓を勵行し極めて規則正しい生活を營んで居る。  
本年は従來の大井寄宿を廢して雪ヶ谷に合併し、又青年訓練所には銃劍等の理品を新に増やす等革新的改新を計

り内容の充實に勤めてゐる。尙寄宿舎生の出勤率も漸次良好となり  
昨年 五〇%  
今年 九〇%  
の向上を示してゐる。

### 收支經濟

總て自治を本義とし舍經濟についても舍員の經濟的理解を昂むる目的を以て、毎月收支を本店の監督下に委ね年少店員には現金を手交するを避け衣食費等一切の支拂を控除せる殘額中必要なる程度の小遣錢を手交して他は一切他日の資に預金せしむる方法をとつてゐる。

食費 一ヶ月 九圓五〇錢  
會費(電燈、書留等) 一ヶ月一圓

### 運動部

勵し品性を陶冶し旺盛不撓のスポーツ精神を涵養するべく



雪ヶ谷賣の全景

百貨店々員としての劇務を考慮し健康保持の爲體育を奨

- ▼二五六〇(明治三十三年) 十草よりなる店則を造る
- ▼二五六三(明治三十六年) 大阪心齋橋筋に出張店を設く
- 十月三階建の店舗の大増築なる在來の形質を廢し陳列式に改め帝都最初のショーウィンドーを設く
- ▼二五六四(明治三十七年) 今日店則の根源たる甘藷の店則改造
- 雜貨部併置、食費を設く
- 雜誌「進行」發刊
- ▼二五六七(明治四十年) 分業制度を布く
- ▼二五六八(明治四十一年) 洋服のレディメイド發賣
- ▼二五六九(明治四十二年) 東京本店にメッセンジャーボーイを置き店內郊外に活動せしむ
- ▼二五七〇(明治四十三年) 北海道(小樽、札幌、旭川、室蘭)に出張販賣
- 水害罹災者に五百金を獻じ亦報知新聞の慰問隊に應じ柔飯一萬人分を持ち店員七十人を以て下谷、本所、深川の順に罹災民を慰む
- ▼二五七一(明治四十四年) 十月和洋折衷式五階建の増築をなしエレベーターを新設す
- ▼二五七二(明治四十五年) 休養室等を新設す
- ▼二五七三(明治四十六年) 農生香煙光臨來店
- 明治大帝の御大喪にて七月三十日より八月一日まで休業
- ▼二五七四(大正三年) 自動體操室を休養室に設置す和洋博覽會開始
- ▼二五七五(大正四年) 四月本店増築、九月竣工
- 大正博覽會出品の丸帯一本宮内省御買上尙同會より名譽大賞牌を受く
- ▼二五七六(大正五年) 少女歌劇三紀原下の台費を仰ぐ
- 大正天皇御即位に因んで三階樓上に御大典祝賀祝賀會を開催す
- 室内裝飾部新設
- ▼二五七七(大正七年) 七月深川區佐野町丁且五七に寄宿舎を新設し供店員二百名を收容す
- 少女歌劇閉止
- ▼二五七八(大正八年) 三月資本金五百萬圓の株式會社とす社長大村太郎氏事務長田竹松氏
- 四月自動車販賣を始む
- 七月藥品部新設
- 十一月五階に美新館開設
- 店舗改築



各種運動部が組織されてゐる  
現在同店内に存在してゐる  
運動部は

野球部、庭球部、蹴球部、剣道部  
柔道部、旅行部、女子書道部  
等で休日を利用して時たま外部  
との對抗試合をも行ふ。

待遇

△初任給

男店員  
小學校卒 七十五圓より  
中學校卒 同  
商業卒 一圓より  
各種專門卒 一圓三十圓より  
私大卒 一圓五十圓より  
帝大卒 同  
女店員  
小學校卒 七十五圓より  
女學校卒 一圓前後

△昇給

時期及規定額なく隨時之を  
行ふ。

△賞與

ボーナス 決算直後年二回適宜  
給與す。

給與す。

期間を定め各賣場  
所に最も賣上好成績を収め  
たるものに對し臨時賞與を  
與ふ。之は賣上金の千分の  
一を以て普通とす。  
店員賞與金 ポーナスの時半期  
間を通じて無遅刻無缺勤者  
に支給す。

△手當

在職者 月給者三ヶ年以上の  
勤続者に對し在職中月五圓  
を支給す。  
慶弔金 未成年の子供一人に  
對し月二圓づゝ支給。

△休暇

勤務時間は一ヶ年を平均し  
大體九時間位で月二日の定休  
日及び休職は九十日以内の規  
定である。

△娛樂機關

白木屋の沿革

現在日本に於ける百貨店は其の總ゆる點に於て外國  
の夫れに學ぶ可きものとなしとの聲は今や均しく一般  
に行き亘つてゐるが、猶一つ我が國百貨店が持つ誇り  
は其の沿革である。中にも白木屋は連続的に二百七十  
二年を算し大三越、松坂屋をも遙に凌駕してゐる。  
而も其の創業當時即ち今から二百七十年前と言へば  
我が國は領土の夢に耽溺し極めて幼稚なる經濟思想に  
在り乍ら、それも一吳服商と言ふ譯でなく三越同様始  
めから所謂百貨店形態をとる素質にあつた事は當時の  
先進諸外國に徴し驚異であり又誇りでもあらねばなら  
ない。  
此の意味から白木屋の歴史即ち二百七十餘年間彼白木  
屋が踏み來つた過程を觀察することは極めて意義ある  
ことであらう。今其の概略を此處に展開すれば大凡次  
の如くである。

創業

大村家の發祥

初代彦太郎はもと近江の名  
家淺井長政の血統にして幼く  
して京師に出て材木商を營ん  
で居たが年廿七歳となるや  
「豪商たらんには將軍の膝下  
に限る」との見解から奮然江  
戸に出て日本橋通二丁目の土



- 百坪、地下二階地上七階、十七人乗  
大エレベーター設置す
- 五反田分店開設
- 委託販賣制採用
- 下期五分配當店
- ▼一五八九(昭和四年)  
大塚、大井、大倉、麻布、帶大、大  
久保各分店開設
- 店員一千百人に及ぶ
- 五月第一回總務理事に着手
- ▼一五九〇(昭和五年)  
福永、神樂坂、京都に分店を設け  
龍田丸に賣店を置く
- 創業一百七十年祭を催す
- ▼一五九一(昭和六年)  
再び千五百萬圓に増資(優年株附)
- 第五回社員百萬圓發行
- 十月第一回工事竣工、建坪一萬餘坪
- ▼一五九二(昭和七年)  
白木製鐵廠設立  
大阪堺筋店開設  
百貨店協會自創案實施  
商品券法實施
- 十二月十六日日本橋店四階以上焼失  
殉難店員十四名を出す
- 殉難者に慰下賜金の恩命に浴す
- 十二月二十一日殉難者の店牌  
十二月二十四日三階以下で開店

特に柏クラブと稱  
する店員の集合機關を設け園  
藝、將棋、麻雀等の娛樂機關  
を設備す。  
夏期隨所に寮を借受け夏の保  
健衛生を保つてゐる。

味の素

- ▼一五八〇(大正九年)  
七月資本金一千五百萬圓に増資  
五階塔内に理髮室新設
- ▼一五八一(大正十年)  
八月奥田氏辭任、西野忠之助氏社長  
となり大村彦太郎氏相談役となる。  
大阪堺筋備後町に支店新築開店  
本店一階にレジスター使用
- ▼一五八二(大正十一年)  
三筆郵便局經理の許可ありて「吳服  
橋外郵便局」の事務開始  
店員一千三百五十名を算す
- 丸ビル内に「丸の内出張所」新設
- ▼一五八三(大正十二年)  
神戸出張店開設  
千駄ヶ谷に配送中蔵所設置
- 關東大震災、本店損壞  
丸の内、九段、四谷雜町に出張賣場  
所開設
- 販賣奨励法實施
- 十一月本店煉瓦にバラックを以て營  
業繼續、面積千六百坪、土足圓
- ▼一五八四(大正十三年)  
九段出張所を總一樓とす  
資本金七百五十萬圓に半減(拂込四  
百五十萬圓)店員數五百十人  
備物係に美術品賣場、信用調査設置  
本店バラック増築、期間賣場開始



地を買収し、初めてさゝやかな小切店を開いたのである。之即ち白木屋の抑々の前身にして寛文二年今より二百七十二年前であつた。

### 白木屋の家號及商標の成因

何れも初代彦太郎の材木商當時に其の源を發し、當時飛騨國木曾山林の領主金森侯より伐材の仕事を受け居たり事より『木』の字を取り、白は鹽峰富士の白雪に因て此處に白木屋の家號が出来たのである。

又カネ一の商標は、材木に押す焼き印の金具を交又し其の下に同業一の意味を表す一を添えて出来上つたものであつて一説に謂ふ指し尺を交又

## 飛躍發展の曙光

斯くの如く日本其のものゝ動搖の餘波を受け諸商人の苦境にある時忽然と輩出したのが十代目大村彦太郎である。

### 先代店主の偉蹟

即ち彼彦太郎の出現は當時の白木屋にとつて中興の祖とまでは行かず共少く共甚だしく店運の開發に精進し白木屋の大屋臺骨を安泰に置いたのは即ち彼或ひは彼の時代であつたと稱しても差支へないであらう。

幼少の頃より苦勞を積み十二歳の時下谷の伊藤家(今の松坂屋)に山田と變名して奉公に出で勤むること三年、明治十九年には支配人次席に伴

したと言ふのは誤りである。此の焼き印は今以て白木屋の寶物として秘藏されて居る。

### 初代店主

此の初代彦太郎氏は一代の商傑で當時早くも薄利多賣の主義を奉じ店員を愛し又道徳觀念に強く

商ひは高利を取らず正直に良きものを賣れ末は繁昌の商訓を遺したる事は今以て實業學校の教科書にも其の立志美談を讃えられてゐる。



廣重描くとこの江戸時代白木屋前風景

### 當時の商況

寛文二年年二十七歳にして開店してより漸次附近の土地を買収し四年目の寛文五年に現在の白木屋の地に移り店舗を擴張し更に兩三年の後に店舗を築いた。

一方商ひは諸大名との取引多く呉服類の外に既に雜貨類を販賣し其の主なるものは奥女中の用ふるおはくろ、船時計(今の磁石)等、三味線の糸類

などである。

又仕入部を京都に設け江戸に

はれて渡歐、英國ブラッドフォードのアーサーデービー・ラシヤ問屋へ入店し六ヶ年の見習ひをした關係から廿八年歸朝するやイギリスラシヤの

直輸入を始める外、外國百貨店の長を採り一頃は洋服部の職工二百人を使用する盛況を収めた。

### 白木屋の先鞭



### 白木名水

正徳二年即ち寛文二年創業後三十六年江戸日本橋附近に飲料水に適した井戸なく住民殊の外不便を感じたる爲白木屋は多額の費用をかけ難工事を續けた所偶々土中から金光燦たる観音像を掘出し、同時に滾々と清水が湧出した。爾來今日まで鑿水として幾多の奇蹟を残し乍ら如何なる酷暑中にも盡きる事なく、その湧出は一晝夜八千石に達してゐる。

於ける販賣は支配人に一任して店主自らは京師江戸間を往復し縦横無盡の敏腕振りを發揮した。

## 受難時代

寶曆三年に到るや一躍一千里に達する大店舗を築き以來其の歩みは極めて順調に進んだが只江戸の眞只中に店を構えてゐた關係上名物の火災に遭ふこと實に數ふるに遑なく近年の二三の例を擧げて、慶應二年、大正十二年、昭和七年と三回も災厄に見舞はれてゐる。

所謂白木屋の沈滞に瀕した時代は殆んどなく只明治維新社會の大變改に稍憂色を思はせられたが、之は白木屋のみならず凡ゆる商人階級へ及ぼした龜裂であつた。

當時の歐風全盛の波に乗つた白木屋は同業間に幾多の先鞭をつけたが明治三十六年には三階建の總陳列式に改め間もなくエレベーターを設備したの之を以て嚆矢とする。明治四十四年には五階建の大店舗を建設し愈々本格的デパートの權威を強固にした。

## 會社設立

斯くして大村家個人經營の白木屋發展の経路は大正八年に到り愈々機熟し同年二月二十八日遂に株式會社へ轉向するに到つた。即ち資本金五百萬圓、社長大村彦太郎、専務奥田竹松の陣容にて二月廿八日創立總會を開催、三月七日に設立登記を完了した。



### 支店分店

株式会社となりてよりはト  
ン／＼拍子に發展し後述する  
如く翌年には一千五百萬圓の  
増資をなした。

越えて十年には大阪場筋備  
後町角に支店を新設し關西方  
面へ乗出す第一歩を踏み、十  
二年神戸にも出張店を開設愈  
々其の規模を擴大して行つた

#### 關東大震災

大正十二年九月一日、人も  
知る關東大震災により白木  
屋も其の本店を灰塵と化し當  
時の世情から其の再起の期間  
は後れるものと見られてゐた  
が、同年十一月本店焼跡に面  
積千六百坪のパラツクを急  
造早くも營業を開始するに到

つた。之は前述の如く白木屋  
に對する平常顧客の異常なる  
同情と後援に負ふ所多めで、  
如何に傳統の勢力が偉大なる  
ものかを如實に證明したと言  
つても敢て過言ではなからう

#### 土足の新制

此のパラツク建であつた事  
が最大の動機となつて店內土  
足制を採用したのは獨り白木  
屋のみならず多くの百貨  
店が採つた道である。

然し店舗は斯くの如く復興  
したりと雖も當時の世情は未  
だ驟然たるもので況んや、般  
の購買力の缺乏は遂に白木屋  
の資本を半減せしむるの止む  
なきに到つた。即ち大正十三  
年資本金を七百五十萬圓とし  
店員數も五百十餘名に減少し

た。之を火災前の一千三百五  
百名に比すれば隔世の感があ  
る。

#### 復興

經日と共に大東京も追々復  
興を完成し一般世人の生活も  
漸く落つくに比例して白木屋  
の業績は日に向上し、震災が  
契機となつて繁過化して行く  
郊外(新市域)にボツリ／＼  
と分店を開設し始める大阪  
方面にも相次いで四ヶ所の分  
店を設けた。

#### 地方分店の廢止

然るに數年前より之等地方  
の支店分店を除々に閉鎖する  
と共に本店を中心として大東  
京の要所々々に之が充實を計  
り何處までも東京人の白木屋  
として募進する事になつた。

## 會社關係

### 資本金の變化

大正八年二月從來の大村家  
個人經營を資本金五百萬圓の  
株式會社としてより今日まで  
左の如く資本金の變化を來し  
た。

#### 増資

大正九年七月二日、即ち會  
社設立後約一年半の後一躍し  
て三倍の一千五百萬圓に増資  
した

#### 減資

大正十二年關東大震災に  
より本店を一朝にして烏有に

歸した爲、翌年一月十八日、  
遂に資本の半減を餘儀なくせ  
られ七百五十萬圓に減資登記  
を決定した。

#### 再増資

火災による痛手は店員一同  
の懸命なる努力と世人の同情  
とをかつて逐次復興し、昭和  
六年十一月廿八日には再び元  
の一千五百萬圓に再増資を取  
行し今日に及んでゐる。

#### 株主配當

大正十三年より今日までの  
株主配當は左の如し

大正十三年	上半期	八分	下半期	八分
同十四年	五分		五分	

#### 株式及株主

同十五年	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭和二年	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
同三年	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
同四年	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分
同五年	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分
同六年	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分
同七年	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分
同八年	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分

#### 優先株

白木屋の株式は總數三十萬  
株(一株五十圓)で此の内十  
五萬株を優先株として之には  
大體左の如き優先權を附與し  
てゐる。

- 一、優先株は毎決算期に於て其の拂  
込金額に對し一年一割に達するまで  
普通株に先立つて利益配當を受け  
る權利を有する
- 二、優先株の配當が該決算期に於て  
其の拂込金額に對して定率に達し  
ないときは其の不足額は後期に於  
て填補する
- 三、六決算期を繼續して優先株、普  
通株共一年一割の配當をなしたると

#### 株主優待

大正十四年十月十五日に開  
かれた重役會議に於て株主に  
對する優待を左の如く定めた  
即ち株數に應じ優待票(御買  
上額に對し一律に五分引)を  
出し其の概要は左の如し。

- 拾株 一ヶ年回買上金額八百圓迄
  - 壹拾株 同 壹千六百圓迄
  - 五拾株 同 壹千六百圓迄
  - 壹百株 同 貳千四百圓迄
  - 貳百株 同 貳千四百圓迄
  - 參百株 同 參千六百圓迄
  - 肆百株 同 肆千八百圓迄
- 右は一ヶ年分を四回に分け三  
ヶ月に發行し株主本人及家族  
の日用品に限り(但し商品券  
薄利品、書籍、雜誌、和洋樂  
器、煙草、白米、木炭、食鹽  
度量衡器並に食堂を除く)本  
店、分店、賣店の何れにも適  
用する。



# 社債

第八回 五百五十萬圓

受託會社 安田信託株式會社  
昭和八年四月貳拾日發行、利率年六分五厘、昭和九年四月拾九日迄償還其後毎年四月貳拾日及拾月貳拾日の二回に各額面拾萬圓以上宛を抽籤により償還し昭和拾年四月貳拾日迄に完済す。

但し償還期間中と雖も賣入額却をなすことを得

第七回 五百萬圓

受託會社 三井信託株式會社  
昭和八年五月廿日發行、利率年六分五厘、昭和九年五月廿日迄償還其後毎年同額面拾萬圓以上抽籤により償還し昭和拾年五月廿日迄に完済す

但し償還期間中と雖も賣入額却をなすことを得

## 歴代重役

大正十三年二月九日

取締役社長 西野惠之助

取締役 大橋新太郎

同 廣岡 惠三

同 大村彦一郎

監査役

嵯峨 實勝

同 澤田文之助

同 大村彦太郎

同 石渡泰三郎

同 若森 清次

同 木村鋼太郎

同 八田熊次郎

同 大正十四年二月十日

監査役に 八田熊次郎

の諸氏就任他は前期と同じ

大正十四年二月十日

監査役八田氏辭任

同年八月十二日

前期と異同なし

大正十五年二月九日

石渡、若森、木村の三氏、

常務取締役となる

監査役嵯峨實勝氏引退

同年八月七日

取締役に垣見八郎右衛門

藤井善助の兩氏

監査役に福島行信氏就任す

昭和二年二月十日

常務取締役石渡氏引退

取締役大橋新太郎氏一人と

なる。廣岡惠三氏相談役

同年八月十日

取締役に 大村彦太郎

同 山田 忍三

同 西野惠之助

同 大橋新太郎

同 若森 清次

同 木村鋼太郎

同 福島 行信

同 澤田文之助

同 廣岡 惠三

昭和三年二月十日

異動なし

同年八月八日

大村彦一郎氏社長となる

昭和四年二月八日

木村鋼太郎氏引退

若森氏監査役となり取締役に

には新たに梅田健次郎、岡

清藏、鏡山忠男、香月芳の

諸氏就任

同年八月十日

異動なし

昭和五年二月八日

八月九日

昭和六年二月九日

八月九日

昭和七年二月八日

香月芳氏退き、片岡隆起、

下郷傳平兩氏取締役にとなる

以後今日まで同じ

## 現重役及職員

### 現重役

(ゴザックは現役を不す)

取締役社長 大村彦一郎

専務取締役 山田 忍三

取締役 西野惠之助

同 大橋新太郎

同 下郷 傳平

同 片岡 隆起

同 梅田建次郎

同 岡 清藏

同 鏡山 忠男

山田 專務



岡 專務



梅田 取締役



鏡山 取締役



若森 顧問



監督役 福島 行信

同 澤田文之助

相談役 廣岡 惠三

顧問 若森 清次

### 總務部

總務部長 河井 源澄

同 次長 足立 恭三

同 庶務係長 足立 恭三

同 人事係長 辻村彦次郎

サービス係長 大久保定二  
計理係長 鳥飼 千一  
同 次長 村島 俊輝  
出納係長 堀野 儀一  
商品管理係長 黒川 建亮  
懸賞係長 三原 經彦  
用度係長 澤村 耕平  
營繕係長 藤田 榮一  
警備係長 野中 直一  
配送係長 徳永 秀夫

各階長

地二階 久保田榮助

地一階 立見武四郎

一階 大久保定二

二階 秋山 越三

三階 竹川 三郎

### 營業部

營業部長 岡 清藏

部長付係長待遇 市川 隆三

四階 高木 男  
五階 牧野 實三  
六階 野口 明文  
七階 菊地 友吉

### 宣傳部

宣傳部長 宮入 保次

同 次長 玉置 春雄

明治神宮日獻御神酒

# 東自慢

ソマジマツア

總店 東京市本町三丁目  
支店 東京市本町三丁目  
支店 東京市本町三丁目



宣傳係長 白杉 正徳  
陳列圖案係長 今村 信

### 商事部

商事部長 長島亥之助  
同部長附 淺居 義輔  
外賣係長 阿部 貢  
地方係長 石川 圭三

### 吳服部

吳服部長 今關卯之助  
第一吳服係長 山田 舜一  
次長 岡部 龍一  
第二吳服係長 麻生 濱吉  
次長 安藤 松樹  
第三吳服係長 竹下 武雄  
次長 須藤 信次  
第四吳服係長 徳山 勇天  
次長 關根彦一郎

吳服特賣係長 福井 利一  
切得意係長 麻生 濱吉  
次長 菱田 與吉  
吳服誂係長 小崎 治作

### 雜貨部

雜貨部長 山本友三郎  
男子用品係 齋藤 啓一  
婦人用品係 田中 隆平  
子供用品係 鈴木萬右衛門  
家具係 河合定五郎  
美術係 李家 建  
洋服係 徳永 正規  
食料品係 河村 四郎  
雜貨特賣係 小野 重雄  
七階係 菊地 友吉

## 分店之部

白木屋の分店は現在東京市内に八ヶ所(内二店は賣店)設けられてゐるが、夫々其の營業情況に於て本店と非常な相違がある所から分店部の完全なる獨立會計制を敷き各々の特徴を生かして自由なる活躍をなさしむる方針に出でる。營業は如斯獨立と雖も其の事務上の總本部は本店階に設け綜合仕入及び經理專行等の制度の下に統率してゐる

### 五反田分店

開店 昭和三年十二月  
建築 木造二階建延約五〇〇坪  
監督掛主任 赤見 久成  
計算掛主任 種田 豊  
監督掛主任 松本 清吉  
監理掛主任 赤見 久成  
監督掛主任 種田 豊  
監督掛主任 松本 清吉  
從業員總數 一〇〇餘名  
分店長 秋山 常行  
吳服掛主任 篠崎 利平  
雜貨掛主任 西尾 博  
食料品掛主任 川崎 忠男  
庶務掛主任 加茂 進  
開店 昭和四年二月七日  
建築 二階建六〇〇坪  
從業員總數 一三〇餘名  
分店長 山本 春周  
次長 渡邊 憲二  
食料品掛主任 大熊太一郎

### 分店部長

本店取替役 鎌山 忠男  
同次長 中村 四郎  
分店部事務係長 松坂虎之助  
同 仕入係長 室橋 幹亮  
庶務掛主任 上野 貞三

### 大森分店

開店 昭和四年二月七日  
建築 二階建六〇〇坪  
從業員總數 一三〇餘名  
分店長 山本 春周  
次長 渡邊 憲二  
食料品掛主任 大熊太一郎

### 業態概略

分店に依つて擧げられる利益は白木屋にとつて極めて重要な役割を占めてゐることは前記の如くであるが、然らば此等分店は大體如何なる業績を擧げてゐるか。即ちAクラスに該當するものに大森、五反田、大塚、錦糸堀があり、Bクラスに屬するものに神樂坂、麻布の二店他にCクラスとして小田急、丸ビルの二賣店と大別するところが出来る。Aクラスは何れも新市域に編入された繁華の中心で大森五反田は附近の金場地の影響を受け頗る好調を示し大塚は昨年五月半敷地八十餘坪を買収して大増築をなしてより愈

々繁盛を極めて居る。錦糸堀は都の北方を一手に構へてゐる。東京一の乗降客數と云はれて居る新宿驛に進出してゐる小田急賣店は巧みにサラリーマンの家庭に喰入り、丸ビルでは新鮮な洋品雜貨にビル生活者の歡心を買つてゐる。斯くの如く各分店夫々獨特の特徴を持つてゐる殊に土地土地による嗜好の差異は販賣商品に影響して絶えず研究して仕入ねばならぬ。尙昭和六年十二月以來澁谷に分店を出す計畫を樹て今日まで引續き地代を支拂つてゐるが近く完成する東横デパートの進出が同地帯に如何なる影響を及ぼすかを目下傍觀中で機を見て白木屋の食指も當然動くものとされてゐる。

庶務掛主任 山本 正雄

### 大塚分店

開店 昭和四年五月  
建築 三階建延六〇〇坪  
從業員總數 一七〇餘名

分店長 橋地 信雄  
吳服掛主任 宮林 一  
雜貨掛主任 坪田 定治  
食料品掛主任 伊藤 四郎  
庶務掛主任 向田千代造

### 錦糸堀分店

開店 昭和五年四月  
建築 三階建延六〇〇坪  
從業員總數 一三〇餘名

分店長 望月 富雄  
次長 小川 要治  
吳服掛主任 清水仁太郎  
雜貨掛主任 林 潔  
食料品掛主任 鈴木 俊雄  
庶務掛主任 小野村 武

### 神樂坂分店

開店 昭和五年六月  
建築 三階建三〇〇坪  
從業員總數 七百餘名

分店長 清水 眞三

吳服掛主任 齋藤 正一

雜貨掛主任 大村 龍雄

食料品掛主任 同

庶務掛主任 松田 秀司

### 麻布分店

開店 昭和四年四月  
建築 二階建二四〇餘坪  
從業員總數 五〇餘名

分店長 關谷 三介  
吳服掛主任 安永 政市  
雜貨掛主任 小田喜代治  
庶務掛主任 伊藤 新一

### 小田急賣店

開店 昭和七年十二月  
建物 驛構内一階建延二〇〇坪

分店長 増田 滿之  
主任 小柳 敬爾

### 丸ビル賣店

開店 大正十一年  
營業所 丸ビル一階約廿五坪  
主任 松田 昇一



<p>美術玩具形卸商</p> <p>中川徳三郎商店</p> <p>東京市浅草区船場二丁目六番 電話浅草(84)〇九四三番</p>	<p>クラウン蓄音器 クックホン蓄音器 大東蓄音器商會</p> <p>東京市下谷區</p>	<p>タイガー印高級メリヤス製造卸商 クロイリ印下メリヤス製造卸商</p> <p>渡邊政男商店</p> <p>東京市本所區東馬場一ノ十二番 電話本所(77)五二七四番</p>	<p>メリヤス仕立物製造問屋</p> <p>アイエス印發賣元 岩島信次郎商店</p> <p>東京市神田區久衛門町七番 電話浪花(07)二五五六番</p>	<p>セーター スカート</p> <p>衣斐長三郎商店</p> <p>東京市日本橋區濱町一ノ六番 電話浪花(07)四三〇〇番</p>
<p>セキドかや東京支店</p> <p>東京市日本橋區入船町十二番地 電話浪花(07)二八二四番</p>	<p>足袋商</p> <p>島村東京支店</p> <p>東京市豊島區三軒町六八番 電話九段(33)〇八八九番</p>	<p>メリヤス商</p> <p>小杉合名會社</p> <p>東京市日本橋區船場二丁目一 電話浪花(07)四七五八番</p>	<p>各種袋製</p> <p>井松井合名會社</p> <p>東京市日本橋區船場二丁目一 電話四谷六三(07)四六三三番</p>	<p>子供服</p> <p>山口政次郎商店</p> <p>東京市日本橋區船場二丁目七番地</p>

躍進の白木屋

充実したる内容  
流行商品の満載

春は白木屋から!

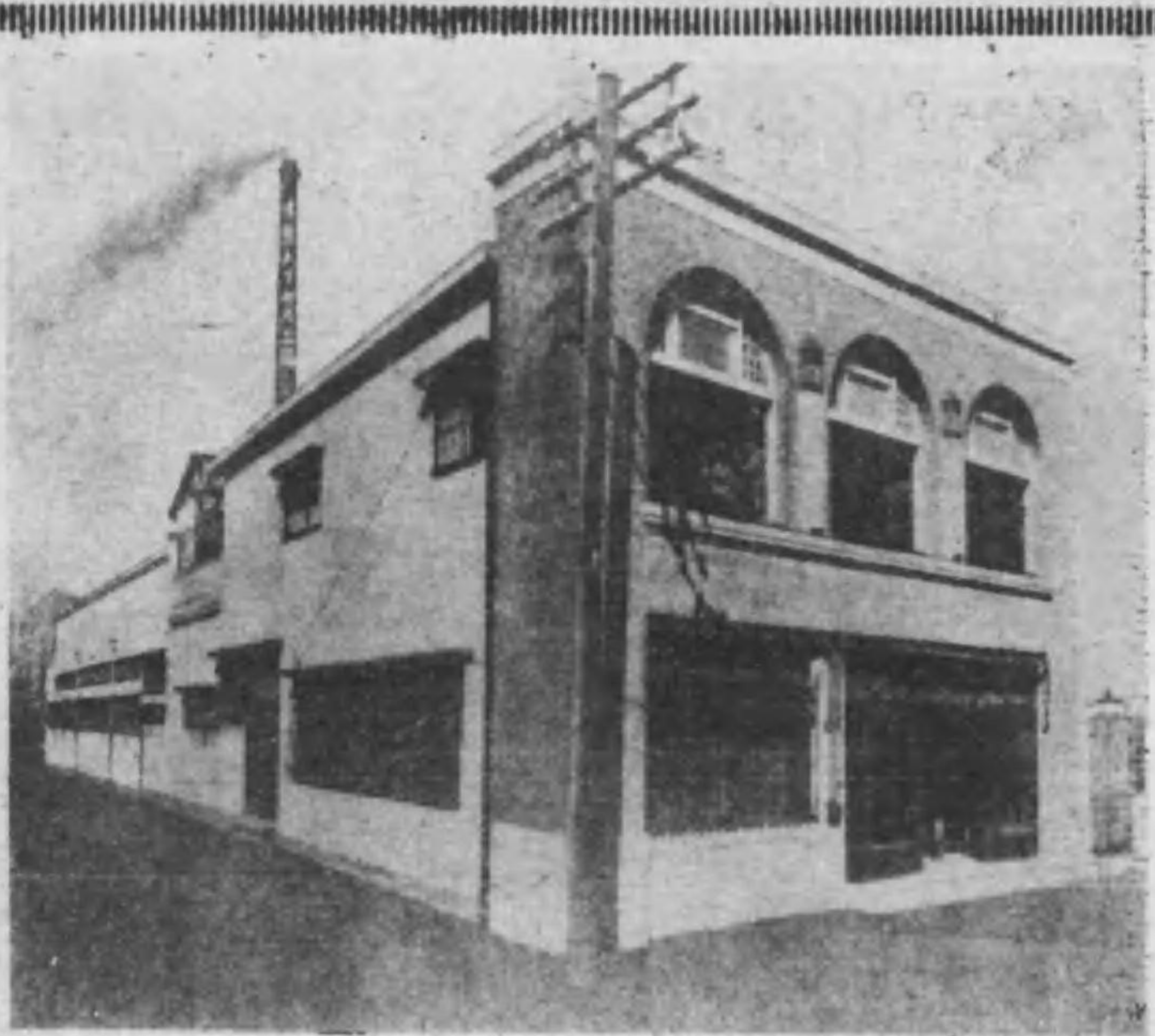


な便利御 一本日は物買お

**白木屋**

橋本日本橋





セーラム式手袋製造

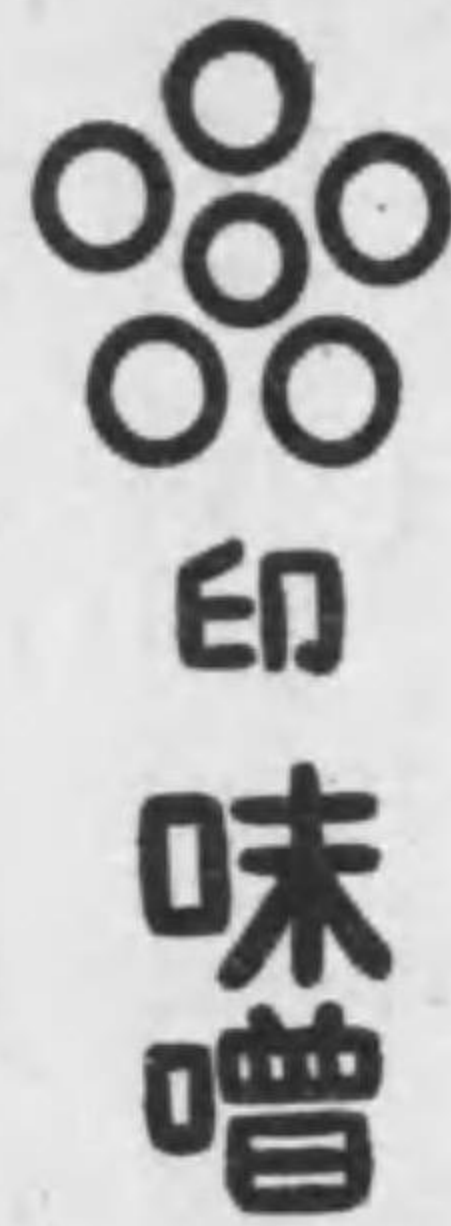
津熊手袋製造所

東京市浅草区小島町七十三  
電話浅草七一一八番

婦人子供服製造卸



ブルーバード印



味噌印



醤油印

醸造販賣



合名会社

坂上商店

東京市小石川區指ヶ谷町  
電話小石川七五六一・八五二  
工場・板橋・志村



# 營業品目

置時計 ウエストミンスター 時計 八日巻 日巻 各種  
 懐中時計 白金 十八金 クローム 側各種  
 腕時計 寶石入 白金 十八金 クローム 側各種  
 貴金屬 ダイヤ入指環 寶石入指環 帶留等  
 裝身具 ネクタイピン 東髪ピン 手釦 ナイフ等  
 銀器 洋食器 各種卷蓆入 蓆セット バツクル  
 コンバクト 其の他各種



東京市瀧野川區田端町西臺通

## 天野時計寶飾品株式會社

支店

大連市浪速町四丁目一八四番地(電話四九一四番)

電話小石川(85)一〇〇二番五三九二番  
振替口座番號 東京一六六二二一番

東京市京橋區銀座西五丁目三番地十號

電話銀座 三八一〇番  
三八一一番

## 内外編物株式會社

東京販賣所

本社及蒲田工場 東京市蒲田區女塚町八百一番地

電話大森 一五六六番  
電話蒲田 四三二二番

大阪出張所 大阪市東區本町四丁目五七ノ一

電話船場 一四五六番

名古屋工場 名古屋市中區鎌田町二丁目八番地

電話南(6) 八二〇番

札幌出張所 北海道札幌市北二條西四丁目一

電話札幌 一三四六番

# LES PARFUMS DE COTY

佛蘭西コティ香水・化粧品

總販賣代理店

米國ベプリテント總販賣代理店  
 米國ボンドクリーム會社代理店  
 米國リチャードハドナット會社代理店  
 獨逸オドール總販 代理店  
 獨逸バイエルスドルフ會社代理店  
 獨逸ドラレー會社 代理店  
 德國ペルーチクリーム代理店  
 德國アラツサール會社代理店  
 德國ロジャール會社總販代理店



ポンジーコロイドミルク總發賣元・歐米化粧品雜貨直輸入卸

## 岡本信太郎商店

東京市京橋區寶町三丁目七番地・電話京橋四三一三番・振替東京二六四三一番





專・賣・特・許

Yヨット・シルバ  
Yヨット・メーク・ライト

美術金屬・高級硝子  
莖セツト・灰皿・菓子皿  
花生・文房具・ライター  
置物・電氣スタンド・各種記念品

合資社 大和金屬器製作所

東京市本所區向島二ノ一  
電話墨田(74)八三八番

大阪出張所

大阪市東區北久寶寺町四ノ二〇  
電話船場一六五七番

神戸出張所

神戸市八幡通四ノ五七  
電話葺合五三四一番

工場

東京市葛飾區本田川端町三番地  
電話墨田(74)三二五番

# 各 種 工 品 製 一 般

發 賣 元

株式會社

大和護謨製作所

東京市神田區富松町四番地

上海支店 上海四川路一二六街二一號  
大阪出張所 大阪市東區北久太郎町一丁目  
電話船場二九九二番

電話 一五〇三七、五〇三八  
浪花 一五〇三九、二七〇五  
振替 東京 一三〇〇三  
第一工場 東京市葛飾區本田川端町一丁目  
電話墨田 三〇四二七  
第二工場 東京市向島區寺島町二丁目  
電話墨田 二〇〇六四

# VANCO

製造販賣品目

萬古二色シャープペンシル  
萬古高級鉛筆  
萬古高級萬年筆

本舖 江藤株式會社

大阪市東區淀屋橋

電話本局 長四七八番  
一三三六番  
一三三七番  
一三三三番  
振替 大阪 六二五〇〇番  
支店 東京市神田區金澤町四  
電話下谷 五九三七番  
振替 東京 六八〇六〇番  
出張所 江藤株式會社大連出張所  
大連市山縣通一五八番  
(滿洲土木建築協會ビル)  
電話 二二二三四三番





株式 高島屋  
東京店

東京市日本橋區通一丁目五番地  
敷地面積 一〇八六、〇八〇坪  
建築面積 九三六、七九六坪

第一階	一、〇四一、二六〇
第二階	一七一、七五七
第三階	九一五、七四〇
第四階	九三六、七九六
第五階	七四九、三六四
第六階	八八九、七六八
第七階	八八九、七六八
第八階	八六〇、二二一
屋上階	八五六、四七三
計	七四八、八〇二
	七三五、一四五
	九一、七〇七
	八、八八六、八〇二坪

日本百貨  
店商業組  
合加盟店

國華オーバ發賣元  
T N M 印肌衣製造發賣元  
瑞西エンブルロイターズ直輸入

スヨカ  
ハンカチーフ  
ガレキ  
セーター

毛田名網商店

工場  
東京市京橋區横町一丁目七  
電話京橋 二六八〇番  
府下大井町寺ノ下  
電話大森 二七八番

SHIP BIRD BRD.  
サスペンダー、ガーター、バンド



坂本健次郎商店  
東京市芝區金杉二丁目七番地  
電話三田(45)三七七二番  
銀座口座 東京五〇〇四〇番





村松 重雄 重役



川勝 義支郎 支那人



小川 支郎 支那人



小澤 支郎 支那人



### 高島屋日本橋店

東京新名物の一として出現した高島屋日本橋店は、  
總延坪九千坪弱で、今日の大百貨店が一萬坪以上を  
以て社会通念とされてゐるに對して必ずしも失なり  
とは云ひ難いが、其の進歩的な凡ゆる最新設備を凝  
らした新装振りは、斷然他の追従を許さぬと稱する  
も溢美ではない。

### 概要

一萬五千餘坪の三越、一萬  
百坪の白木屋と肩を比べて、  
警へば、超弩級戰鬥艦に對す  
る装甲巡洋艦と云つた様な立

場にある高島屋日本橋店の、  
スマートにして尖鋭なる性能  
は、所謂「手頃な店」として  
充分に縦横の活躍を恣にし、  
大に一般は勿論、同業者間に

### 交通位置

注目的となつてゐる。

市電日本橋交又點を間近に  
控え、京橋より銀座に連る楔  
を打つたかの觀あるは高島屋  
日本橋店の絶大な力を示すも  
のと云へやう。其真下は地下  
鐵があり又地下街地下鐵スト  
アを経て白木屋への連絡も出  
來てゐる。東京驛八重洲口ま  
では歩いて數分、裏手は昭和  
通りの自動車疾走路あり、實  
に四通八達を中心に位する事  
は非常な強味である。

### オール高島屋 との關係立場

株式會社高島屋の本店名義  
は今尚ほ京都市島丸に在る。  
併し、營業の關係上から事實  
上の據は大阪と東京に二分  
された現狀である。尤も大阪  
南海店が一步先んじて開店し  
た爲めに、先づ總本據を其處  
に置いたのであるが、是より  
前に大正十三年に日本橋高島  
屋の大規模建築が計畫された  
當時に於ては、東京に本據を  
移す意圖であつた。  
而して十年計畫の日本橋店  
完成を見る一歩前に、突發的  
に南海店借款が成立して後の  
雁が先になつたので、今日に  
なつては東西に二大本據が出  
來た事になつてゐる。

### 統制及びスピリット

關東大震災後の復興に於て  
高島屋は甚だしく立後れにな  
つたが、恰も我國百貨店界の  
根本的大變革が急テンポに進  
行中であつた爲め、却て幸ひ  
な事には最新式設備を悉く完  
備する機會を與へられた高島  
屋日本橋店である。

第一條件に恵まれた高島屋  
は當然、商品の探擇と充實及  
び店員の精銳を揃へる事に全  
力を盡さねばならなかつた。  
先づ店員の精銳振りを發揮  
する爲には訓練は云ふまでも  
ないが、統制を充分に圖らね  
ばならぬ。統制を立てるには  
精神的に立脚する掌握方法に  
依らねばならぬとの見地に基  
き茲に「高島屋スピリット」

### 店員訓練と教養

の強調を必要とし、殊にはオ  
ール高島屋共通の精神を作り  
魂を入れる爲め、昨春日本橋  
高島屋開店をチャンスに川勝  
堅一氏を總支配人といふ新職  
制に置いて、三都に亘るオー  
ル高島屋を横に聯絡した統制  
をとらしむる事となつた。其  
の精神を要約すれば

高島屋スピリットを以て統  
制を圖ると共に教養に就ては  
特に細心の注意を拂ひ、非常  
な力を注いでゐる。

### 店員訓練

一般店員全體に對しては殆  
ど凡ゆる方法を以て店務の餘  
暇に訓練の機會を見出さうと  
努力してゐる。

國民的奉仕といふ光輝ある任務を理  
想として生きる百貨店、殊に高島屋  
の人々は、常に自ら愛に満ち、常に  
自ら潔められ、常に自ら感奮して情  
氣を去り、邪念を掃き、而して自  
己を強く保つ心懸である。  
換言すれば、高島屋店員は  
熱情を以て親切、機敏、聰明  
であり、且つ勇氣が溢れてゐ  
てお客様に「皆様の高島屋」  
といふ觀念を持つて戴く様に  
仕向け度いといふのである。

- 一、毎朝開店前の「朝の集り」
- 一、毎月月初の朝の集り
- 一、一月、八月等の閑散期に講習會を開設
- 一、機會毎に名士講話
- 一、女店員に應得的の情操教育の講演及講習

一、日曜日必ず支那人講話あり。  
等々の催しがそれである。  
毎朝開店前に各自部署に就く  
と擴張機により全店内に「高

島屋の「朝の歌」が放送され  
一同之に合唱して其日の仕事  
の始まりに於て覺悟と勇氣を  
つける事、毎月初の朝の集ま  
りは大概屋上に集合して先づ  
皇居を遙拜し、店歌合唱後に  
訓話がある。講習會は商品智  
識や接客法等を主とし、臨時  
の講話は課長部長級が擔當し  
女店員の情操教育は趣味の講  
演や希望者に習字や生花の實  
科を課する。其他商品智識週  
間や、接客週間や、算盤競技  
を催して修了者に證を授與し  
優秀賞を與へて獎勵す。

特に女店員訓練に就ては他  
店に例を見ぬ方法として、ス  
ボンサーと稱する先輩の指導  
員を設け一般女店員を各班に  
於て指導せしめてゐる。







# 設備工事

## 強電設備

電力は東京電燈日本橋及南船町變電所より天々一回線供給を受け、前者を後備、後者を常用とす。

## 配電設備

變電所を地階電氣室内及屋上電氣室内の二ヶ所に設置し、前者は第二階より第六階迄の負荷、後者は第七階より屋上迄の負荷に配電す。

## 備用發電及蓄電池

非常用として一五〇馬力、四氣筒形氣噴油「ダイヤル」機に直結して一三五・V・A高壓交流發電機を設備す。

## 電燈設備

寶島及事務室附器具一四四日日生型「バイペンダント」總數約二四〇〇個、其他特殊器具裝飾燈五五〇個、各寶島に約一千個の「ブラック」を設備す。

## 動力設備

冷凍機用五〇〇馬力、四五〇馬力高壓「モーター」各一臺其他低壓「モ

ーター」一七〇臺、九八〇馬力。

## 陳列室照明設備

各陳列室には「ボールドライト」及「フットライト」「スポットライト」「カラーマシ」等を設備す。

## 舞臺照明設備

第八階ホール舞臺には「ボールドライト」「フットライト」「アップバーホリゾン」」「ローアホリゾン」」「ストリップライト」を設け「ディンマー」に依り操作し、客席照明は「オートランス」に依る。

## 外廊照明設備

八階外部廊下部に特殊線種を設け溢光照明をなす。

## 弱電設備

## 電話設備

交換機は米國「オートマチックテレホン」會社製自動式私設交換機を七階に設置す、局線四〇本、私線二〇〇本を收容す。

## 客用公衆電話

第一階、第一階及第七階電話「ボックス」内に六個を設く。

## 電氣時計設備

時計を地階監視室に、兩面及片面子時計を各寶島に二個各階事務室一個宛、計四十六個を設備す。

## 火災報知機

手動報知機、地階監視室に消防警報通の發信機を、各消火栓上部に屋内發信機を設く。

## 自働報知機

能天式自動出火警報裝置を各階全設に亘り設置し、受信盤を地階監視室に設く。

## 備置擴大設備

屋上附無電室に受信増田機を設置し、各階寶島、食堂、其他に「ラウドスピーカー」を置き高聲電話用「マイクホン」を重設及地階監視室に設置す。

## 中央監視裝置

地二階監視室に監視盤を設け、火災報知機、電氣設備、電氣時計設置、運轉表示燈、監視信號「ステームアップローメーター」等の集中監視をなす。

## 衛生設備

## 消火設備

各階三ヶ所に配置せる消火栓總數三十三、各「ホース」一〇〇尺地階消火「ポンプ」並に屋上井水槽に連結す。消火「ポンプ」は自動的に運轉す。同一階正面兩側に「サイヤミーズコネクション」二個を設置す。

## 上水給水設備

市水道の供給を受け「タービンポン

プ」より屋上水槽に揚水し、各階洗面器、厨房、湯沸器、其他に給水す、水槽には「フロートスイッチ」を設け自動的に「タービンポンプ」を運轉す。

## 井水給水設備

井より「ボアホールポンプ」を以て砂沈澱水槽を経て貯水槽に導き「タービンポンプ」を以てプレッシャーフイルメーターを経て屋上井水槽に揚水し各階大便秘、小便器「スロップシンク」撤水栓、靴洗等の雜用に給す。

## 給湯設備

機械室に「タンクヒーター」を設け上水を攝氏八〇度に加熱し給湯管を以て各階洗面器、湯沸器器具「タンク」、厨房、浴槽等に供給し、何れも末端より返湯管を取出し、循環「ポンプ」を経て「タンクヒーター」に返湯す。

## 冷却飲料給水

冷却槽に於て攝氏三度以下に冷却せる飲料水を各階「ドリンキングフアウンテン」に給水し、循環裝置に依り過水せしむ。

## 排水設備

第一階以上各階排水は直接市下水道に放流し、一階以下排水は排水「ピット」に導き排水「ポンプ」を以つ

て、又雨水は「ルーフドレイン」を経て屋外下水に放流す。

## 衛生器具

陶器類は總て東洋陶器株式會社製一等品とす。

大便器九八、小便器六七、洗面器及手洗器一四〇「スロップシンク」一九「ロールリムシンク」二〇、「ドリンキングフアウンテン」一六、瓦斯湯沸器二〇を配置す。

## 真空除塵設備

機械室に設ぐる真空除塵機より四ヶ所に立上り各階にインレットバルブ「計四三個」を配置す。

## 暖房及換氣設備

## 直接換氣設備

本裝置は遠空式蒸氣暖房裝置とす、米國「ラヂエーター」會社製「レツド、フラッシュ、ポイラー、オイルバーニング」型（容積八八八平方メートル）三基を掲げ、各階事務室、便所、手洗所三階以上各寶島の一部に配置せる放熱器に配給す。

## 高壓蒸氣罐設備

池田式汽罐、水質式二二〇番型（容量蒸發量毎時五四五斤）二基を掲付、常用汽壓四斤の蒸氣を蒸壓裝置を経て給湯用「ストレージタンク」に送り、各階及第七階厨房内に給湯

す。

## 間接換房及換氣設備

機械室、電氣室及更衣室、店員食堂に對しては遠風送風裝置並に配氣裝置を施す。

地階及七階厨房、各便所、手洗所、浴室、蓄電池室に對しては排風機に依り換氣裝置を施す。

重油貯藏室に徑一八〇〇、長三三〇〇、容積九〇〇〇立の貯藏槽二臺を設備す。

## 温湿度調整裝置

本裝置は地階監視室、地階一階食堂、第一、二階寶島第三、四、五階特別室、第七階一般食堂、第三、四、五、六、八階寶島及七階食堂前廣間、第八階寶島、美術室に對しては調整裝置を第六階に設置し、其他の調整裝置は地階監視室内に設置するものとす。

各室に對しては夫々系統を七つに分し、自動調整機を附し、風導管に依り温度、湿度を調整せる空気を送風するものとす。

空氣取入口は一階北側空處に設置す。冷凍機、夏季に於ける右調整裝置に附隨して冷凍裝置を設備し全館冷房の特長を發揮す。









に移轉して、出張員は三十名位に増加してゐた。

たかしま屋には呉服部と賣場部と大別して二つの事業があつて、當時合名會社時代までは未だ一經營内にあつたが、後に株式會社組織となるに及び一は株式會社高島屋呉服店となり一は株式會社高島屋賣場店となつて今でも姉妹會社として西銀座に本據を構へてゐる。

### 三層樓の東京店

大正五年の春から京橋區南傳馬町一丁目（現存舊店舗の地）に三層樓の普請を始め、同年十二月一日からは新築たかしま屋呉服店東京店を華々しく開業し、茲に初めて店前商ひ即ち小賣業を開いた。村松善次郎氏は大正五年當初から東京店を主宰して、店員約百名を擁し、陳列式店前賣の最新式營業法で好評を博したるものがあつた。

### 尖端を行く百選會

京呉服の粹を抜く高島屋の呉服陳列が、好評を博するに



不思議はないが、その流行の尖端を行く百選會は殊に人目を奪ふ絢爛を以て東京人をも完全に魅了してゐた。

百選會の前身はア・ラ・モード陳列會である。明治廿二年飯田現社長は世界博覧の途に上り、フランスに於て當時流行した婦人服地「セルカ」を輸入して「本出しセルカ丸帯」を創製し、ア・ラ・モード陳列會を開いて一世の流行界を風靡した事に始まつてゐる。

### 千代田館假營業

大正十二年の關東大震災

### 建築變遷圖解 1

最初の東京高島屋

大正五年十二月一日竣工同時に開店した東京に於ける同社の最初の店前賣店で、當時三層樓の建物は可成り人目を惹いたものであつた。總延坪五〇坪外に附屬館一五〇坪従業員一〇〇名で盛業、震災に遭ふまで京橋の大通りに光

に遭ふて、さしもの三層樓も烏有に歸した事は云ふまでもないが、翌十月廿日から千代田ビル一三階を借りて開店し、是より前一方九月十五日から早くも高輪南町合宅を本據として盛んに出張販賣を行ひ、物資缺乏の東京市民に多大なる便宜を與ふると共に、高島屋の名聲は益々高まつた此時から、十人場となり、下足預りを發して一段の進歩を遂げた。

### 臨時假建築時代

燒失舊店舗跡にバラックを建設したのは昭和元年九月十日であつた。株式會社高島屋呉服店は大正八年八月創立當初資本金三百萬圓であつたが、同十四年七月資本金七百萬圓に増資した。



假建築とは云へ、三層樓當時の延五百坪に對し、今度は延一千坪となり、店員數も一躍五百五十名に及んでゐた。

### 新築計畫事情

復興建築が甚だしく遅れて漸く昭和八年三月竣工したに就ては事情がある。震災の翌年即ち大正十三年春に於て新築計畫は既に成つた。震災前までは、我國の大百貨店としての社會通念が大體五千坪程度に止まつたのに、災後急變して一萬坪を要求する様になつた。

### 建築變遷圖解 2

震災後の東京高島屋

舊館と稱して今では、仕入部の商品持込、整理所に充てられてゐるが、日本橋新築前まで營業店舗に使つてゐたものである。昭和元年九月十日竣工、木造ラス張り總二階建、一部三階、總延坪一、〇〇〇、外に別館約三百坪あり、當時従業員五五〇名

### 精銳の東京店

敷地一千百坪を得て、最新式科學の精銳を悉く具備する模範的な設備を以て、地下三層、地上八階、延八千八百餘坪の一大豪華新築を完成するまでには、前後實に十年の長い歳月を費されたのである。

### 工事工程概要

地 區 昭和五年七月一日起 工 昭和五年八月八日主體工事終了 昭和七年二月十七日竣工 昭和八年三月十七日人工延數 二十八萬九千五百人而して之に對する概算費用

同上西側の地に、コンクリート煉瓦部店新築竣工を告げ、百貨店式設備を整ふ。

大正五年十二月 東京市京橋區傳馬町に東京店を新築竣工開店す。

大正八年八月 資本金三百萬圓を以て株式會社高島屋呉服店を設立し、一切の營業を高島屋飯田合名會社より繼承す。

大正十一年十月 大阪市堺區長堀橋畔に地下一階、地上七層の近代式店舗新築竣工開店す

大正十一年九月 關東大震災にて東京店舖々商品共全燒の厄に遭ふ。

同年同月 東京市京橋區南傳馬町千代田生命館に東京店假營業所を開く。

大正十四年四月 資本金を七百萬圓となす。

昭和 年九月 東京市京橋區南傳馬町（舊店舗の地）に東京店假建築竣工開店す。

昭和五年十一月 商號を株式會社高島屋と改む。

同年同月 大阪市南區難波に大阪南傳馬店第一期營業を開始す。

昭和七年七月 同南傳馬店全館竣工開店す。

昭和八年一月 資本金を一千四百萬圓となす。

同年三月 東京市日本橋區通一丁目に東京店新營業所竣工開店す。

株式會社高島屋 10 箇 50 箇 ストア

昭和六年八月 大阪店所屬として、大阪市此花區茶園町六十二番地野田阪神停車場前に開設せしを初めとして漸次二十四ヶ所に營業を開始す。

昭和六年九月 京都店所屬として、京都市下京區四條河原町西入真町五十四番地に開設せしを初として漸次八ヶ所に營業を開始せり。

昭和六年九月 東京店所屬として、東京市淺草區東仲町一番地に開設せしを初として、漸次二十五ヶ所に及んで營業を開始せり。

以上三部の連鎖店合計五十七店を算し、逐次増加中の處、昭和七年秋、百貨店協會自製案により擴張を中止す。











三都高島屋  
東京 本橋  
大阪 長崎  
京都 波丸



お買物は  
清新百貨充實の...  
皆様の高島屋へ

御来店には...  
省線—東京驛八重洲口  
市電—日本橋又は通三丁目  
バス—日本橋高島屋前  
地下鉄—日本橋高島屋口  
高島屋の電話  
代表電話 日本橋(24)  
四一—一—一  
四一—二—〇番



橋本日・京東  
屋島高

日英佛伊專賣特許  
**富士防水**

工場 東京市蒲田區雑色町  
電話 大森 2312  
          蒲田 1213  
集荷所 東京市日本橋區室町四ノ五  
          電話日本橋(24) 3991  
出張所 横濱市中區太田町四ノ四八  
          電話本局(2) 4402  
京工 都場 京都市右京區太秦一ノ井町  
          電話嵯峨 575

東京市京橋區銀座三丁目二番地  
直輸卸商

三枝商店

高級メリヤス一般  
紳士婦人用セーター類  
紳士婦人洋装用雜貨  
婦人洋装肌着  
ジャジー製品  
ベビー用メリヤス製品  
手袋類

電話 京橋 一一一  
振替口座東京九一〇〇番  
          二一〇番  
          番番番





# 初喜草履

初喜履の特長……

- ……朗らかな履き心地
- ……軽やかな裾さばき
- ……静かに明るい幕間
- ……時雨のとも足袋の
- ……汚れぬおはきもの

初喜履の誇り……

高級美術草履製造販賣  
日本毛織特製和印アエルト全園發賣元  
スライム防水アエルト全園發賣元  
三井物産會社バナマ表關東一手發賣元

## 千代田商會

代表社員 川上銀之介

東京市神田區區廳前 丁目十番地  
電話 下谷(83) 一五〇〇八番  
振替口座東京 一〇三番

金屬・食器類  
硝子食器類  
ナイフフォーク類  
料理用器具類  
アルミニウム鍋類



洋風食器製造卸

## 三陽食器店

東京市日本橋區本町一丁目拾番地  
電話日本橋(24) 四〇五九番  
東京市本所區石原町二丁目二十五番  
電話墨田(74) 二〇五〇番  
硝子工場 東京市本所區菊川町二丁目

# あまの華

風味榮養家庭副食品



### 特徴

本品は多量のビタミンABC及カルシウム蛋白質  
脂肪含水炭素繊維を適量に含有しあれば、小兒老人  
體弱者の理想的營養品として諸醫家の御推薦を受け  
て居ります。故に御飯に振りかけて美味しく、お茶  
漬、味噌汁には殊に妙味があります。お子さん達の  
お辨當に至極重要、登山、ピクニック、旅行者の必  
要品でありますから、是非一度御試食を願ひます。

(日本通商醫學社發行推薦)  
定價二瓶 金貳拾圓

東京市京橋區區廳前八ノ五

發賣元 合名 有信商會

電話銀座四七八九番

工場 橋濱市鶴見區市橋町一七五七

各デパート食料日店にあり



一般デパート向高級品各種  
趣味人形フランス人形發賣元

オール日本の  
近代百貨店へ  
すばらしき  
フランス人形と  
激刺たる  
セルロイド製  
新品玩具を捧ぐる



## 田中セルロイド商店

東京市浅草區藏前片町一九(電停前)  
電話 浅草(84) 四四二七番  
振替口座東京 六六六九二番





株式会社  
**ほろ屋**  
 四谷新館三丁目七番地  
 創業 明治十年  
 設立 昭和二年  
 組織 株式会社  
 公稱資本金 三、〇〇〇千圓  
 拂込金額 一、八七五千圓  
 決算期 二月・八月  
 店舗所在地 新宿、鹽町、傳馬町  
 店舗總延坪 二、三〇三坪  
 従業員總數 五七九人

日本百貨  
 店商業組  
 合加盟店

東京帝國大學農學部  
 國內醫藥研究所監製

製造 東京・京橋二丁目  
 明治製菓株式会社

赤ちゃんの爲め  
**パロゲン**  
 国民の爲め

赤ちゃんの養育  
 素を含み幼児  
 がめきめき丈  
 夫になる  
 母乳用 固形粉乳  
 明治製菓株式会社監製

價目  
 半ポンド入  
 壹圓貳拾錢  
 一ポンド入  
 貳圓貳拾錢  
 三ポンド入  
 五圓五拾錢

「キングリチャード」ウキスキー  
 貯藏二十年

蘇蘭  
 精隨  
 「ベツクモア」ウキスキー

廉價  
 逸品

「ダンテ」ベルモット  
 新界  
 覇者

英國ヘンダーソン・エンド・ターンプル社元請  
 ウキスキー 關東代理店  
 伊國シー・テンセルモ社元請ベルモット  
 一手販賣元

赤ト白

東京・京橋木挽町五ノ四、豊玉ビル  
 電話 銀座(57) 八二六・一四九二





東京市

# ほてい屋

四谷區新宿三丁目七番地  
鐵筋コンクリート地下一層、地上七階建  
▼本店開業、大正十五年一月

## 歴代重役

- 取締役・店主 **西條清兵衛**  
昭2・12・21 昭5・7・16
- 荒木基助(初代) 取締役  
昭2・2・21—昭4・12・23
- 遠藤嘉兵衛 取締役  
昭2・12・21—昭6・10・10
- 堀 日文 取締役  
昭2・12・21—現任
- 荒木甚助(二代) 取締役  
昭5・2・3—現任
- 取締役・店主 **西條千代**  
昭5・8・20—現任
- 濱野津吉郎 専務取締役  
昭7・10・11—昭8・12・31
- 宮本 彦作 取締役  
昭7・10・11—昭7・5・31
- 藤田嘉四郎 取締役  
昭7・10・11—現任
- 田島直政 取締役  
昭7・10・11—現任
- 遠藤貞三郎 取締役  
昭7・10・11—現任
- 青木常太郎 監査役  
昭7・12・21—現任
- 廣 潮 監査役  
昭9・9・20—現任



ほてい屋本店各階床面積

階	面積 (坪)	備考
地一階	六八坪〇〇	(現在)
地二階	三〇八・一〇	(増築中)
一階	二八四・〇〇	
二階	二八四・〇〇	
三階	二八四・〇〇	
四階	二八四・〇〇	
五階	二八四・〇〇	
六階	二八四・〇〇	
七階	二八四・〇〇	
計	二、三三三・〇〇	

## 概要

震災後早くも新宿の将来に着眼した「ほてい屋」の進出は既に賢明であつた。新宿驛現在二幸の處に三越が出来るより十ヶ月も前に大正十四年一月開店して以來、着々地歩を固めて、今では隣りに新築伊勢丹、向に新宿三越の大敵を控えながら、格別憂慮する必要なき程に堅固な地盤を獲得してゐる。因みに上記の如く大増築進行中にて近く竣工の上は、スケールも倍大となり、一大飛躍をなす事。

## 沿革

1、創業時代  
店主西條巳之助氏が、四谷區麹町十三丁目現在第二魚菜市場のある地に、呉服屋を創業し、ほてい屋呉服店と稱したのほ明治十年であつた。

2、百貨店化  
二代目店主は素と青木竹次郎と稱したが、西條家に入夫として嗣子となり、西條清兵衛と名告つた。實直に經營して漸次盛業に赴いたが、時代の進運を洞察し且つ向側の「むさし屋呉服店」が百貨店化傾向を帯びて來たのに刺激され、新宿の前途に望を馳しつゝ、大正十五年十月現在店舗を新築するの英断に出で、断然百貨

## 3、株式組織

昭和二年十二月、從來の個人經營を捨て、資本金一百萬圓全額拂込の株式會社に組織を變更した。

昭和四年、金五十萬圓の増資を行ひ、資本金一百五十萬圓として第二期増築を行ひ現店舗を完成した。

翌五年、店主西條清兵衛不幸の死を招くや一頓挫の貌となり、次いで六年十月に到り専務取締役濱野津吉郎一黨の重役以下入店し、爾來大いに

## 4、第三期増築

擴張計畫を立て、焦慮を重ねたるも意の如くならず、中途昨昭和八年十二月三十一日限り濱野専務辭任し、目下内部陣容立直し工作中なり

是より前、新宿の繁昌頓にスピードを加へたると同業三越の新築及び伊勢丹進出計畫に對抗上、店舗擴大と内容充實の必要を痛感し、昭和八年二月四日臨時株主總會を開催して倍額増資を決議し、資本金三百萬圓内百八十七萬五千圓拂込済として第三期増築工

## 業態

先代店主西條清兵衛の没後、人氣の頓挫を來したると、濱野専務時代に及び急激に食料品に力を注ぎたる爲め業態の變化を見つゝ未だ徹底味を得ざりし爲め、業績著るしく低下し、目下進展の勢ひを示さず、一方増築中にて萬事過渡期にあるを以て意の如き業績を挙げ得ざる状態なれども、同店の顧客筋は呉服店以來案外堅固なヒイキ層を作つてゐるので、餘り遷延して伊勢丹に地盤を乗取られる事さへなくば近く増築完成後に於て一大飛躍的進展を見るべき氣運充分と見られてゐる。



西條店主

濱野専務

田島専務







